島根原子力発電所 耐震設計審査指針の改定に伴う
地質調査にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書

尾崎遺跡

2009年3月

島根県教育委員会
中国電力株式会社

序

中国電力株式会社では、平成18年に改訂された「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」に基づき、島根原子力発電所の耐震安全性評価を行うことになりました。

そのなかで、松江市美保関町下宇部尾地内において実施したトレンチ調査では、調査開始に先立ち、埋蔵文化財の保護および記録の保存を目的とし、埋蔵文化財の発掘調査を島根県教育委員会に委託のうえ実施しました。

本報告書は、その発掘調査の結果をまとめたものです。本報告書がふるさと島根の歴史を伝える貴重な資料として、学術並びに歴史教育等のために広く活用されることを期待します。

最後に、当社の地質調査にご理解、ご支援いただきました地域の皆様をはじめ、今回の発掘調査及び報告書の取りまとめにあたり、同教育委員会及びご指導ご協力いただきました関係諸機関の皆様に対し、深く感謝申し上げます。

平成21年3月

中国電力株式会社島根原子力本部
執行役員　島根原子力建設所長
柴　田　芳　昭

序

島根県教育委員会では、中国電力株式会社の委託を受けて、島根原子力発電所周辺の断層などの地質調査予定地内の埋蔵文化財の発掘調査を平成19年度に実施しました。本報告書は、発掘調査対象地である松江市美保関町下宇部尾地内の尾崎遺跡の発掘調査の結果をまとめたものです。

今回の調査では、遺構としては礎石・礎盤建物の柱穴が確認された他、主な遺物として墨書土器・転用硯・土錘などが多数出土しました。それらの資料から、役所などの公的施設や村落内の仏堂などの建物が存在していた可能性が考えられるなど貴重な成果を得ることができました。

本報告書が、ふるさと島根の歴史を伝える貴重な資料として、学術並びに歴史教育等のために、広く活用されることを期待します。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行にあたり、ご協力いただきました中国電力株式会社をはじめ、地元の方々並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

島根県教育委員会
教育長　藤　原　義　光

例　言

1．本書は、島根県教育委員会が中国電力（株）の委託を受けて、平成19年度に実施した島根原子力発電所　耐震設計審査指針の改訂に係る地質調査に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2．本書で報告する遺跡は次の通りである。

島根県松江市美保関町下宇部尾213-1，224　　尾崎遺跡

3．調査組織は次の通りである。

平成19年度　現地調査

［事　務　局］卜部吉博（島根県埋蔵文化財調査センター所長）、川原和人（調整監）、坂本憲一（同総務課長）、廣江耕史（同調査第３グループ課長）

［調　査　員］平石　充（同文化財保護主任）、濱岡宏行（同教諭兼保護主任）、小池康明（同調査補助員）

平成20年度　報告書作成

［事　務　局］卜部吉博（島根県埋蔵文化財調査センター所長）、川原和人（副所長）、赤山　治（同総務課長）、廣江耕史（同調査第３グループ課長）

［調　査　員］平石　充（同文化財保護主任）、濱岡宏行（同教諭兼保護主任）

4．発掘調査並びに報告書作成にあたっては、以下の方から有益な御指導・御助言・御協力をいただいた。記して謝意を表させていただく。

大橋康夫（島根大学法文学部）･赤澤秀則（松江市教育委員会）･中村唯史（三瓶自然館）

5．本書のうち、挿図中の北は測量法による第Ⅲ座標系Ｘ軸方向を指し、平面直角座標系ＸＹ座標は世界測地系による。また、レベル高は海抜高を表す。

6．本書で使用した第1図は松江市都市計画図（1/10000）を使用して作成したものである。

7．本書に掲載した写真は、平石が撮影した。

8．本書に掲載した遺物実測図の作成と浄書は、各調査員・補助員の他、佐々木知子、無川美知子が行った。

9．本書の執筆・編集は平石が行った。

10．註は各章ごとに連番を振り当該頁下に配置した。

11．本文・図版中の表記に用いた遺構略号は次の通りである。

ＳＤ：溝

12．本書の仕様は巻末に示した。

13．本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は島根県教育庁埋蔵文化財調査センターに保管している。

凡　例

(1) 遺物実測図の断面は、縄文土器、弥生土器、土師器は白ヌキ、須恵器を黒塗り、陶磁器を50％スミで示している。

(2) 出土遺物については、中期までの弥生土器を松本岩雄1992「出雲･隠岐」(『弥生土器の様式と編年山陽･山陰編』木耳社)、弥生後期～古墳時代前期の弥生土器･土師器を赤澤秀則1992「出土遺物･時期」(『南講武草田遺跡』鹿島町教育委員会)、古墳時代前期・中期の土師器を松山智宏1991「出雲における古墳時代前半期の土器の様相」(『島根考古学会誌』８)、池淵俊一2008「古墳時代中期前半の遺構・遺物に関する諸問題」『九景川遺跡』(島根県教育委員会)、古墳時代須恵器を大谷晃二1993「出雲地域の須恵器編年と地域色」(『島根考古学会誌』11)、奈良平安時代須恵器を足立克己･丹羽野裕1984「まとめ」(『高広遺跡発掘調査報告書』島根県教育委員会）の編年により記述している。

目　　次

第1章　調査に至る経緯…… 1頁
第2章　遺跡の位置と環境…… 2頁
　第1節　遺跡の位置と地理的環境…… 2頁
　第2節　歴史的環境…… 3頁
第3章　尾崎遺跡の調査…… 4頁
　第1節　遺跡と調査の概要…… 4頁
　第2節　A･B区の調査 …… 7頁
　第3節　C区の調査 …… 24頁
第4章　総　括 …… 33頁

挿図目次

第１図　尾崎遺跡　周辺の遺跡（Ｓ＝1/20,000）…… 2頁
第２図　尾崎遺跡　調査区位置図（Ｓ＝1/1,000）…… 4頁
第３図　尾崎遺跡　調査区全体図（S＝1/150）…… 5頁
第４図　尾崎遺跡　Ａ・Ｂ区調査区全体図（Ｓ=1/150）…… 6頁
第５図　尾崎遺跡　Ａ・Ｂ区調査区土層図（Ｓ＝1/80）…… 7頁
第６図　尾崎遺跡　Ａ区SD01実測図（S＝1/60）…… 8頁
第７図　尾崎遺跡　Ａ区SD01出土遺物実測図（S＝1/3）…… 8頁
第８図　尾崎遺跡　Ａ区SD02実測図（S＝1/60）…… 9頁
第９図　尾崎遺跡　Ａ区SD02出土遺物実測図（S＝1/3）…… 9頁
第10図　尾崎遺跡　Ａ区土器溜り１出土状況（S＝1/60）…… 10頁
第11図　尾崎遺跡　Ａ区土器溜り１出土遺物実測図（1）（S＝1/3）…… 10頁
第12図　尾崎遺跡　Ａ区土器溜り１出土遺物実測図（2）（S＝1/3）…… 11頁
第13図　尾崎遺跡　Ａ区遺構外出土遺物実測図（1）（S=1/3）…… 13頁
第14図　尾崎遺跡　Ａ区遺構外出土遺物実測図（2）（S=1/3）…… 15頁
第15図　尾崎遺跡　Ａ区遺構外出土遺物実測図（3）（S=1/3）…… 16頁
第16図　尾崎遺跡　Ａ区遺構外出土遺物実測図（4）（S=1/3）…… 17頁
第17図　尾崎遺跡　Ａ区遺構外出土遺物実測図（5）（S=1/3）…… 18頁
第18図　尾崎遺跡　Ａ区遺構外出土遺物実測図（6）（S=1/3，160:S＝2/3，161:S=1/1）…… 19頁
第19図　尾崎遺跡　Ａ区拡張区出土遺物実測図（S=1/3）…… 21頁
第20図　尾崎遺跡　その他遺構外出土遺物実測図（S=1/3）…… 21頁
第21図　尾崎遺跡　Ｂ区遺構外出土遺物実測図（S=1/3）…… 22頁
第22図　尾崎遺跡　Ｃ区調査区全体図（S=1/150）…… 24頁
第23図　尾崎遺跡　Ｃ区調査区土層図（S=1/80）…… 25頁
第24図　尾崎遺跡　Ｃ区SD04実測図（S=1/60）…… 26頁
第25図　尾崎遺跡　Ｃ区柱穴１実測図（S=1/30）…… 26頁
第26図　尾崎遺跡　Ｃ区大石１実測図（S=1/60）…… 26頁
第27図　尾崎遺跡　Ｃ区加工段１実測図・出土遺物実測図（S=1/60，遺物：S=1/3）…… 27頁
第28図　尾崎遺跡　Ｃ区加工段２実測図（S=1/60）…… 28頁
第29図　尾崎遺跡　Ｃ区加工段２遺物出土状況図（S=1/30）…… 28頁
第30図　尾崎遺跡　Ｃ区加工段２出土遺物実測図（S＝1/3）…… 28頁
第31図　尾崎遺跡　Ｃ区加工段３実測図（S＝1/60）…… 29頁
第32図　尾崎遺跡　Ｃ区土器溜り２実測図（S＝1/30）…… 30頁
第33図　尾崎遺跡　Ｃ区土器溜り２出土遺物実測図（S＝1/3）…… 30頁
第34図　尾崎遺跡　Ｃ区遺構外出土遺物実測図（1）（S＝1/3）…… 31頁
第35図　尾崎遺跡　Ｃ区遺構外出土遺物実測図（2）（S＝1/3　32:S=1/6）…… 32頁
第36図　尾崎遺跡と古代の島根郡（S=1/50,000）…… 35頁

表 目 次

表1 尾崎遺跡周辺の仏教関係遺物ほかの出土遺跡 …… 34頁
表2 尾崎遺跡出土墨書土器一覧 …… 36頁
表3 尾崎遺跡出土遺物観察表 …… 39頁

写真図版目次

図版１　１．調査前風景（南から）
　　２．調査前風景（北から）
　　３．Ａ区全景（南より）
図版２　１．Ａ区全景（北から）
　　２．Ａ区西壁土層（南側）
　　３．Ａ区西壁土層（北側）
図版３　１．Ａ区SD01検出（西から）
　　２．Ａ区SD01（西から）
　　３．Ａ区SD02（西から）
図版４　１．Ａ区土器溜り（南から）
　　２．Ａ区拡張区（東から）
　　３．Ａ区拡張区調査終了（北から）
図版５　１．Ｂ区全景（南から）
　　２．Ｂ区全景（東から）
　　３．Ｃ区全景（北から）
図版６　１．Ｃ区全景（西から）
　　２．Ｃ区東壁土層（北部分）
　　３．Ｃ区東壁土層（中部分）
図版７　１．Ｃ区東壁土層（南部分）
　　２．Ｃ区SD03検出（東から）
　　３．Ｃ区SD03（東から）
図版８　１．Ｃ区柱穴１（西から）
　　２．Ｃ区大石１（東から）
　　３．Ｃ区加工段１（東部分）
図版９　１．Ｃ区加工段１西部分検出（東から）
　　２．Ｃ区加工段１東部分（東から）
　　３．Ｃ区加工段１西部分（東から）
図版10　１．Ｃ区加工段西壁土層
　　２．Ｃ区加工段２遺物出土状況
　　３．Ｃ区加工段２床面検出
図版11　１．Ｃ区加工段２・３完掘
　　２．Ｃ区土器溜り１（南西から）
　　３．Ｃ区遠景（南から）
図版12　１．Ａ区SD02・SD03　出土遺物
　　２．Ａ区土器溜り（1）
図版13　１．Ａ区土器溜り（2）
図版14　１．Ａ区土器溜り（3）
　　２．Ａ区遺構外出土遺物（1）
図版15　１．Ａ区遺構外出土遺物（2）
図版16　１．Ａ区遺構外出土遺物（3）
図版17　１．Ａ区遺構外出土遺物（4）
図版18　１．Ａ区遺構外出土遺物（5）
図版19　１．Ａ区遺構外出土遺物（6）
図版20　１．Ａ区遺構外出土遺物（7）
図版21　１．Ａ区遺構外出土遺物（8）
図版22　１．Ａ区遺構外出土遺物（9）
図版23　１．Ａ区遺構外出土遺物（10）
図版24　１．Ａ区拡張区出土遺物（1）
図版25　１．Ａ区拡張区出土遺物（2）
　　２．その他遺構外出土遺物
　　３．Ｂ区遺構外出土遺物（1）
図版26　１．Ｂ区遺構外出土遺物（2）
　　２．Ｃ区加工段１出土遺物
　　３．Ｃ区加工段２出土遺物
図版27　１．Ｃ区土器溜り１出土遺物
　　２．Ｃ区遺構外出土遺物（1）
図版28　１．Ｃ区遺構外出土遺物（2）
図版29　１．Ｃ区遺構外出土遺物（3）
図版30　１．灰釉陶器
　　２．墨書土器
　　３．須恵器蓋の頂部沈線

第１章　調査に至る経緯

中国電力では、平成 18 年に改訂された「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」に基づき、耐震安全性評価を行うため、地質調査等を行うことになった。そのなかで、遺跡が所在する松江市美保関町下宇部尾地区において、島根原子力発電所耐震設計審査指針の改訂に伴う地質調査として、トレンチ調査を実施することが計画された。

これにより、平成 19 年 9 月、中国電力は、松江市教育委員会とトレンチ調査に係る埋蔵文化財に関し協議を行い、松江市教育委員会は埋蔵文化財についての分布調査が必要であるとの回答をした。同年 10 月､中国電力は、松江市教育委員会に調査地内の分布調査を依頼した。同年 11 月、松江市教育委員会では申請地内に周知の遺跡として、下宇部尾条里遺跡（県遺跡番号 I34）が所在することから、調査を実施したところ、トレンチ調査予定地の一部から奈良平安時代･古墳時代前期の遺物が発見された。

これを受けて、県教育委員会と市教育委員会で協議を実施、発見された遺跡については、下宇部尾条里遺跡と別な遺跡（尾崎遺跡）として新たに遺跡の発見届けを松江市教育委員会から提出することとし、本調査体制については、同年 12 月に県文化財課･埋蔵文化財調査センター･松江市教育委員会文化財課･中国電力の四者で協議した結果、島根県教育委員会が本調査を実施することに決定した。

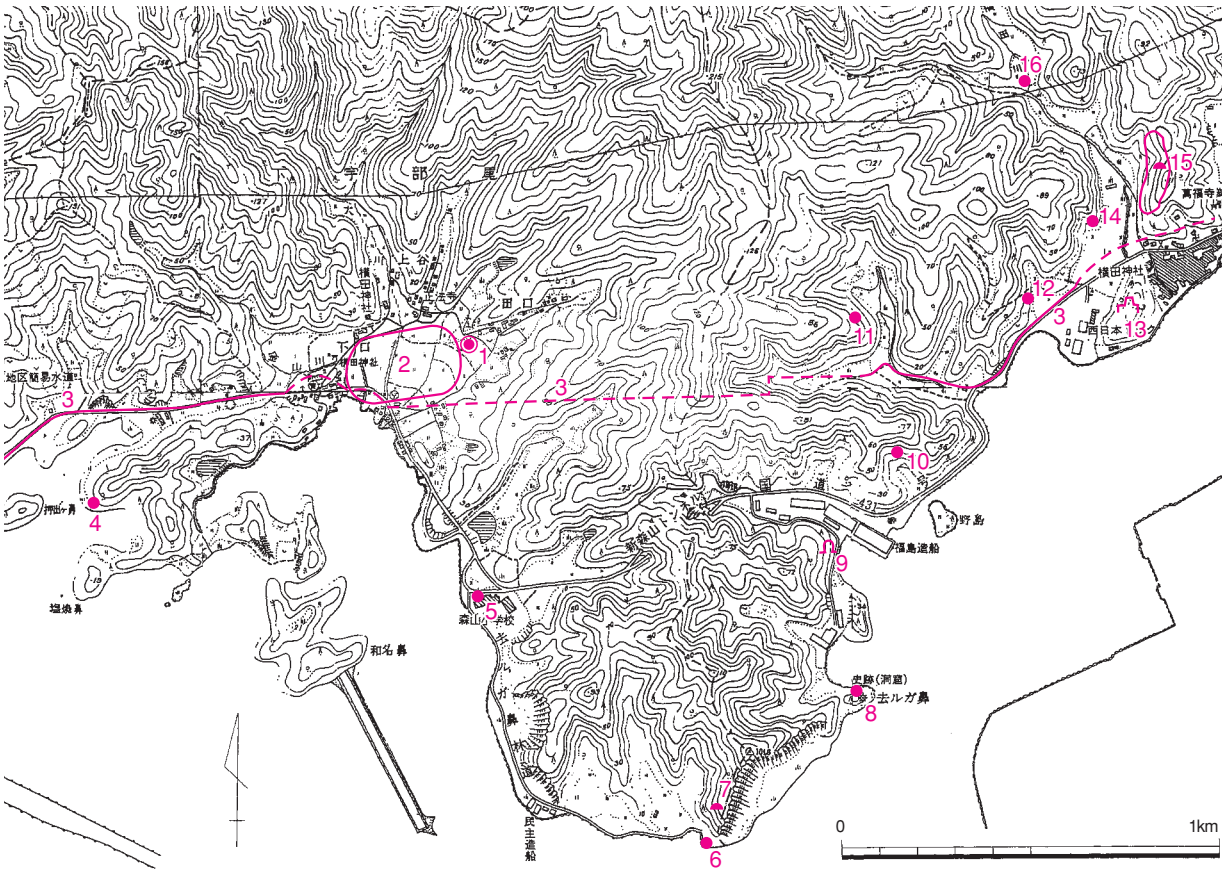
島根県教育委員会では、ただちに発掘調査を開始し､翌平成 20 年 2 月に現地の発掘調査を終了し、その後、発掘調査報告書（本書）を作成した。

第 2 章　遺跡の位置と環境

第 1 節　遺跡の位置と地理的環境

島根半島の北側沿岸部は、日本海に山地が迫り深い入り江になったリアス式海岸と呼ばれ独特の自然美を見せている。半島の西端東端の部分は、昭和 38 年に大山隠岐国立公園に指定されているほど景観が美しい。一方、半島の（美保関町）南岸部は山地が急斜面で落ち込み、中海に面し、単調な海岸線を形成している。人々の生活の舞台となった集落や古墳は、そうした内湾に注ぐ小河川沿いに形成された平地や周辺の小丘陵地に点在する。尾崎遺跡は、このような島根半島の南岸部に形成された遺跡である。尾崎遺跡は松江市美保関町大字下宇部尾 213-1 に所在する。

尾崎遺跡が所在する下宇部尾地区は、美保関町の南岸中央部で中海に面し、東は森山地区、西は手角地区に接している。近世の絵図に下宇部尾村の地名が見られる。明治 22（1889）年の町村制施行時から大字名として現在に至っている。尾崎遺跡は、下宇部尾地区の南岸沿いを走る国道 431 号線の中央あたりの北東側 300m に位置している。調査前は水田であった。また近くには、『出雲風土記』の島根郡に所在している横田社とする説もある横田神社がある。



1. 尾崎遺跡　2. 下宇部尾条里遺跡　3. 松江美保関往還　4.塩焼鼻遺跡　5. 早田遺跡　6. 池ノ尻遺跡　7. 含霊塔上古墳
8. サルガ鼻洞窟遺跡　9. 駒飯横穴　10. 野島遺跡　11. 関谷遺跡　12. 井尻遺跡　13. 横田山城　14. 向横田遺跡
15. 西平古墳群　16. 蕨峰遺跡

第 1 図　尾崎遺跡　周辺の遺跡（S ＝ 1/20000）

第 2 節　歴史的環境

調査地の周辺地域における遺跡の初見は、サルガ鼻洞窟遺跡、早田遺跡、池の尻遺跡、井尻遺跡と縄文時代前期に遡る。縄文時代前期から弥生時代と続いての遺跡が多くあることからも、この周辺で生活が営まれ続けていることが伺える。特にサルガ鼻洞窟遺跡は、山陰の縄文土器の後期後半の編年を論じられた基準的な遺跡で、国指定の遺跡である。主に縄文土器・石器・骨格器・装身具が見つかっており、特に石錘は 200 個以上と数が多い。近くにある池の尻遺跡は、縄文土器片、石器類など、主に前期のものが多く出土している。早田遺跡は、同じく前期と考えられる爪型文土器が採集されている。井尻遺跡は、晩期後半の石器が見つかっている。

弥生時代になると、単独で見つかっている遺跡もなく、先ほどあげた 3 遺跡が含まれる。早田遺跡では、中期のものと考えられる甕片、井尻遺跡では、中期後半のころの 3 条の凹線文の土器片、サルガ鼻洞窟遺跡では、複合口縁を有し、頸部に刺突列点文が施された後期の甕片が見つかっている。

古墳時代になると駒喰横穴や西平古墳群、含霊塔下遺跡（池の尻遺跡）があげられる。しかし、駒喰横穴や含霊塔下遺跡はその形や大きさがわかるのみで、遺物も未確認のことから時期も特定できない。西平古墳群は、四基の古墳が分布し、いずれも方墳であることがわかっている。

奈良・平安時代の遺跡では、向横田遺跡、野島遺跡、井尻遺跡、蕨峰遺跡があげられる。いずれも須恵器片が出土している。、向横田遺跡付近は、かつて前述した横田神社があった場所とも言われている。遺物は、須恵器の壺、甕、蓋などがある。出雲須恵器編年で七世紀後半ごろのものと考えられている。井尻遺跡、野島遺跡でもほぼ同年代の須恵器が見つかっている。井尻遺跡では、内面にかえりを有する蓋が、野島遺跡では、高坏、蓋、大甕、土師器甕が出土している。蕨峰遺跡からは、須恵器甕片が見つかっており、古墳時代末から奈良時代のごろだと言われている。中世や近世になると、蕨峰遺跡や関谷遺跡などの製鉄遺跡も上げられるが、少量の鉄滓の採集のため年代など不明な点が多いと言わざる得ない。

また、近世において美保関往還も整備された。特に下宇部尾から森山にかけての辻山堂越えは難所であったとされている。

（参考文献）

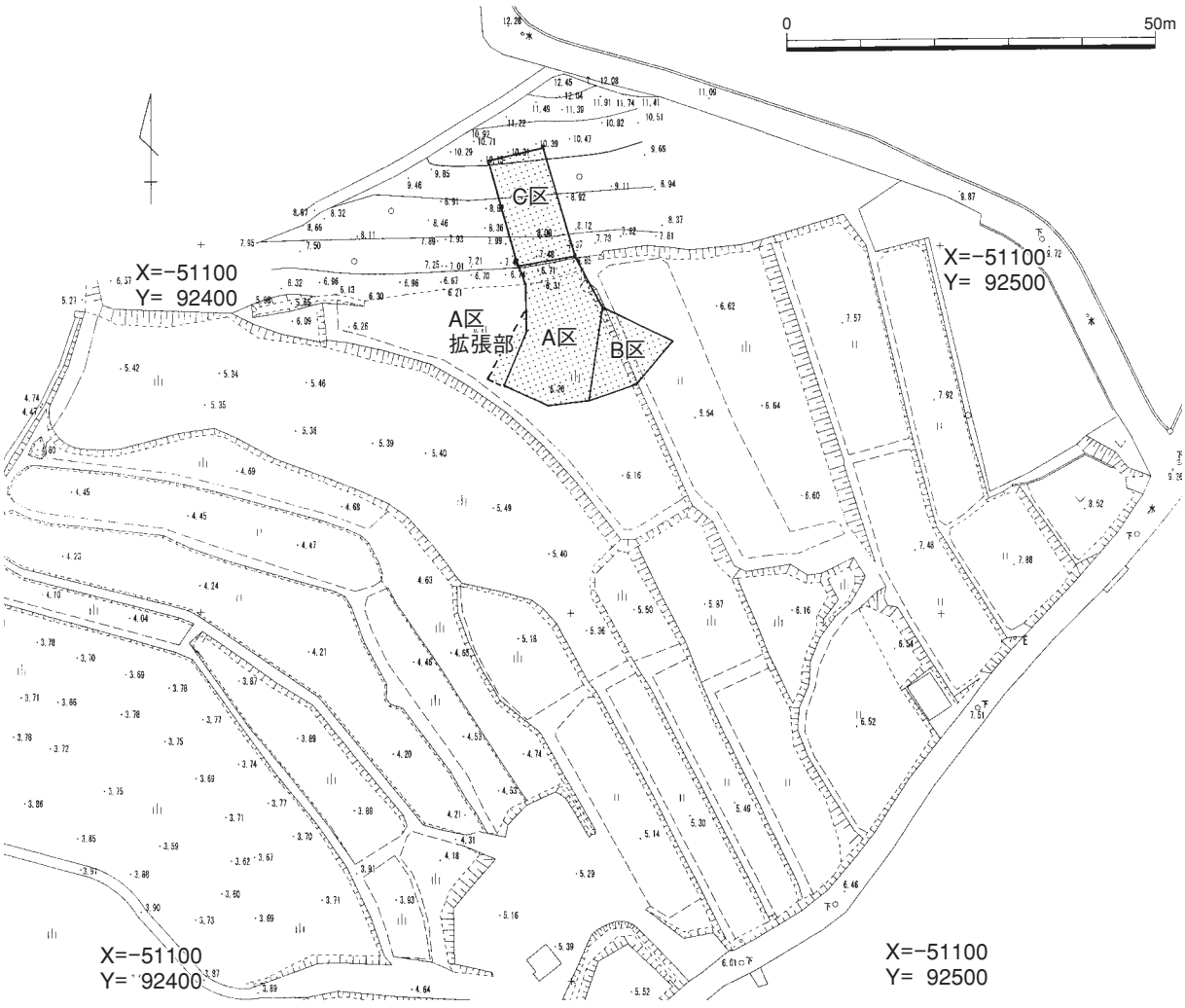
松本岩雄　1986 ぎょうせい『美保関町誌』
内藤正中編集 1979 角川書店『角川日本地名大辞典 32 島根県』
池橋達雄 2006 樹林舎『定本島根県の歴史街道』

第 3 章　尾崎遺跡の調査

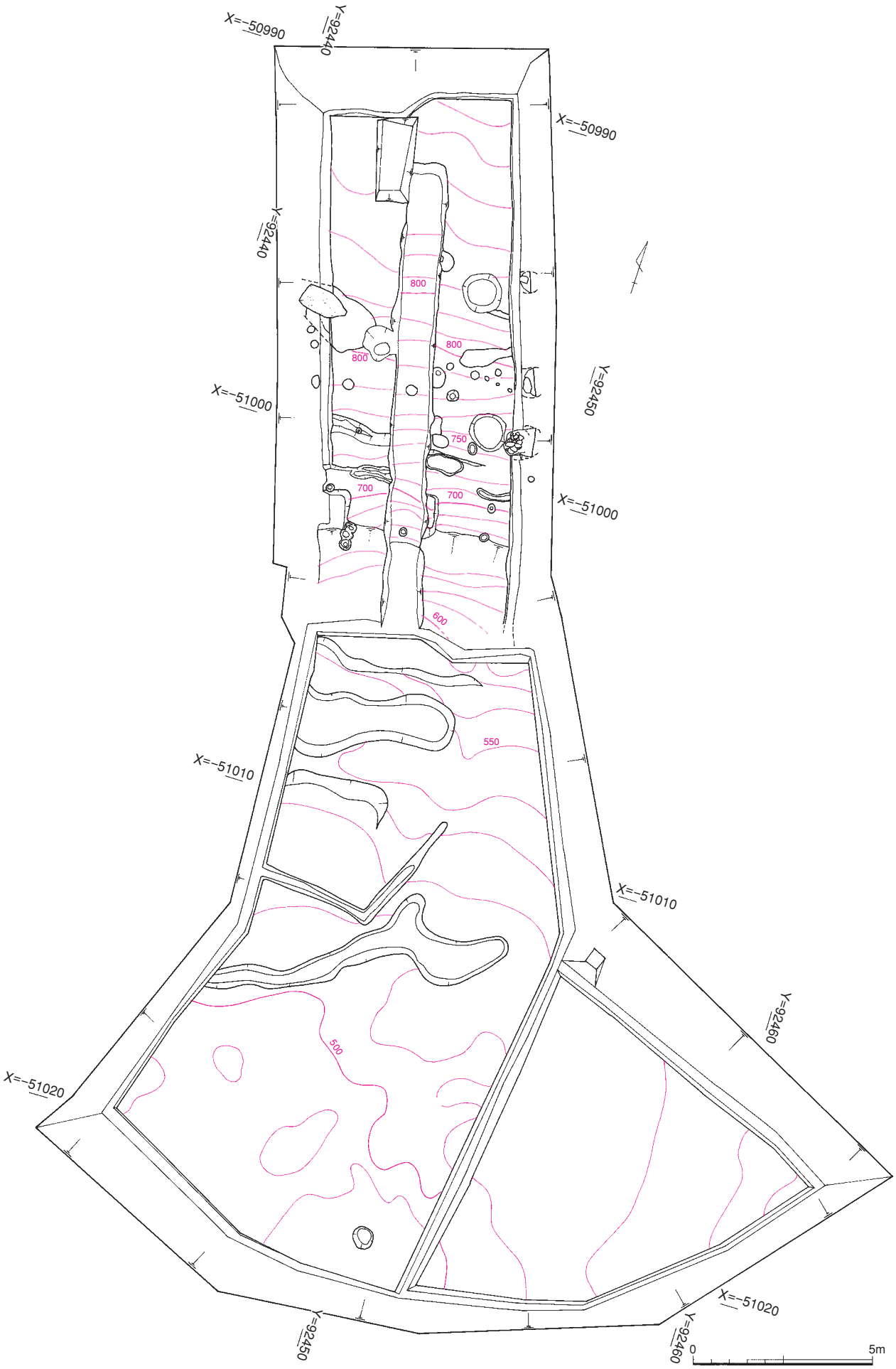
第 1 節　遺跡と調査の概要

尾崎遺跡は松江市美保関町下宇部尾 213-1、224 に所在する弥生～中世にかけて複合遺跡である。遺跡は中海北岸の複雑に入り組んだ湾の北側に位置する谷ならびに丘陵斜面に位置する。調査対象地は約 400 ㎡で中国電力による地質調査開始以前は谷部が水田・丘陵部が果樹園であった。遺跡の周囲は下宇部尾条里遺跡とされているが発掘調査の事例はなく、今回改めて調査地点を尾崎遺跡と命名し発掘調査を実施することとなった。

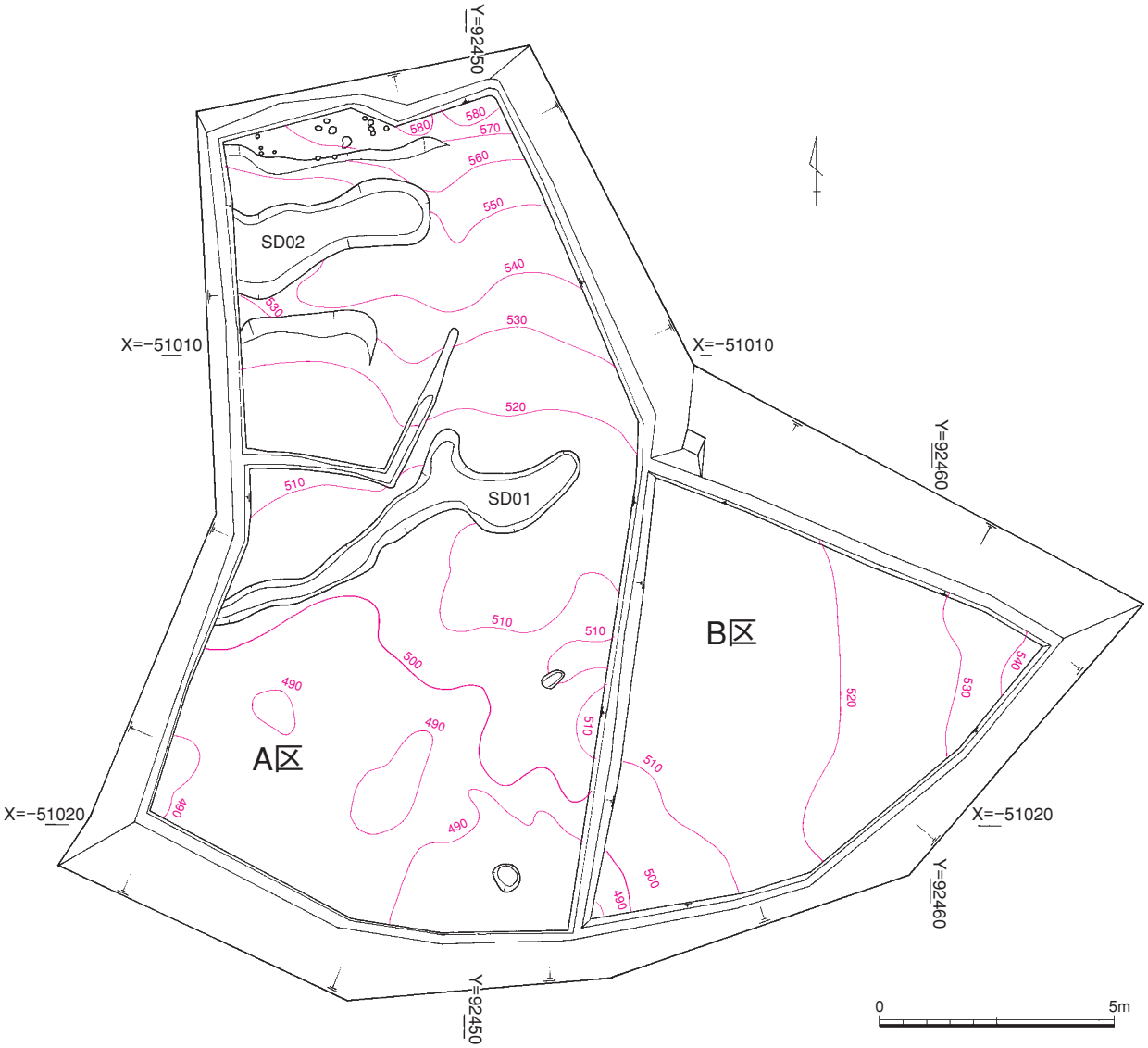
さて、発掘調査対象範囲は中国電力による島根原子力発電所の耐震設計審査指針の改定に伴う地質調査予定地にあたり、平成 19 年 11 月 16 ・ 19 ・ 28 日に松江市教育委員会による埋蔵文化財分布調査が実施され、トレンチにより本調査においてＡ区となる部分のトレンチから多くの遺物が出土した。これを受けて同年 12 月 5 日に松江市教育委員会文化財課・島根県教育委員会文化財課・同埋蔵文化財調査センターの 3 者による協議が行われ、県の埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施することとなった。発掘調査は 12 月 10 日に現地を視察、翌 11 日より開始、翌平成 20 年 1 月 8 日にかけてＡ区の調査を実施し、続いて 9 ・ 10 日にＢ区を調査した。この段階で奈良平安時代を中心とした多量の遺物が出土したため、 1 月 9 日に島根大学法文学部大橋康夫教授による調査指導を実施、丘陵



第 2 図　尾崎遺跡　調査区位置図（S ＝ 1/1000）



第 3 図　尾崎遺跡　調査区全体図（S ＝ 1/150）



第 4 図　尾崎遺跡　A・B 区調査区全体図（S ＝ 1/150）

部分について再度トレンチを行い遺跡の有無を確認する必要があるとの指摘を受けた。そして、丘陵部にトレンチを入れたところ、遺物・遺構が確認されたため丘陵部を新たに C 区とし、同 11 ～ 31 日にかけて調査した。2 月 1 日には現場を撤収いったん調査は終了したが、2 月 25 日に中国電力より地質調査工事中に A 区の東壁が崩落したとの連絡を受け、25 日・26 日に崩落部分ならびに地質調査の工事範囲に変更に伴って新たに発掘の必要となった部分の調査を実施した（この部分を A 区拡張部とする）。

調査の成果としては、谷部の A・B 区の調査で、古墳時代中期の溝状遺構（SD01）、奈良平安時代の溝状遺構（SD02）、須恵器を中心とする土器溜まり（土器溜まり 1）を検出した。土器溜まりからは水瓶・墨書土器が発見されている。一方、丘陵部の C 区は調査区上幅で 7.5m 程度と幅が狭く、建物などの全体像検出は困難であったが、礎石建物の柱穴と思われる柱穴 1、大型の石が据えられた土坑 1 や調査区東壁面に石を礎盤にした柱穴 2 箇所を確認した。またこれら建物の整地層から 8 世紀後半頃の土器溜まり 2 を検出し、さらに加工段埋土中からは 7 世紀後半の須恵器が出土している。

これらの調査結果を総合すれば、奈良平安時代の遺物が多くみられること、礎石・礎盤建物の存在、水瓶・托・墨書土器などが出土することから、調査区の周辺にいわゆる末端官衙や首長宅、それらに付随する仏教施設などの存在が推定される。

第2節　A・B区の調査

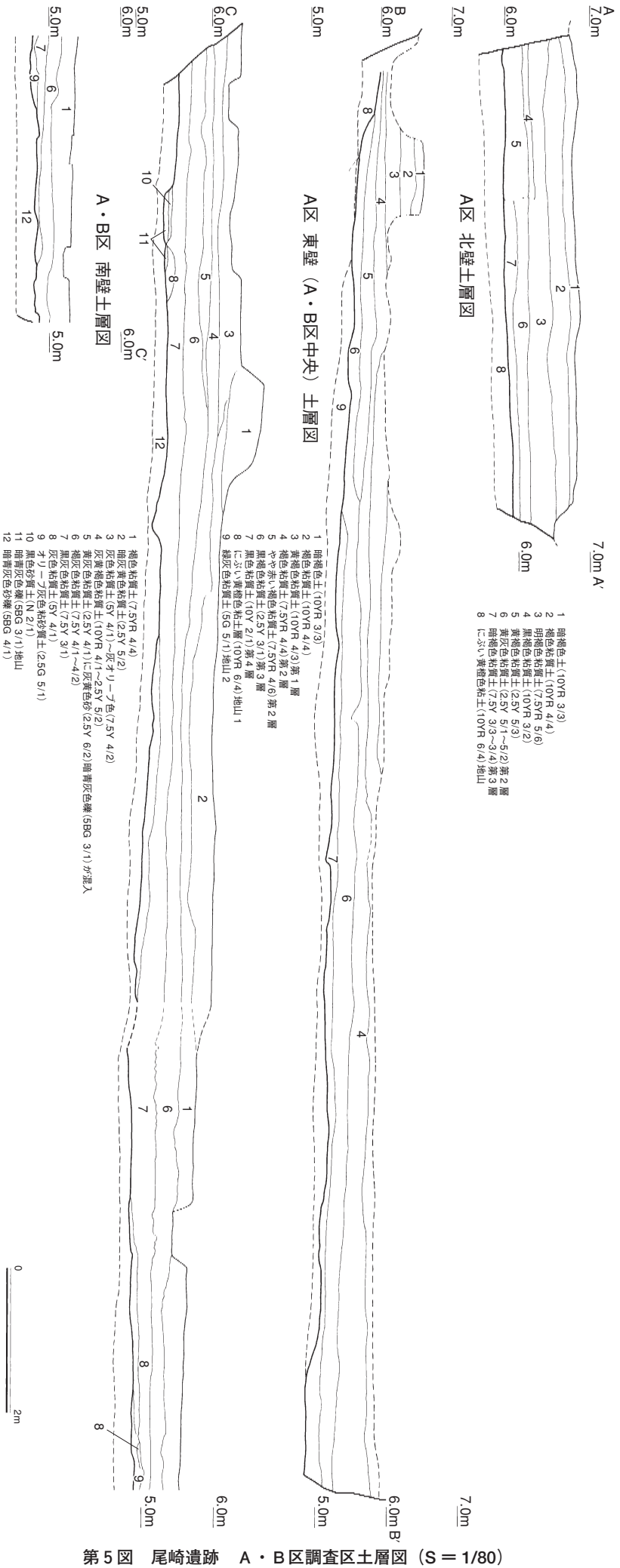
(1) 調査の概要

ほぼ同じ谷状地形に位置するA区・B区をまとめて記述する。

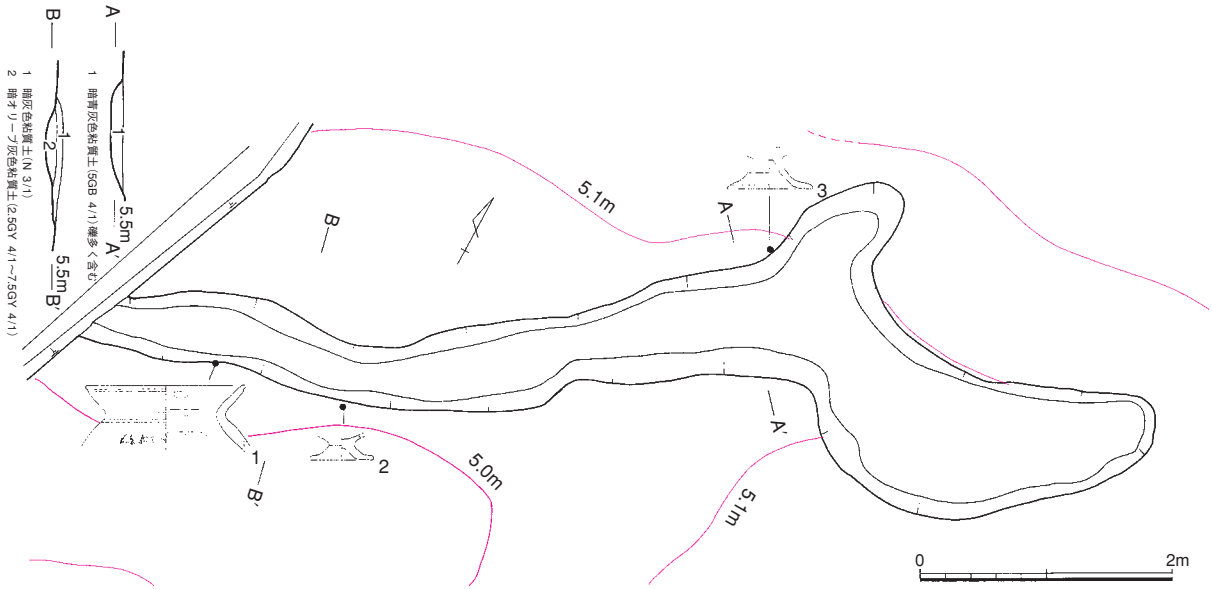
A区は最初に調査を開始した調査区で、調査前の地形は高低差のある2枚の水田であった。基盤層でみると、北側に向かって徐々に急になる南向き斜面であったことがわかる。

B区はA区の東側で、A区調査時点では東側に行くに従い遺物が少なくなることから遺跡はない可能性もあると判断し、全面的に調査する前にトレンチ調査を実施した。その結果一定量の遺物が確認されたため、全面的に調査を行ったが、遺物の量はA区と比較すると少ない。また、遺構も確認されなかった。

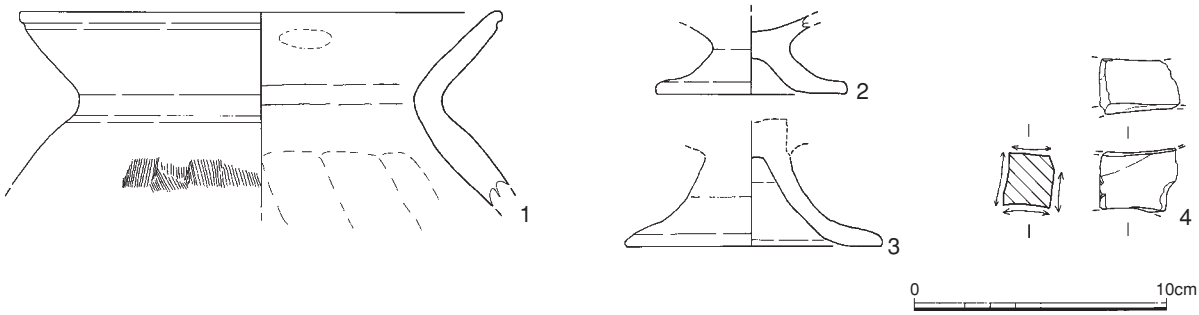
調査区の層序はA・B区とも共通で現表土（第5図中央土層図1層）・水田床土（同2・3層）の下に、褐色粘質土（同4層）・黒褐色粘質土（同6層）・黒色粘質土（同7層）からなる遺物包含層が存在した。これら、主として3層からなる遺物包含層については上層より、第1層・第2層・第3層と略称し、出土遺物に注記している。いずれの土層も粘土と言ってよいほどの粘性に富み、遺物を粘土中から取り出すのに大変苦労した。なお、3層に分けた遺物包含層であるが、遺物は上層ほど新しいわけではなく、弥生～中世の遺物が混在し、全体に別な地点からの流れ込みの資料と考えら



第5図　尾崎遺跡　A・B区調査区土層図（S＝1/80）



第 6 図　尾崎遺跡　A 区 SD01 実測図（S ＝ 1/60）



第 7 図　尾崎遺跡　A 区 SD01 出土遺物実測図（S ＝ 1/3）

れる。遺構は A 区で第 4 層の下で基盤層に堀込まれた溝状遺構 2 条を検出している。

これら遺物包含層の下の基盤層は、北側丘陵よりではにぶい黄橙色土であり、半分より南の谷中央方向では緑灰色の砂礫土であった。調査は遺物包含層の第 1 層から第 4 層まで人力による掘削を行った。

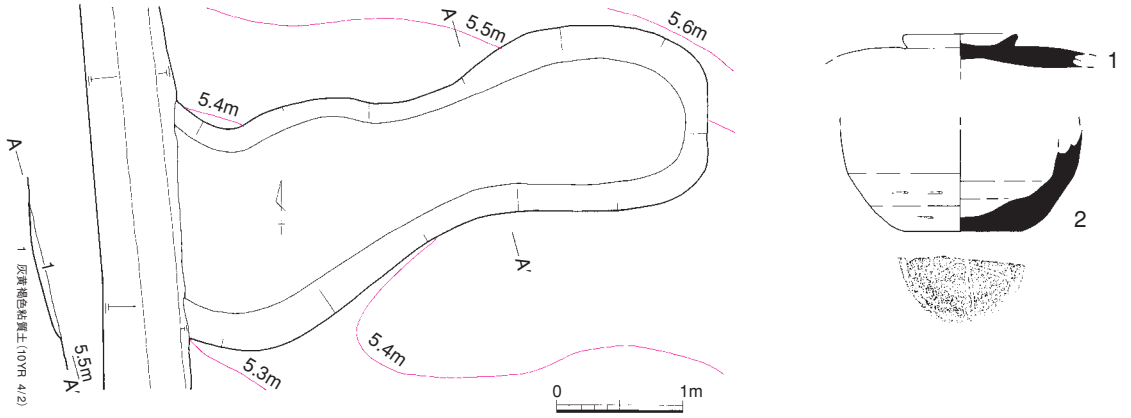
（2）溝

SD01（第 6 図）

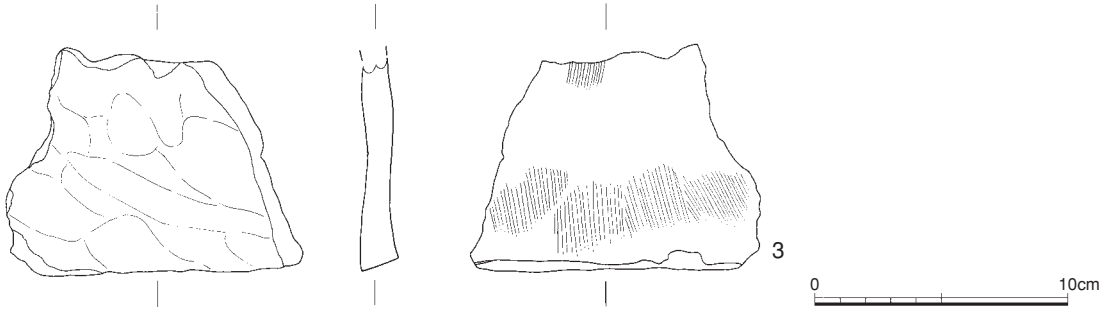
規模と形態　A 区中央西よりで検出した溝状遺構である。幅は 1.2m 前後で深さは 10 ～ 15 ㎝と大変浅く、検出したものが人為的な溝の底部付近であるのか、あるいは一時的な流水痕跡など自然のくぼみであるのか不明である。調査時点では SD02 としており、出土遺物には「SD02」と注記されているが、調査の進展に伴い SD01 が遺構でないことが判明したので、繰り上げて SD01 とした。

出土遺物（第 7 図）　1 ～ 3 は土師器である。1 は単純口縁の土師器甕である。口縁部は直線的に外反し体部には縦方向のハケが施される。端部外面に若干段を設けて薄く引き出すような形状を呈している。古墳時代中期の資料であろう。2 は土師器低脚坏の脚部と考えられる。1 ㎜大の石英・長石を含みにぶい黄橙色を呈する胎土で、古墳時代前期の資料とみられる。3 は内面ケズリで坏部の外れた脚である。大型の低脚坏ないし全高の低い高坏の脚部とみられるが、胎土は 2 に類似して古墳時代前期の土器によく見られるものであり、低脚坏の可能性が高い。古墳時代前期の資料である。4 は棒状で 4 面に研磨痕のある砥石である。流紋岩製である[1]。

時期と性格　出土遺物中の最も新しい 1 から古墳時代中期と考えられる。性格は規模と形態にも記したように人為的な溝ではなく自然地形で、そこに土器が堆積したものである可能性が高い。



第 8 図　尾崎遺跡　A 区 SD02 実測図（S ＝ 1/60）



第 9 図　尾崎遺跡　A 区 SD02 出土遺物実測図（S ＝ 1/3）

規模と形態　A 区北西よりで検出した溝状遺構である。幅は 1.2 ～ 1.7m 前後で深さは 5 ～ 10 ㎝と大変浅い。よく締まった灰黄褐色粘質土が堆積しており、埋土からみると SD01 よりは溝らしいが、SD01 同様に検出したものが人為的な溝の底部付近であるのか、あるいは自然のくぼみであるのか不明である。調査時点では SD03 としており、出土遺物には「SD03」と注記されているが、遺構名称の繰り上げに伴い SD02 とした。

出土遺物（第 9 図）　1 ・ 2 は須恵器である。1 は輪状つまみを持つ須恵器蓋で外面はナデられている。高広Ⅳ A 期の資料である。2 は須恵器甕の底部で、外周にケズリが施される。3 は移動式竈の袖の部分と考えられる。外面にハケが施される。

時期と性格　出土遺物中の最も新しい 1 から奈良時代 8 世紀前半の遺構と考えられる。性格は不明である。

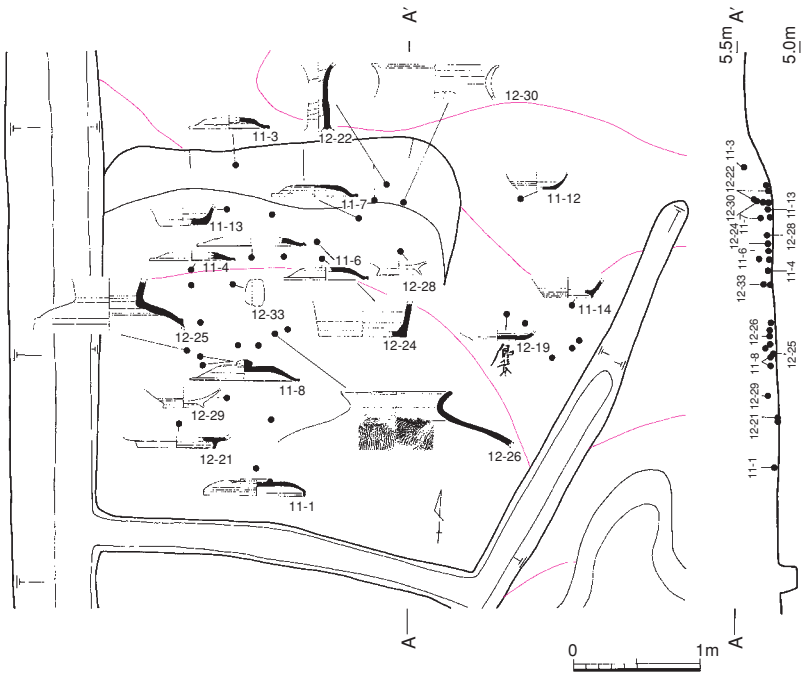
(3) 土器溜まり

土器溜まり 1 （第 10 図）

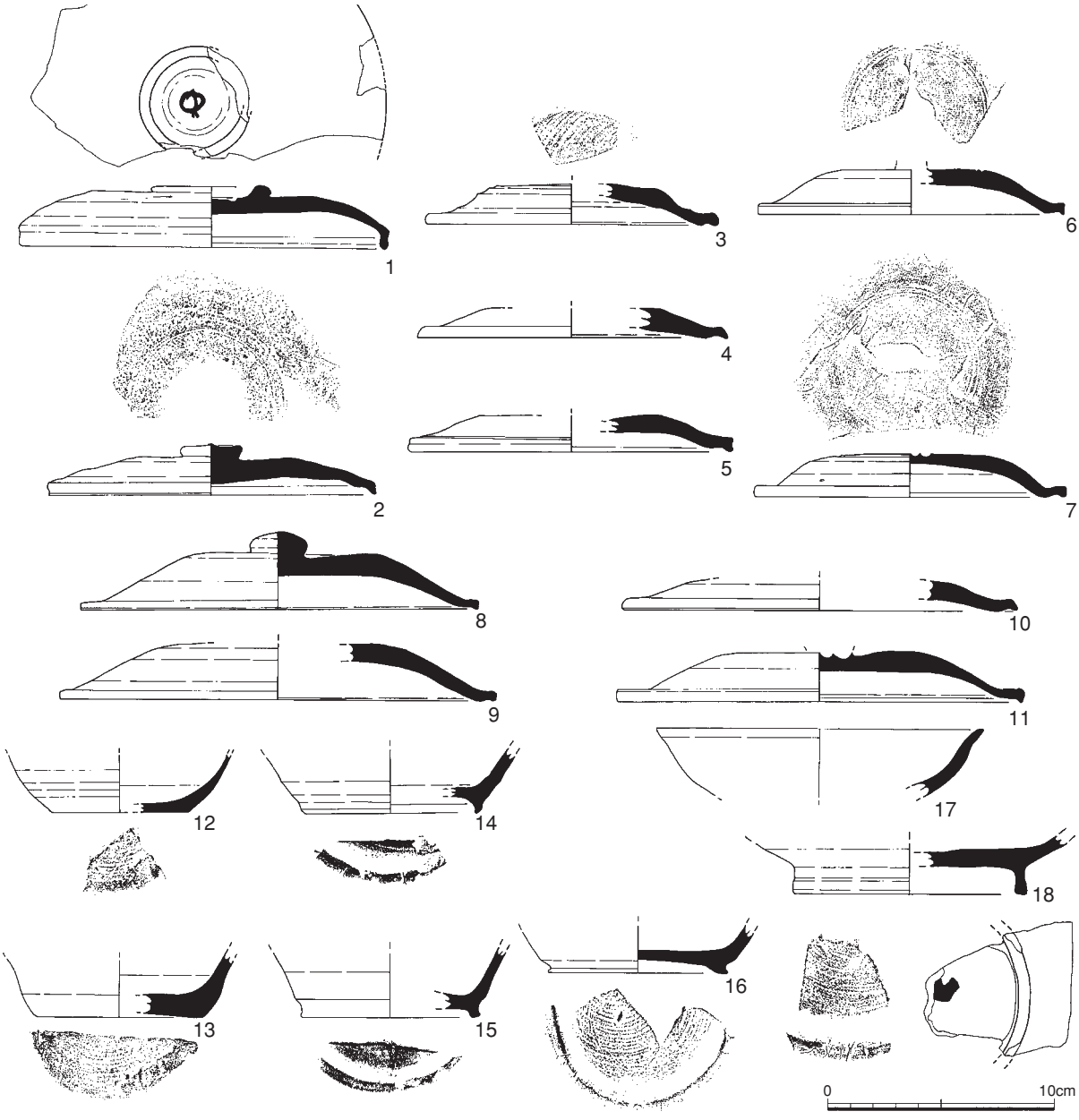
規模と形態　A 区中央やや北寄りで検出した土器溜まりで、基盤層が若干加工段気味に掘り下げられ、やや平坦になった部分の東西約 4 m、南北約 3 m から土器類がまとまって出土した。出土遺物の層位は調査区全体の包含層で言うところの第 4 層黒色粘質土（第 5 図中央土層図 7 層）に当たり、遺物は後述のように奈良平安時代須恵器を中心とする。

層位と出土状況　出土層位は黒色粘質土であるが、多くの資料は基盤層である緑灰色の砂礫直上に溜まる様に出土している。なお出土遺物には完形品はみられず破片資料が多いが、 1 ・ 6 ・ 7 ・ 16 ・ 19 ・ 26 など土器溜まり中で小片が接合できた資料が多い。

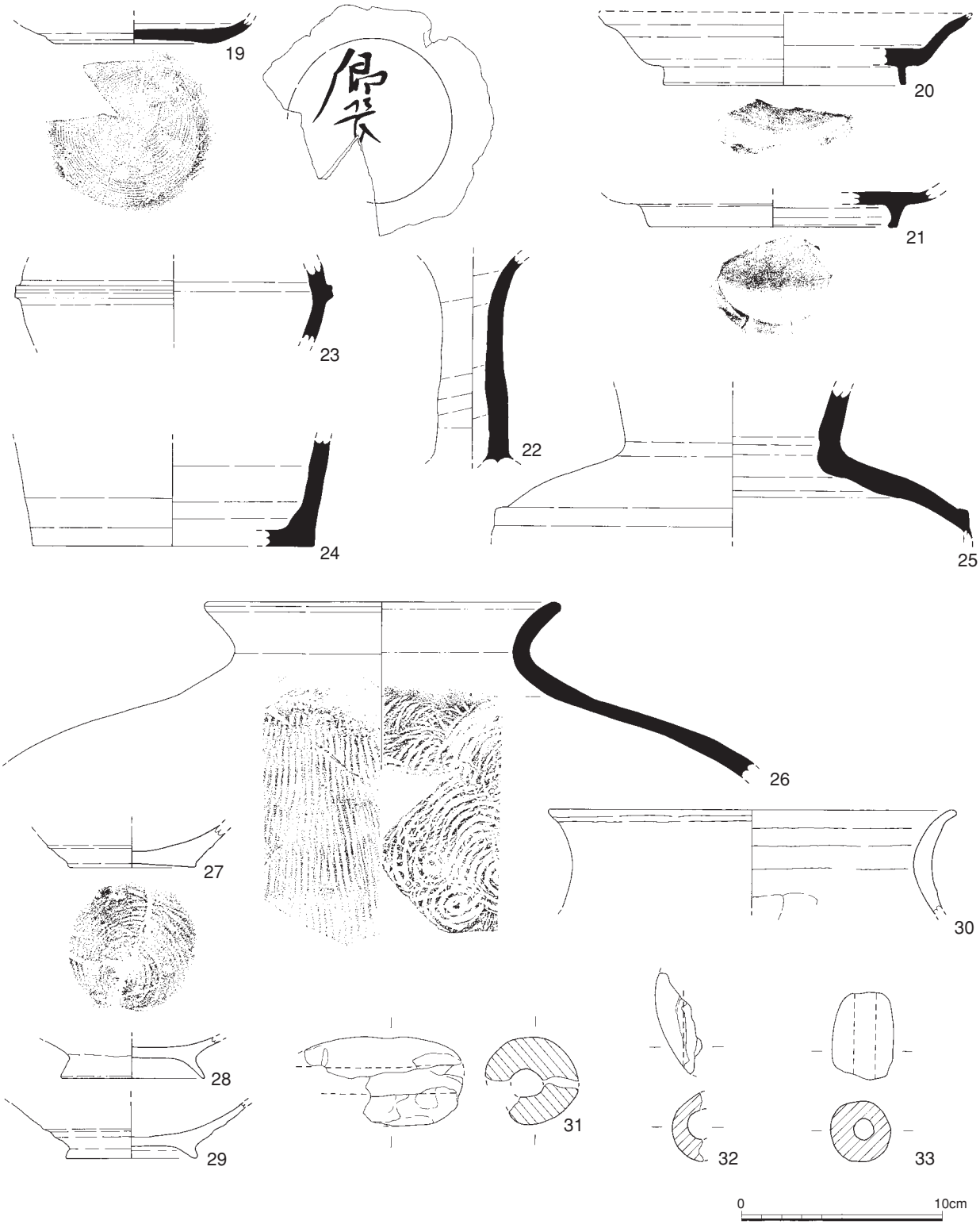
出土遺物（第 11 ・ 12 図）　出土遺物は奈良平安時代の須恵器・土師器であり、中心は高広Ⅳ B 期、8 世紀後半の資料である。1 は輪状つまみを持ち、端部が下端に折り曲げられている須恵器蓋である。



第 10 図　尾崎遺跡　A 区土器溜り 1 出土状況（S ＝ 1/60）



第 11 図　尾崎遺跡　A 区土器溜り 1 出土遺物実測図（1）（S ＝ 1/3）



第 12 図　尾崎遺跡　A 区土器溜り 1 出土遺物実測図（2）（S ＝ 1/3）

出土した蓋の中で最も古い形態を示すもので、頂部にナデの下に静止糸切り痕を残す。高広Ⅲ B ～Ⅳ A の資料で[2]、8 世紀初頭のものである。頂部内面は手で触れると平滑になっていることがわかる、明瞭な使用痕跡がある（ただし、転用硯としての使用を示す墨の付着はない）。また、頂部外面つまみ内側に「の」「虫」の字状の墨書が施される。天地逆とすると一般的な底部外面の墨書となるわけで、本資料が皿として利用された可能性を示すものである。2 ～ 11 は須恵器の蓋で、端部を屈曲させ下方につまみ出す一群である。全体の形状が判明する資料ではボタン状のつまみ・やや丸みを帯び

た宝珠状のつまみが確認でき、つまみのとれた資料からも同様のつまみが想定され、輪状つまみは確認できない。このうち 6 ・ 7 の頂部外縁の屈曲部際には、ケズリ調整によるものではない 2 条の沈線が確認できる。 2 の資料の外縁にも、ケズリ調整によって生じた可能性もあるが、沈線状のものが 2 条がみられる。 3 ・ 7 ・ 10 ・ 11 には頂部外面に回転糸切り痕が残る。12 は体部が丸みを帯びる無高台の坏である。底部回転糸切り。13 体部が直立する無高台の坏で、底部は回転糸切りである。14 ～ 16 は須恵器高台付坏である。いずれも小片であるが高台の位置が底部外周になり外面には回転糸切り痕を残す。高広Ⅳ B 期の資料である。17 は無蓋高坏片であろうか。18 は比較的高い高台を外周より内側に有する坏ないし皿の底部で、外面に未判読の墨書がある。19 は坏ないし皿で底部外面に「郷長」の墨書が施される。20 ・ 21 は須恵器皿である。底部回転糸切りで直立する比較的高い高台を持つ。高広Ⅳ A ・ B 期の資料である。22 は頸部が細く、口縁部が外反する長頸壺いわゆる水瓶の頸部である。粘土紐巻き上げ痕跡が残る。県内の類例は少なく、松江市堤平遺跡・山津遺跡・出雲市大井谷Ⅱ遺跡[3]での出土が知られているにすぎず、生産地近傍である山津遺跡を除くといずれも丘陵中に所在する仏堂・寺院の遺跡である。23 は突帯を巡らす壺類の肩部である。突帯を巡らす須恵器は渋山池窯跡・古曽志平廻田窯跡など高広Ⅴ期以降、 9 世紀代と推定されている窯跡からの出土が知られており、本資料も 9 世紀代のものであろう。24 は壺類の底部である。25 は短頸壺の頸部である。26 は体部最大径に比べて小さい口径で、単純口縁を持つ甕である。27 ～ 29 は土師器である。いずれも底部外面に回転糸切り痕を残す。27 は無高台で体部が直線的に大きく外反する資料。28 ・ 29 は高台を持つもので、全体的に摩滅が著しい。27 ・ 28 は大坪 3 号墳出土資料に類似し、10 世紀代と考えられる[4]。

30 は土師器甕である。31 ～ 33 は管状土錘である。31 は孔径 1.4 ～ 1.8 ㎝で長さも 8 ㎝近くになる大型の資料、 2 は孔径が同じく 1.4 ㎝程度の資料である。33 は孔径 1.0 ㎝、長さ 4.3 ㎝とやや短い。いずれも孔径 0.7 ㎝以上であり、袋網に使用された可能性のある土錘である[5]。

遺構の時期と性格　出土遺物の時期から、土器溜まりは主に 8 世紀後半に形成されたものであろう。また完形品はなく、かつ破片資料の接合するものが多いことから、破損した土器を廃棄した場所であろうか。

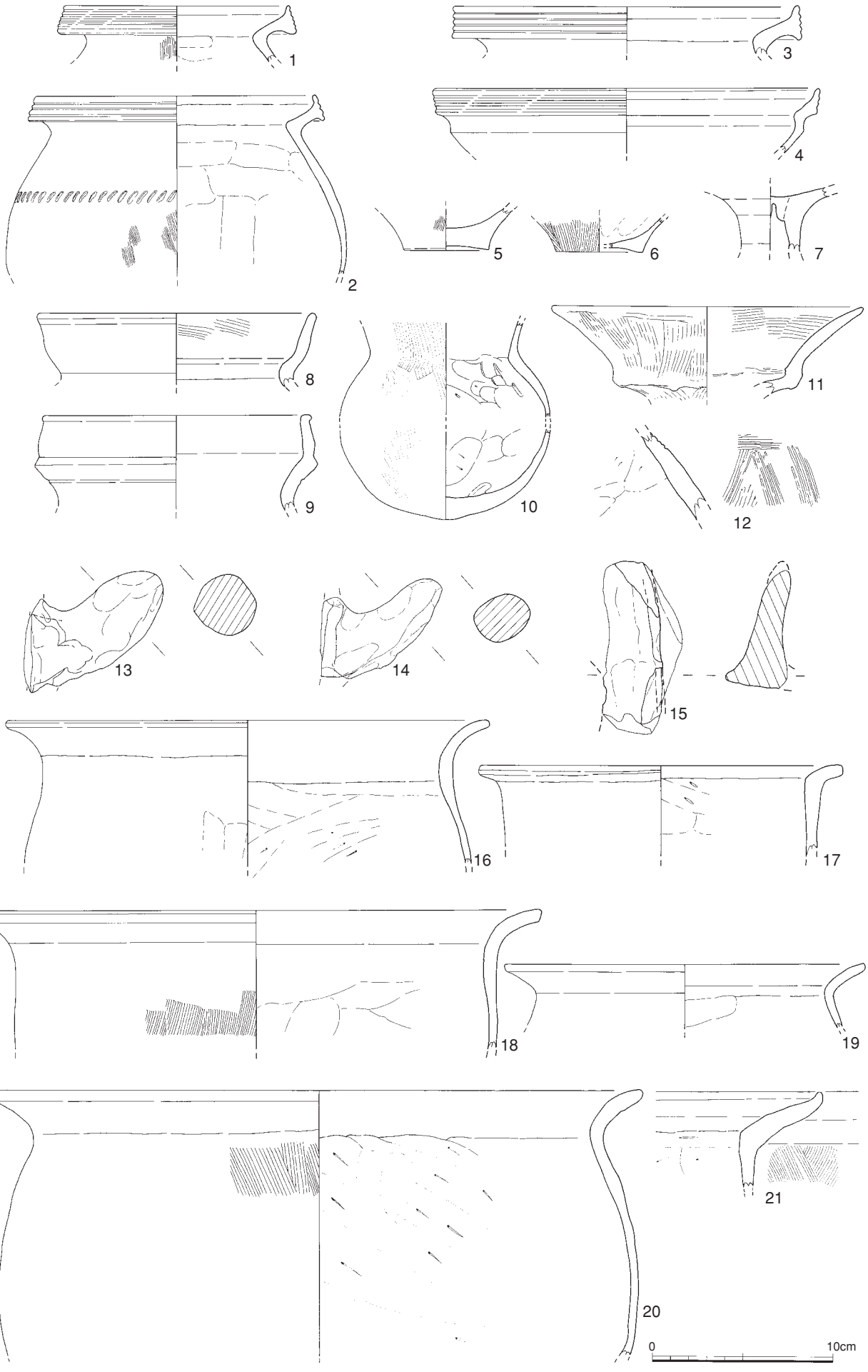
(4) 遺構外出土遺物

A 区遺構外出土遺物（第 13 ～ 18 図）

遺構外とした遺物で、第 2 ～ 4 層からまんべんなく出土している。位置的には先述土器溜まり 1 に含まれるものの取り上げ時に遺構外との扱いになってしまった資料もある。

1 ～ 6 は弥生土器である。 1 ～ 3 は口縁を主として上端側に拡幅、内傾させ複合口縁部に擬凹線文を施す甕である。1 ・ 2 はともに内面にケズリ調整が確認され、 2 は体部上半に連続刺突文（おそらくヘラ状工具によると思われる）がある。 4 は口縁部を複合口縁に作る鉢ないし高坏坏部である。いずれも松本出雲Ⅴ－ 1 様式・草田 1 期の資料と考えられる。5 ・ 6 は平底の弥生土器甕の底部である。外面ハケ・内面ケズリを施す。

7 ～ 12 は土師器である。 7 は円盤充填松山 β 技法で中心部に刺突を残す高坏である。 8 は複合口縁が痕跡的に残る土師器甕で、口縁部内側若干のハケを残す。 9 は同じく内傾する複合口縁が痕跡的に残る壺口縁部である。10 は小型丸底壺で、頸部・体部の間のくびれが少なく不明瞭な資料である。いずれも松山Ⅱ期・九景川様相 2 ～ 3 の時期の資料となろうか。11 は口縁部が広く外反する壺の口縁



第 13 図　尾崎遺跡　A 区遺構外出土遺物実測図（1）（S ＝ 1/3）

部で内面には横方向のハケ・外面には縦方向のハケが認められる。類例が少なく時期は不明であるが古墳時代前期頃と考えられる。12 は弥生土器の壺等の肩部と推測される資料である。内面ケズリ・外面に櫛書き沈線による山形文他が施されるものと推測される。内面ケズリが施される点からみて弥生後期頃の資料であろうか。13 ・ 14 は甑取手である。15 は移動式竈の庇部分である。

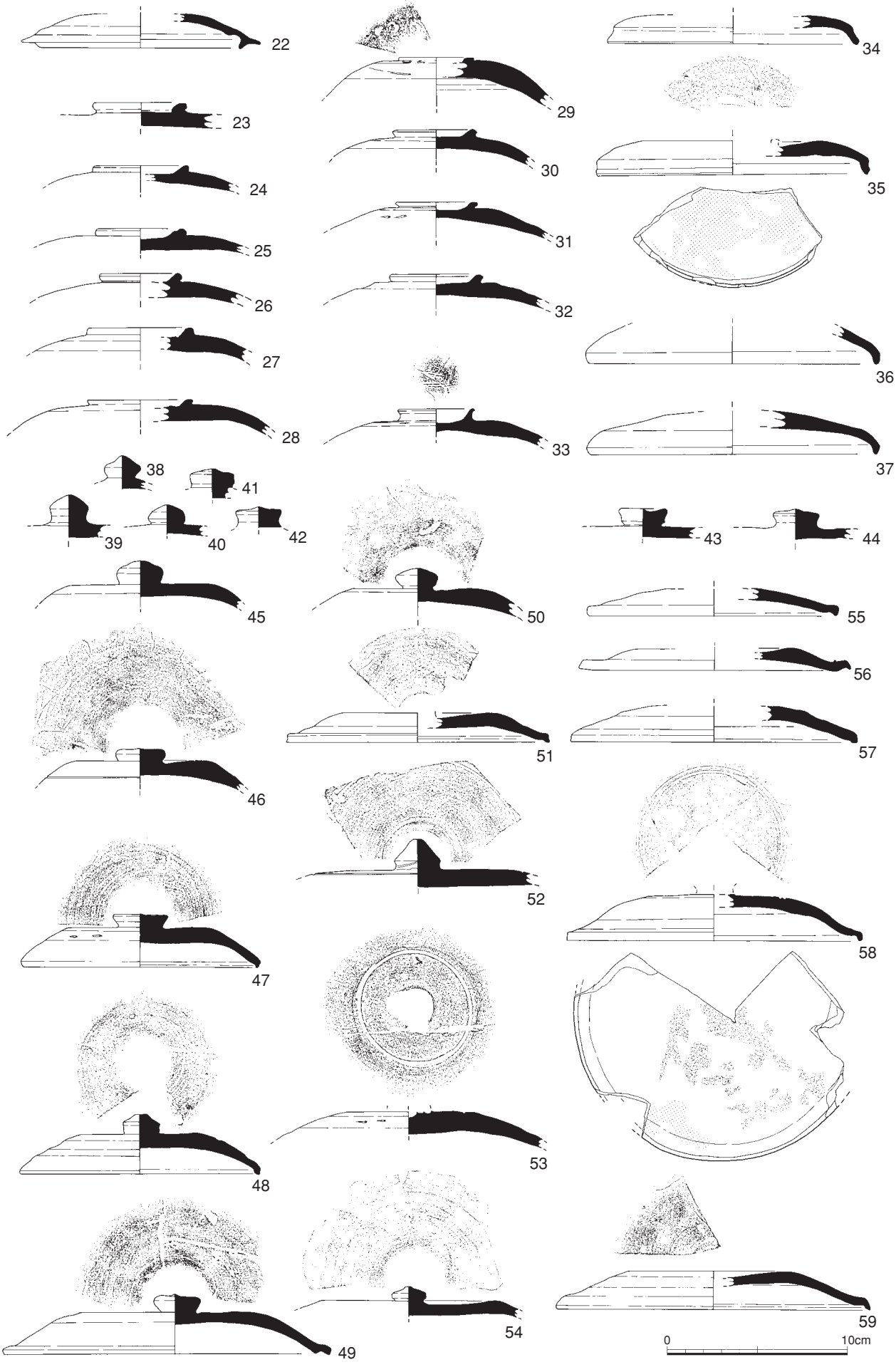
16 ～ 21 は土師器甕である。いずれも体部内面をケズリ調整とし 18 ・ 19 ・ 21 は外面にハケを施す。古墳時代後期以降の資料とみられる。

22 ～ 122 は須恵器である。22 は端部のかえりの反転した蓋である。復元底径は 13.4 ㎝とやや大型化している。高広Ⅲ A 期の資料で、 7 世紀後半の資料になろう。23 ～ 33 は輪状つまみを持つ蓋である。29 は頂部外面に竹管状工具（口径は、0.6 ㎝程度）による刺突文を持つ。いずれも低平な輪状つまみであるが、33 のみはやや高く端部が外反する。34 ～ 37 は頂部付近を欠く須恵器蓋である。34 ・ 35 は端部を下側に折り曲げるもの、36 ・ 37 は折り曲げの弱いものである。以上の資料は高広Ⅳ A 期から同 B 期との中間的要素を持つ資料である。38 ～ 44 は蓋のつまみ部分のみがとれた資料である。広い意味で宝珠つまみの一群であるが、高く径の小さい一群（39 ～ 40）と低く径が大きいボタン状を呈する一群（41 ～ 44）がある。

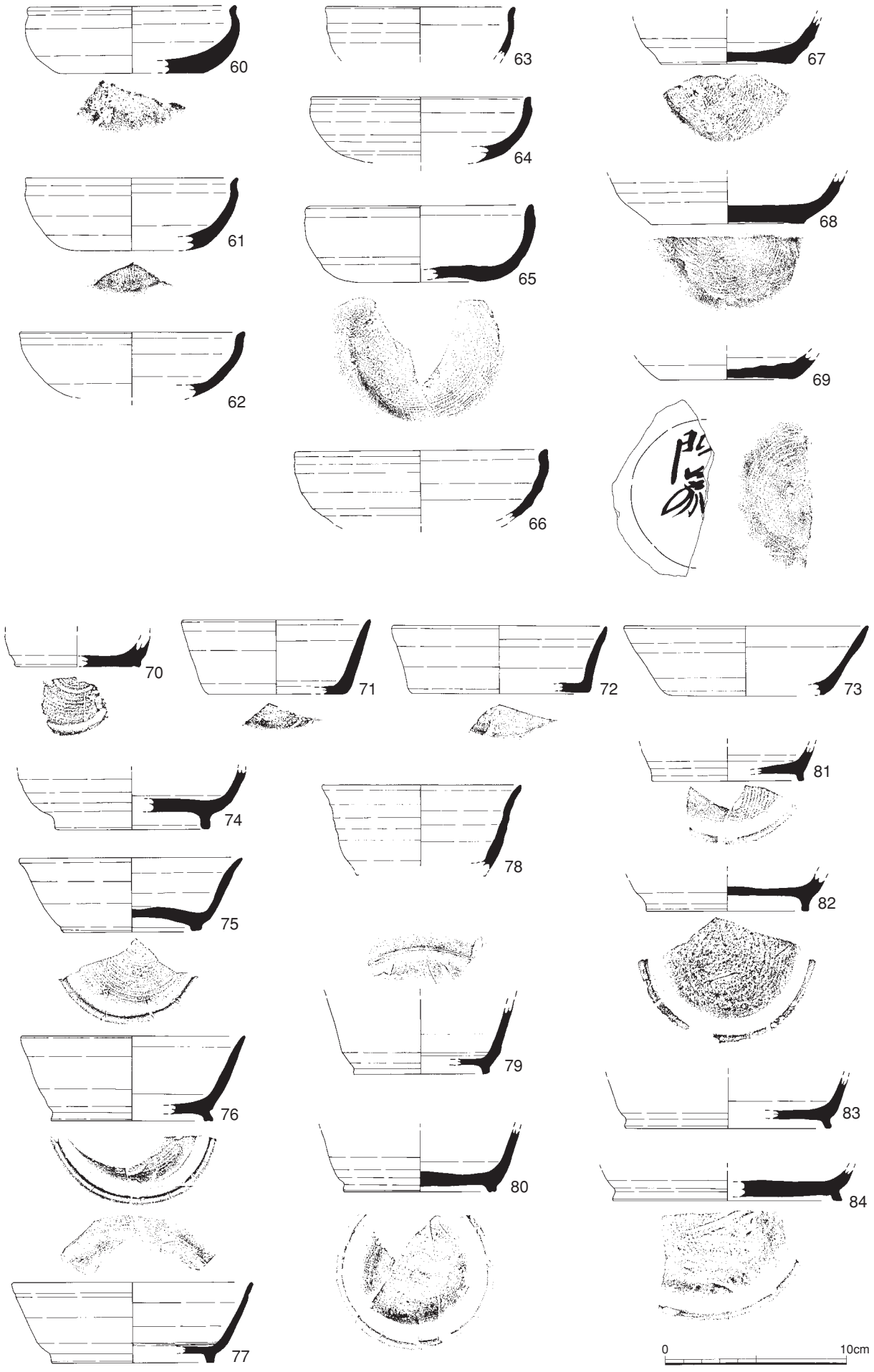
45 ～ 59 は上述宝珠状のつまみを持つ須恵器蓋である。つまみは径の小さく高いものと、径が大きく低いものに大別できる。頂部外面は回転糸切り痕を残すもの（47 ・ 48 ・ 51 ・ 54 ・ 56)、ナデによって確認できないもの（46 ・ 52 ・ 53 ・ 57 ・ 58 ・ 59)、ヘラケズリが頂部全面にわたっている、ケズリによって頂部中央のつまみ部分が凹むものなどヘラ切りを想起させるものも存在する（49 ・ 50)。また、肩部外面に沈線を施す資料（52 ・ 53 ・ 58）はいずれも外面の肩に相当する部分が丁寧なケズリにより緩やかなカーブをえがく断面なで肩で、ケズリ・底部切り離し痕がそのまま残り肩が張る一般的な蓋より丁寧に作られている。また 58 頂部内面に油ないし墨のような茶褐色の物質が付着している。

60 ～ 69 は無高台で体部が丸みを帯びる坏である。60 ・ 61 は口縁端部を明確に S 字に屈曲させ、最大径が屈曲下の体部に来るもので高広Ⅳ A 期。残りは端部を、外面を押し込んでアクセントをつけるもの（63 ・ 64)、外反させるもの（62)、押しつぶすもの（66）などで、高広Ⅳ B 期に相当する資料であると思われる。いずれも底部には回転糸切り痕が残る。69 は底部外面に「門家」が墨書される。70 ～ 73 は直線的な体部を持つ資料で 71 ・ 72 は急角度で立ち上がるのに対し、73 は器形も大きくやや外反する。71 ・ 72 がより古い要素を持っており高広Ⅳ B 期、73 はⅤ期に近い側の新様相であろう。いずれも判明するものはすべて底部回転糸切りである。74 ～ 84 は高台付坏である。74 は体部が丸みを帯びる資料であるが高台は直立し、同種の坏では最も新しい様相を持つものである。高広Ⅳ A 期。77 ～ 84 は高台が底部外周に寄り、高さも低いもので体部の形状は不明なものが多いが、多くが直線的に立ち上がる坏であろう。77 には底部内面に沈線状の部分がある。高広Ⅳ B 期の資料である。85 ～ 87 は底部の状況が不明の坏類である。体部に突帯を巡らす資料もある（86 ・ 87)。9 世紀代とされる須恵器窯跡からの出土が知られており（渋山池窯跡・古曽志平廻田窯跡)、高広Ⅴ期以降の資料であろう。

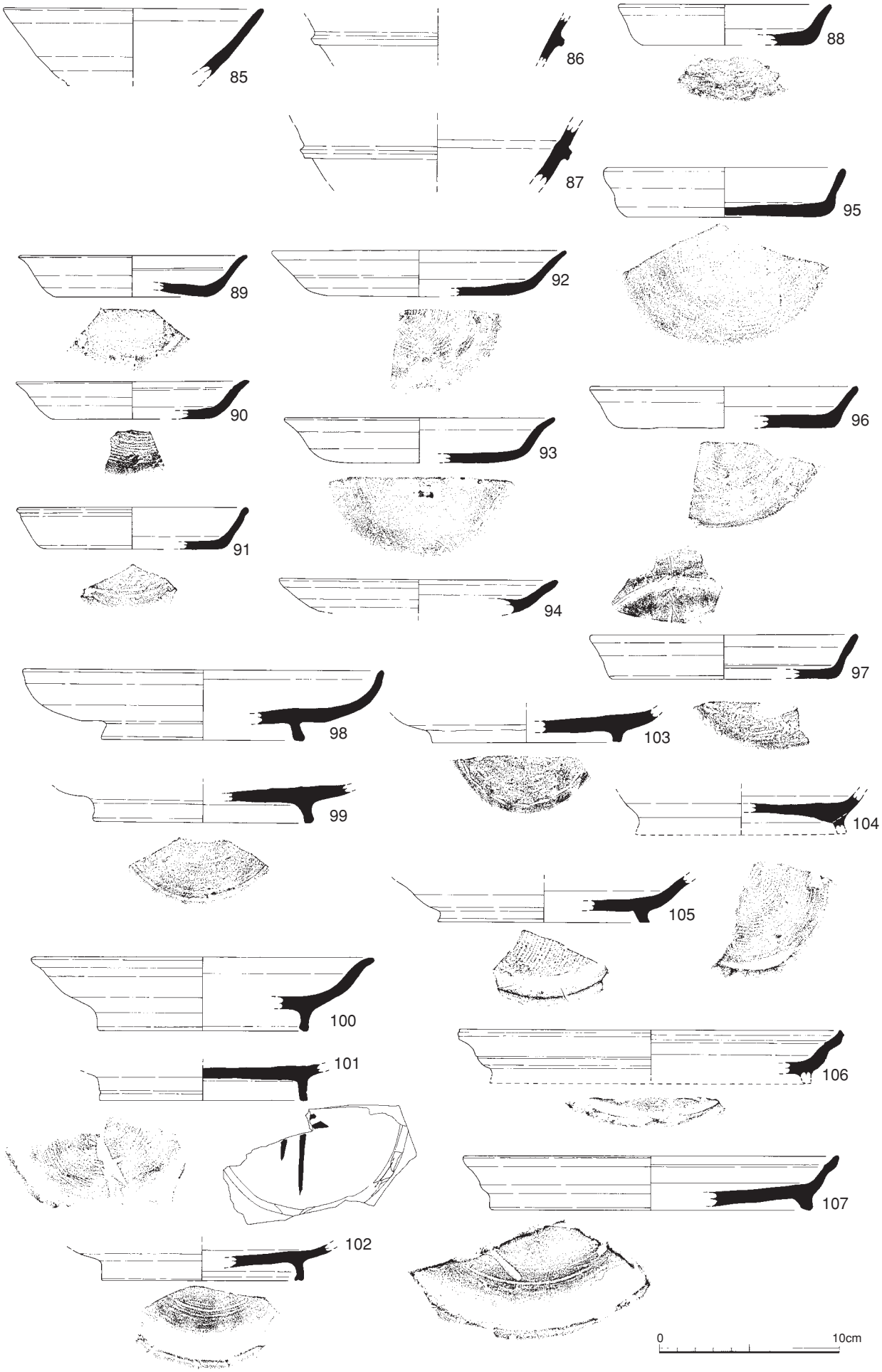
88 ～ 97 は無高台の皿である。立ち上がりは 75° に近い急角度のものと（88 ・ 95 ～ 97)、45° 前後のもの（89 ～ 94）に分別可能である。極端に低平になるものはなく、いずれも高広Ⅳ B 期の中で理解できるものである。底部は回転糸切り。なお、97 の底部内面外周付近には沈線 2 条が施されている。98 ～ 107 は高台付の皿である。98 は体部が丸みを持ち端部も外反せず、高台の位置が中央寄



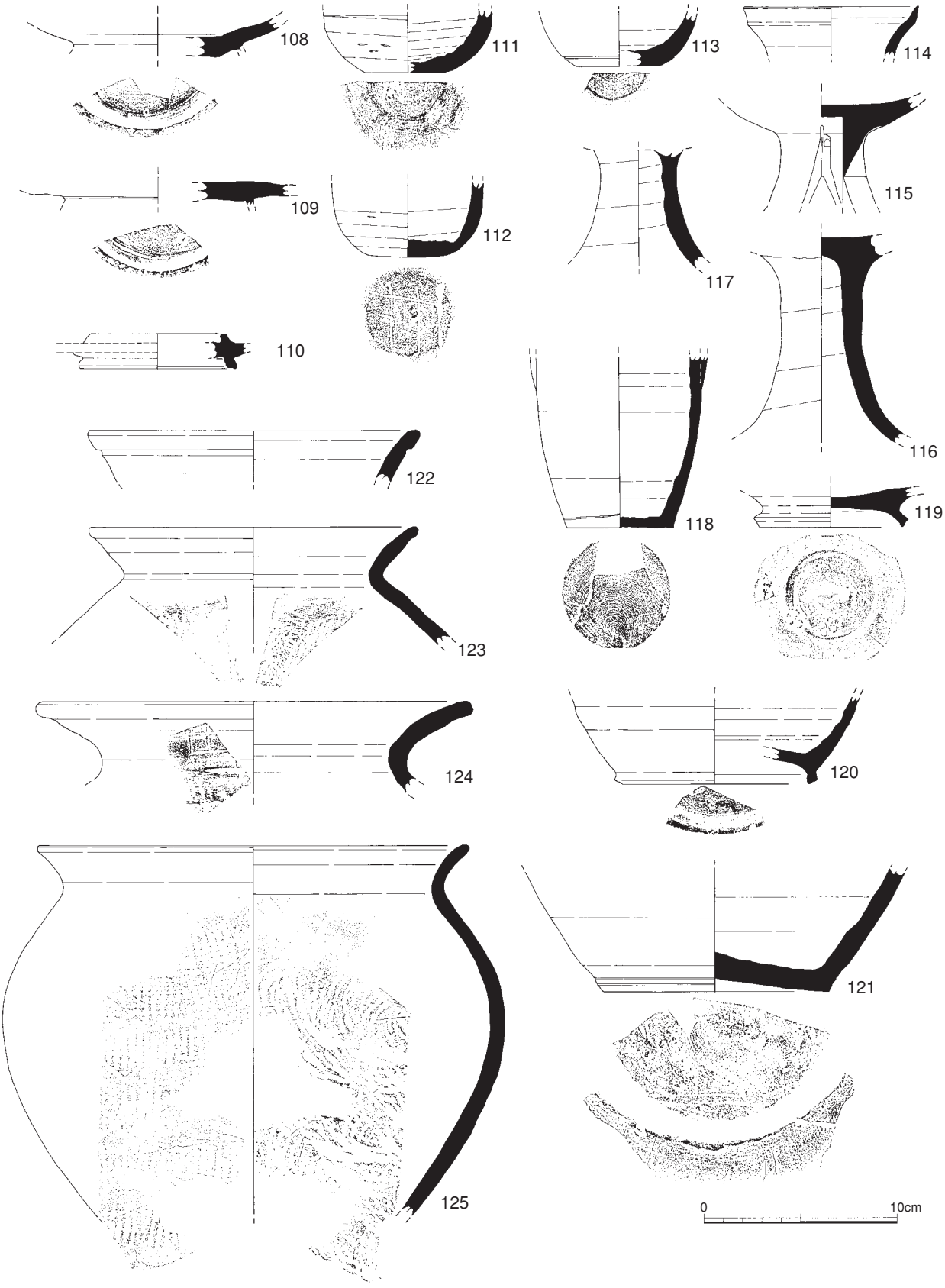
第 14 図　尾崎遺跡　A 区遺構外出土遺物実測図（2）（S ＝ 1/3）



第 15 図　尾崎遺跡　A 区遺構外出土遺物実測図（3）（S ＝ 1/3）

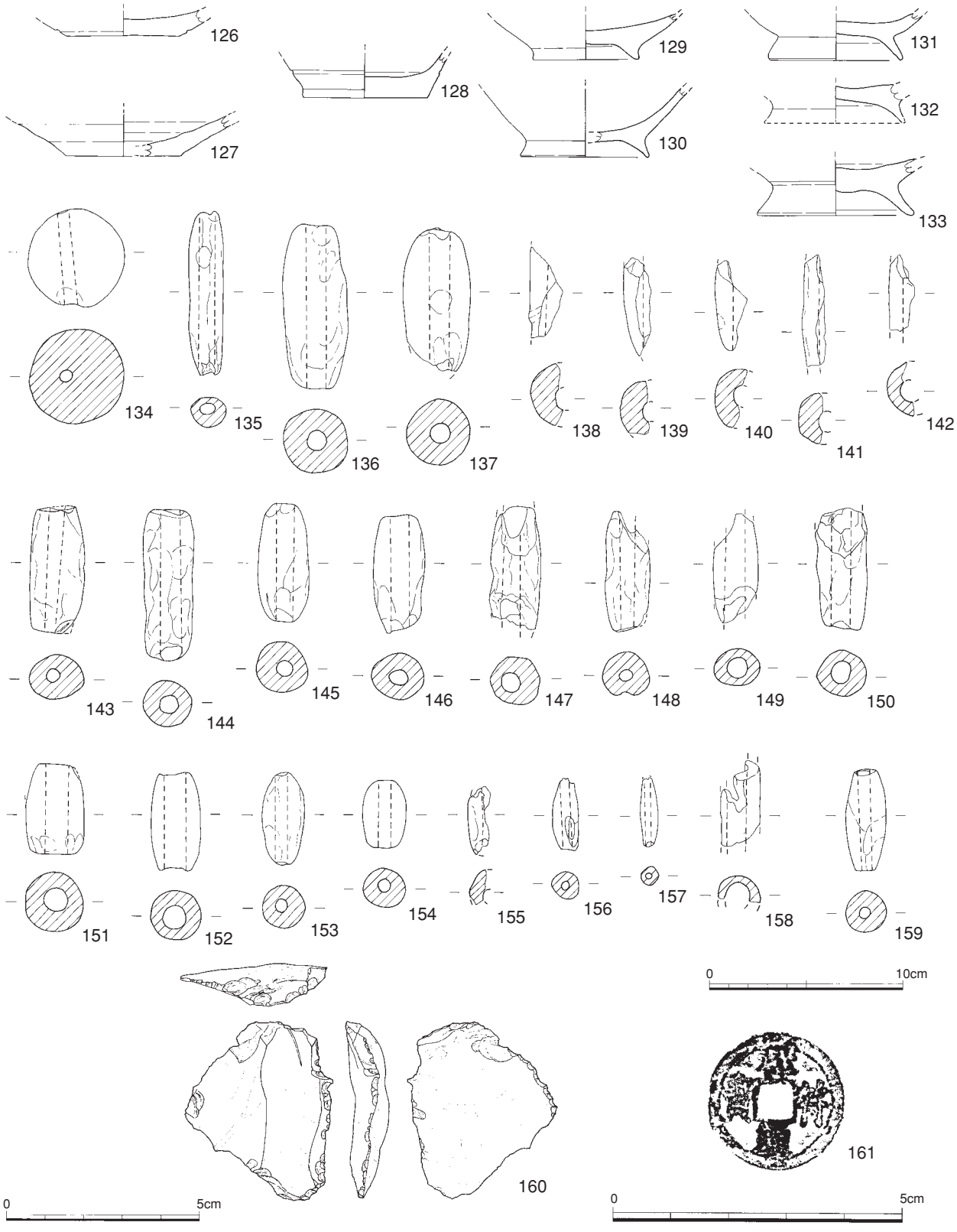


第 16 図　尾崎遺跡　A 区遺構外出土遺物実測図（4）（S ＝ 1/3）



第 17 図　尾崎遺跡　A 区遺構外出土遺物実測図（5）（S ＝ 1/3）

りでややハの字に外反する資料である。体部・高台の形状の類似性から、高台を持つ体部の丸い坏同様に古相を読み取ることができる。体部は不明であるが 99 も同様のものであろう。高広Ⅳ A 期。100 ～ 102 は高い高台を持つ皿で、体部が残存していれば、100 のように端部が外反するものを典型的とする資料である。103 ～ 107 は高台が低い皿で、底部外周に高台の着く資料もあり、形状故しばしば焼きひずみによって底部中央が垂れ下がる。102 以降の皿は高広Ⅳ B 期内の変異で理解でき



第 18 図　尾崎遺跡　A 区遺構外出土遺物実測図（6）（S ＝ 1/3，160 ： S ＝ 2/3，161 ： S ＝ 1/1）

る。なお、101 には底部外面に「井」と推定される墨書がある。

108 ・ 109 は皿の可能性が高いが、底部を回転糸切りしたのち、糸切り痕の外周に高台状のものを取り付けている資料で、底部が肥厚する点もやや一般的ではない資料である。110 は小片であるが内外面に輪状の突帯が添付されており、托と考えられる資料である。

111 ～ 114 は碗と考えられる資料である。111 ～ 113 はいずれも底部ヘラ切りの資料である。115 ～ 117 は高坏である。111 は 1 段透かしを持つ低脚無蓋高坏と考えられ出雲大谷編年の A4 ないし 5 類、出雲 4 期の資料である。本調査区出土須恵器の中では古い資料となる。116 ・ 117 は粘土巻き上げ痕跡の残るもので 8 世紀後半に現れる高坏の脚部とみられる。118 ～ 121 は壺類の底部である。118 は薄手の長径壺であり、肩の部分に粘土貼り付けによるつまみ状の張り出し（おそらく二カ所）を持つ。上半は欠損するが、底部内面の釉の付着状況から細めの頸部であったと推測される。底部回転糸切りでいわゆる平城宮・長岡宮出土の壺 G に類似する。しかし一般的な壺 G には肩のつまみはなく、器壁の薄さなどは出雲国府出土の例とも異なる。

119 は長頸壺の底部と思われる。四つ葉のクローバー状のスタンプが底部外面に押印される。同様のスタンプは出雲市鹿蔵山遺跡、文様は異なるが長径壺底部にスタンプを押したものとして西ノ島町物井横穴墓群 7 号穴に出土例がある[6]。大谷出雲 7 期の長径壺にしばしばみられるものである。120 ・ 121 は壺類の底部、122 ～ 125 は甕である。いずれも単純な口縁を持つもので、体部外面に平行のタタキ・内面に同心円のタタキがみられる。

126 ～ 133 は土師器の坏である。126 ・ 127 は広く外反する資料。129 ～ 133 は高台の付く資料である。後者のうち 131 ～ 133 が 10 世紀代頃のものであろう。

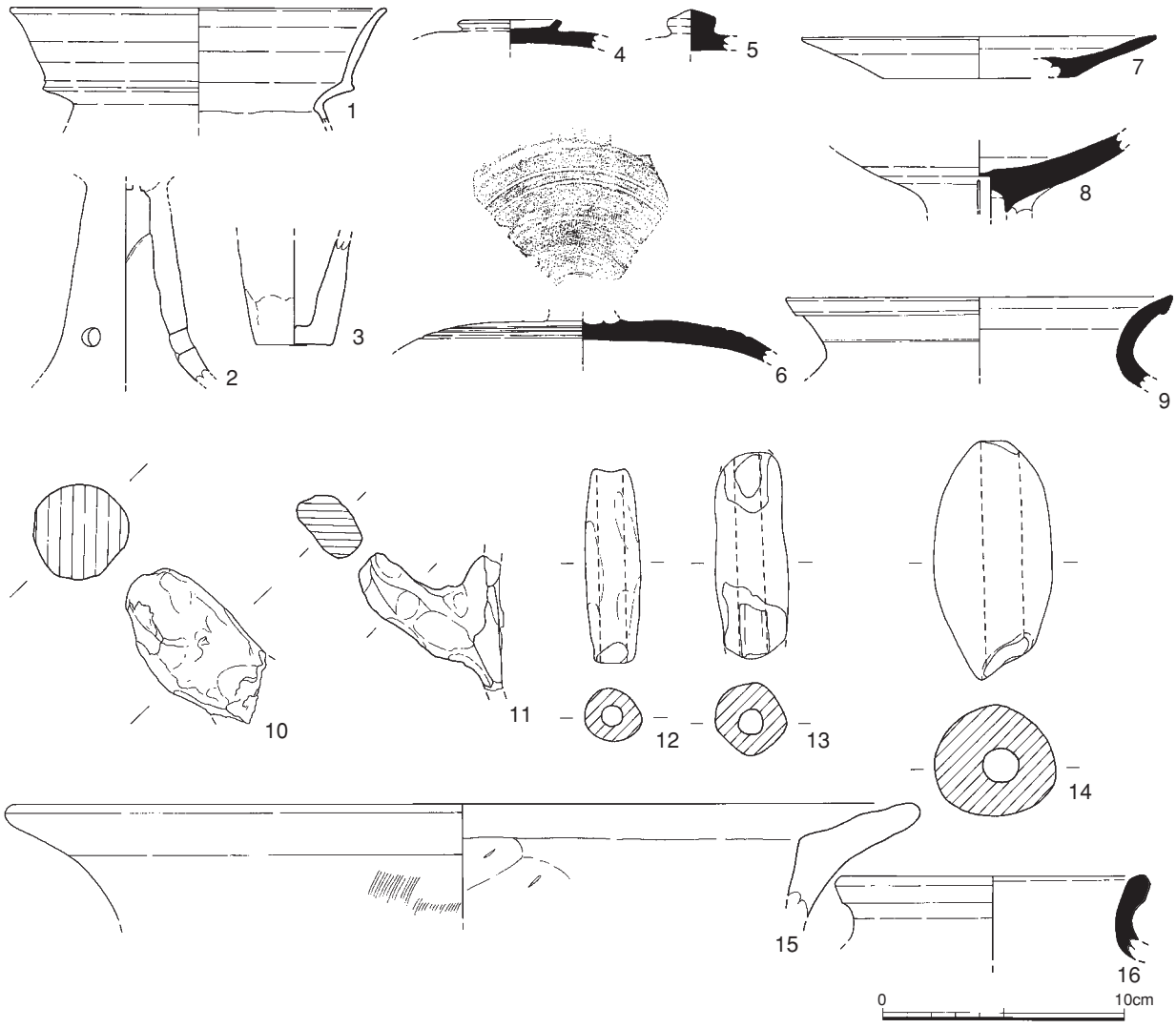
134 ～ 159 は球状・管状土錘である。なお観察表の孔径の記載は、他の部位の数値と異なり網の糸の太さを考える上で必要な最小値を記載している。134 は球状の土錘である。直径 5.0 ㎝の真球状を呈し、0.7 ㎝程度の紐穴が穿孔される。肩側の孔部分のみ指押さえがある。135 以降と明瞭に異なっており、時代・用途等が異なる可能性が高い。重量 121g。135 以降は管状土錘である。概ね直径 3.5 ㎝長さ 8 ㎝、孔径 1.0 ㎝、重さ 100g 前後の大型の資料（136 ・ 137）、孔径は同様であるが、厚さが薄く直径 3.0 ㎝、長さが 6 ㎝、重量 40g 程度と推定される資料（138 ～ 150、152 ・ 153）、孔径 0.3 長さ 4 ㎝、重量 5g 以下程度（155 ～ 157）の 3 種に分類できる。このほか、太く長さの短いもの（151）他が少量含まれる。端部の調整については不明なものが多いが、145 ・ 146 ・ 151 など指による確認ができる資料もある。

160 は黒曜石の剥片である。重さ 12.9g。161 は祥符通宝である。

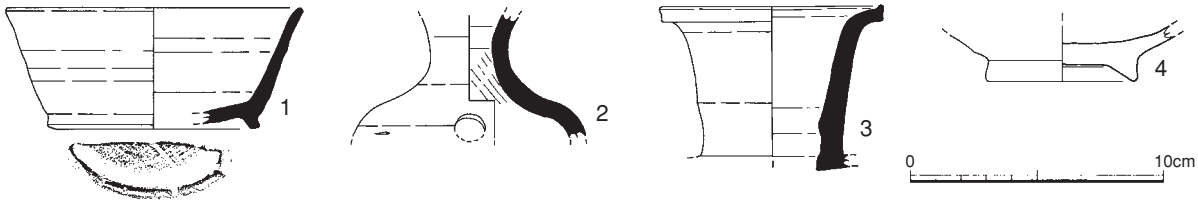
A 区拡張部出土遺物（第 19 図）

第 1 節で述べたように、A 区の調査が終了し中国電力側にいったん引き渡したのち地質調査工事中に西壁が崩落、この崩落部分と新たに法面をつけ直すために拡張した部分が A 区拡張部である。第 2 図に示したように A 区の西側に位置する。調査区の状況は A 区同様であり、緑灰色の砂礫土状に遺物が散布していた。なお SD01 の西側部分については既に崩落しており確認できなかった。

1 は 弥生土器甕の口縁部である。複合口縁部が外反し、薄く上方に引き出される特徴から、草田 5 期の資料であろう。 2 は土師器高坏脚部である。松山 α 技法、中心に刺突痕跡を残すもので、 3 方向の円形透かしが確認される。古墳時代前期の資料である。 3 は弥生土器ないし土師器のミニュチュア土器と推測されるものである。4 ～ 6 は須恵器蓋である。4 は輪状つまみ（高広産Ⅲ～Ⅳ期）、5 ・ 6 は宝珠つまみを持つ（高広Ⅳ B 期）。 6 は肩部に 2 条の沈線を持つ資料である。 7 は体部が



第 19 図　尾崎遺跡　A 区拡張区出土遺物実測図（S ＝ 1/3）



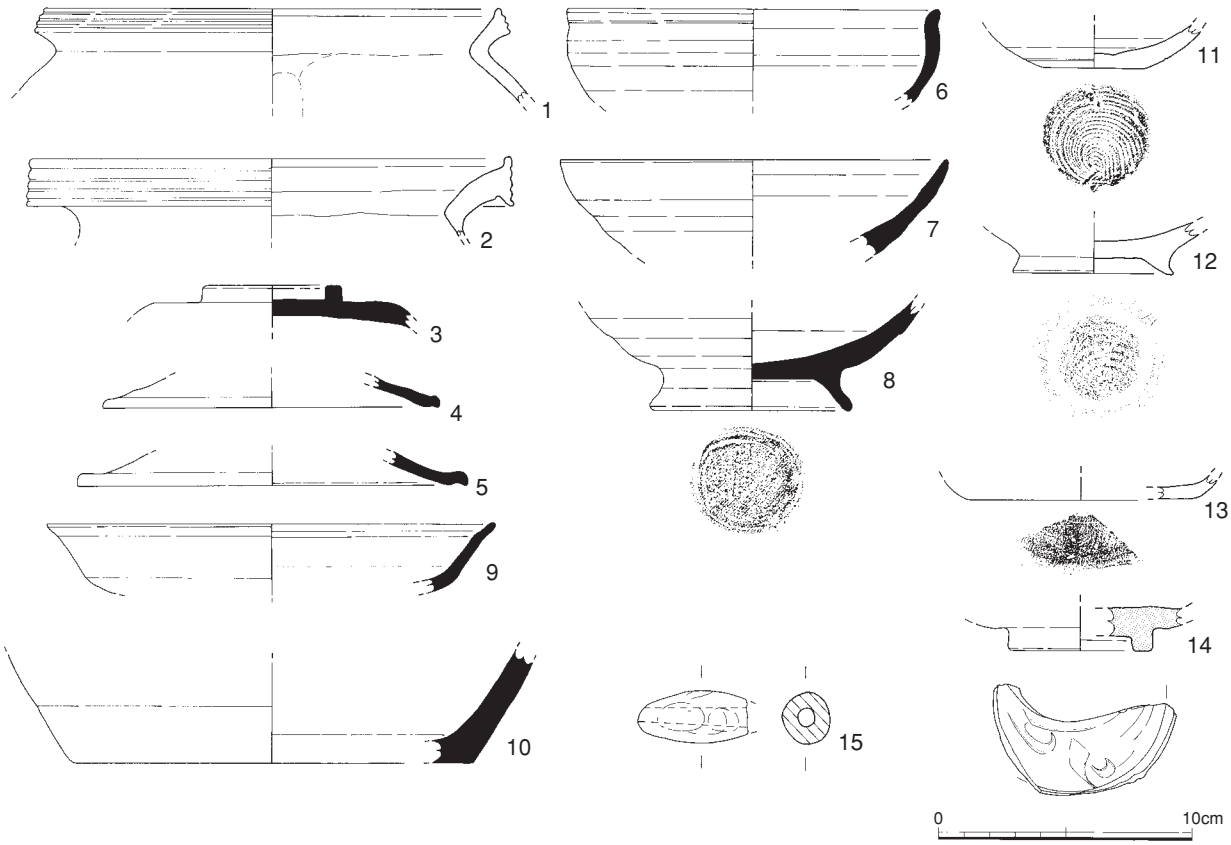
第 20 図　尾崎遺跡　その他遺構外出土遺物実測図（S ＝ 1/3）

広く外反する須恵器皿で、高広Ⅴ期 9 世紀代の資料である。 8 は須恵器低脚高坏で、透かしが切り込み状に退化している（ただし内面まで貫通する）。大谷出雲 6 期の資料である。 9 は須恵器甕口縁部である。端部が若干肥厚する。10 ・ 11 は甑把手である。12 ～ 14 は土錘である。12 ・ 13 は A 区出土のものの中型に該当し、14 は大型に該当する。19 は土師器甑の甕口縁部である。ほぼ直線的に外反する口縁部を持つ。16 は焼成不良の須恵器の壺口縁部である。

その他の遺構外出土遺物（第 20 図）

取り上げ時に調査区が不明となってしまった資料である。多くが A 区の出土と想定される。

1 は須恵器高台付坏である。直線的に立ち上がる体部・口縁部を持つ。高広Ⅳ B 期の資料である。2



第 21 図　尾崎遺跡　B 区遺構外出土遺物実測図（S ＝ 1/3）

は須恵器甕である。 3 は須恵器直口壺の頸部である。 4 は土師器高台付坏である。

B 区遺構外出土遺物（第 21 図）

本節はじめで述べたように、B 区では遺構を確認できなかった。遺物包含層中の出土遺物のみ記述する。 1 は弥生土器甕である。口縁部が上方に拡張され凹線が施される。屈曲も少なく松本Ⅳ－ 2 様式の資料である。 2 は弥生土器甕である。頸部内面以下はケズリが施され、口縁部は上下に拡張され擬凹線Ⅱ類が施される資料である[7]。松本出雲Ⅴ－ 1 様式、草田 1 段階。 3 ～ 8 は須恵器である。3 は輪状つまみを持つ蓋としたが、ややつまみの形状が太く高さを有しており一般的でない。 4 ・ 5 は端部内面にアクセントをつける程度の資料で、蓋としては端部を丸く収め、アクセントが消失する直前の資料、高広Ⅳ B 期でも終末に近い資料である。 6 は口縁端部にアクセントを持ち、体部は丸みを帯びて無高台と考えられる坏である。 7・8 は浅い皿状を呈する高台付坏で 8 は底部ヘラ切りである。高広Ⅲ A 期の資料であろう。 9 は口縁端部が外反する皿である。10 は須恵器壺類の底部。11 ～ 13 は土師器坏の底部である。11 ・ 12 には底部外面に回転糸切り痕が残り、12 は特に体部外面に黒色物質が付着、黒色を呈する。13 は内面のみを赤彩する土師器で内面回転ナデの痕跡が残る。14 は底部内面周辺に区画線、 劃花文が施される。高台内は露胎である。龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、12 世紀後半台の資料であろう。

---

*1 三瓶自然館中村唯史氏に鑑定を受けた。

*2 高広Ⅲ B 期・Ⅳ A 期は前者を制止糸切り技法、後者を回転糸切り技法で分別する。当資料は切り離し技法ではⅢ B 期となるが、端部の下端おり曲げを含む器形全体ではⅣ A 期に近い。

*3 島根県教育委員会 2002『堤平遺跡』、松江市教育委員会『大井窯跡群・山津窯跡・山津遺跡発掘

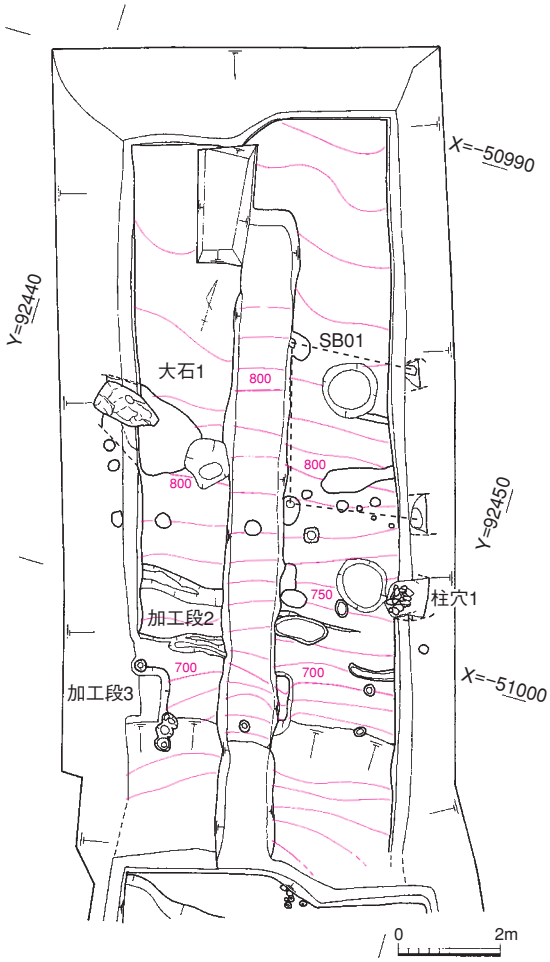
調査報告書』、出雲市教育委員会 2001『大井谷Ⅰ遺跡・大井谷Ⅱ』。

*4 広江耕史 1992「島根県における中世土器について」『松江考古』 8 、島根県教育委員会 1976「大坪古墳群」『国道 9 号バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』。

*5 川上稔 1996『上長浜貝塚』出雲市教育委員会。同書引用の真鍋篤行氏の指摘による。

*6 大社町教育委員会 2005『鹿蔵山遺跡』、西ノ島町教育委員会 1995『物井横穴墓群発掘調査報告書』。

*7 池淵俊一 1998「弥生時代後期集落を巡る諸問題」『門生黒谷Ⅰ遺跡・門生黒谷Ⅱ遺跡・門生黒谷Ⅲ遺跡』島根県教育委員会。



第 22 図　尾崎遺跡　C区調査区全体図
（S＝1/150）

第 3 節　C 区の調査

（1）調査の経緯

C 区は A ・ B 区北側の丘陵南斜面に当たる調査区である。調査前の状況は標高 6 ～ 10m の果樹園で、南ほど不自然に急傾斜となっている。これは丘陵下の水田面（A ・ B 区）を広げるために裾部をカットしたためと推測され、実際に調査を実施すると、南側約 5 m の部分にカットの断面が確認されている（第 22 ・ 23 図）。一方丘陵頂部側は緩傾斜であり、さらに中世頃にいったん平坦に削平された痕跡が認められた。

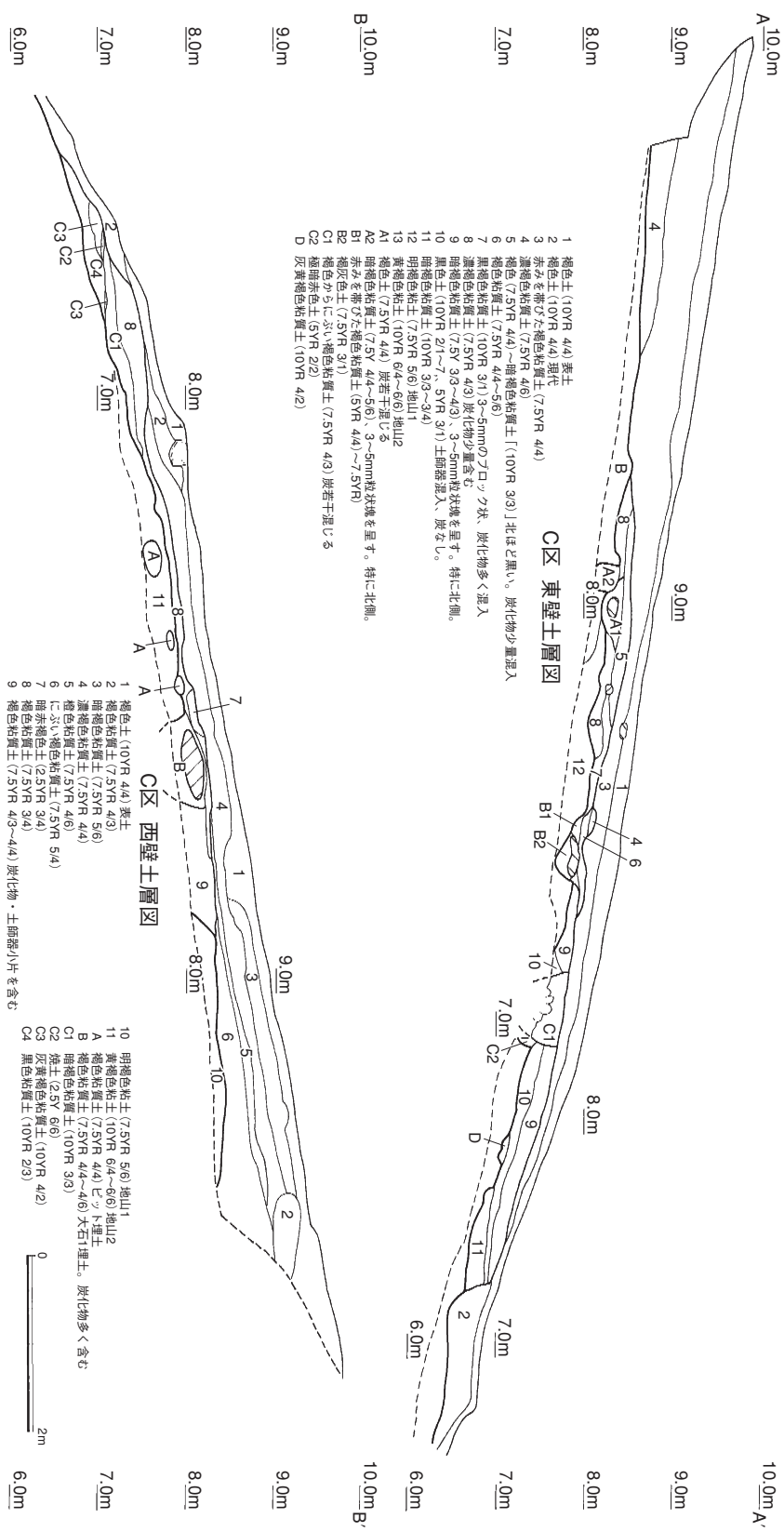
松江市教育委員会によるトレンチ調査はこの削平された部分で実施されていたため、古代の遺構遺物が確認できず当初遺跡はないものとされていた。しかし、平成 20 年 1 月 9 日の島根大学法文学部大橋康夫教授の調査指導において、A 区を中心に 8 世紀後半台の須恵器が多数出土したことから A 区に遺物を供給した遺構などがある可能性が指摘され、再度トレンチ調査を実施することになった。第 21 図中央にくぼみとして残る部分がこのトレンチ調査跡で、ここにおいて 7 世紀後半～ 8 世紀後半の資料が出土したため、急遽遺跡があるものとして発掘調査を実施することとなり、1 月 11 ～ 31 日にかけて本調査を実施した。なお、調査区の国土座標 X= － 51000 より北側については、中国電力と協議の結果 、地質調査の工事の設計を変更することで遺跡に影響が及ばないこととなった。このため、第 22 図に見える状況で調査を終了し、大石の堀方・ピットなどを含め平面的に検出するにとどめ、遺構埋土を完掘していない。

調査区の層序（第 23 図）

東壁　表土の下に、南側には水田造成に関わるカットが 2 層として確認できる（東壁面にはカット面が残るが、調査区内ではカットされてしまっているので西壁側を含め 2 層に相当する土層の堆積はない）。この下に 3 層赤みを帯びた褐色粘質土が堆積するが、この土層は北側丘陵頂部にいくほど厚みを増しており、この層を剥ぐと頂部側は平坦となる。少量の底部位回転糸切りの土師器小片が出土していることから、中世以前に削平されている模様である。北側はこの下はただちに基盤層黄褐色粘土層となっており、遺構も確認できなかった。一方、中央部には 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 層の土壌化した茶褐色～黒褐色土層が存在していた。遺構との関係を考慮しながら説明すれば、最下層の第 10 層が加工段埋没後に堆積した旧表土で、その上に地山ブロックを少量含む暗褐色粘質土 8 層がおそらく盛り土として盛られていると考えられる。さらに北寄りには 8 ・ 7 層が見えるがいずれも炭化物を含んでおり、 8 は整地土層と考えられる。この 8 層上面から礎盤建物の柱穴が堀込まれており、 9 層上面から礎石建物の柱穴が堀込まれている、 7 層の炭化物を多く含む土層は礎盤建物の柱穴を覆う 5 層の下に所在することから、礎盤建物が機能していたときの床面に近い（すなわち炭化物が溜まる状況）可能性がある。なお、 9 層中から後述する高広Ⅳ B 期前半の土器溜まり 2 が検出され

ていることから、礎石柱穴・礎盤建物は8世紀中葉以降にいったん整地されたのち構築されたものと考えている。

西壁　東壁同様、丘陵頂部側は平坦で、中世以降の土層が堆積している（4～6層）。その下に8層褐色粘質土があり、この層が古代の遺構を直接被覆する土層になる。東壁土層とは土色が異なるが、この西壁8層も東壁9・8層同様造成土である可能性がある（むしろ東壁8層より基盤層の粘土層に近い）。その下に南側の加工段1～3の埋土（C1～C3）があり、また中央付近の大石1とその堀方もこの8層の下になる。南側は谷水田の造成によりカットされ、表土（2層）のみの堆積となっている。

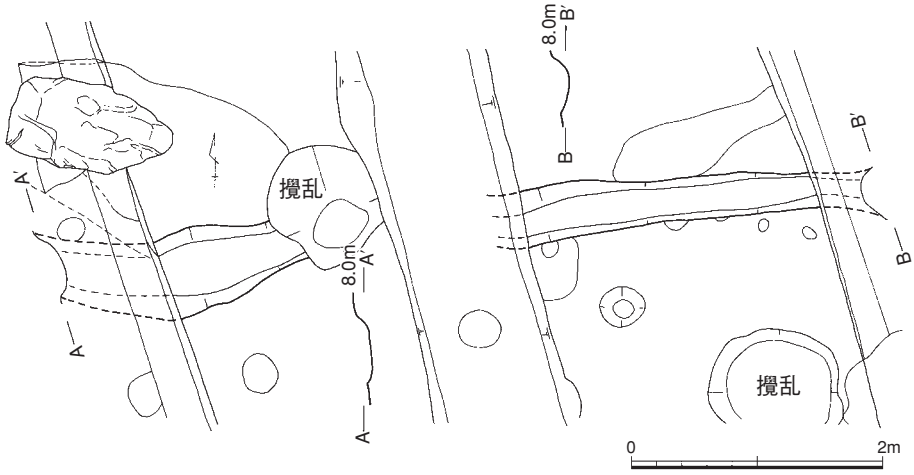


第23図　尾崎遺跡　C区土層図（S＝1/80）

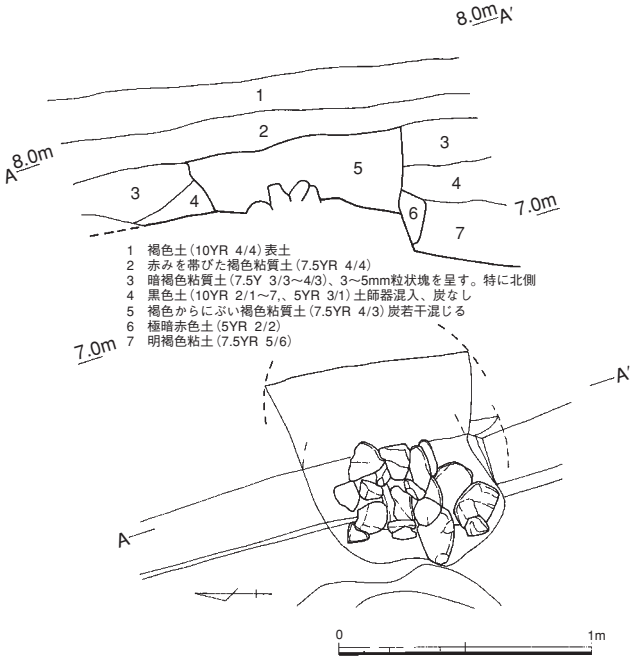
（2）建物跡

SB01（第22・23図）

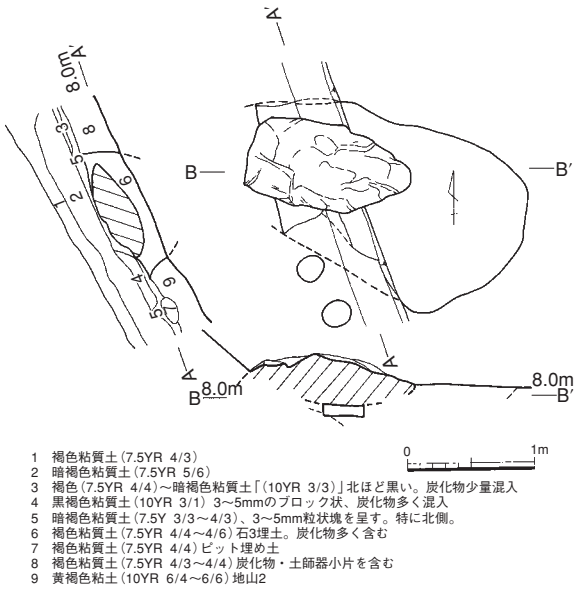
規模と形態　C区東壁で石製の礎盤を持つ柱穴2カ所、柱穴と推定されるもの2カ所合計4カ所のみを確認している。同一建物の柱穴の可能性があることから記述するが、まず東壁礎盤のある柱穴4カ所については、柱穴間の距離は礎盤中央間で約2.95mと柱間1間分と考えると広すぎであり、礎盤上面のレベル高も南の柱穴が標高7.9m、北側が同8.4mと約50㎝異なっている。調査区内ではこのほかに中央のトレンチ付近で2つの柱穴を確認しているが、これを梁方向と考えるとやはり柱穴間距離が2.4～2.5m、平行四辺形状を呈してしまう。同一の掘立建物跡



第 24 図　尾崎遺跡　C区 SD04 実測図（S ＝ 1/60）



第 25 図　尾崎遺跡　C区柱穴 1 実測図（S ＝ 1/30）



第 26 図　尾崎遺跡　C区大石 1 実測図（S ＝ 1/60）

として組めない可能性もある。

時期と性格　いずれの柱穴も調査の概要で述べたように側面・平面で検出したのみで、完掘していないため、出土遺物はない。時期については調査区の土層堆積状況で述べたように、造成土と考えられる東壁 8 ・ 9 層の上から堀込まれ、 7 層が床面であったと考えられる。 7 層は炭化物を多く含むので建物使用時には屋内で炭化物が溜まる状況であったのであろう。整地土とみられる 9 層から 8 世紀中葉～後半の土器が出土していることから、 8 世紀中～後葉以降と考えられる。

（ 3 ）溝

SD03（第 24 図）

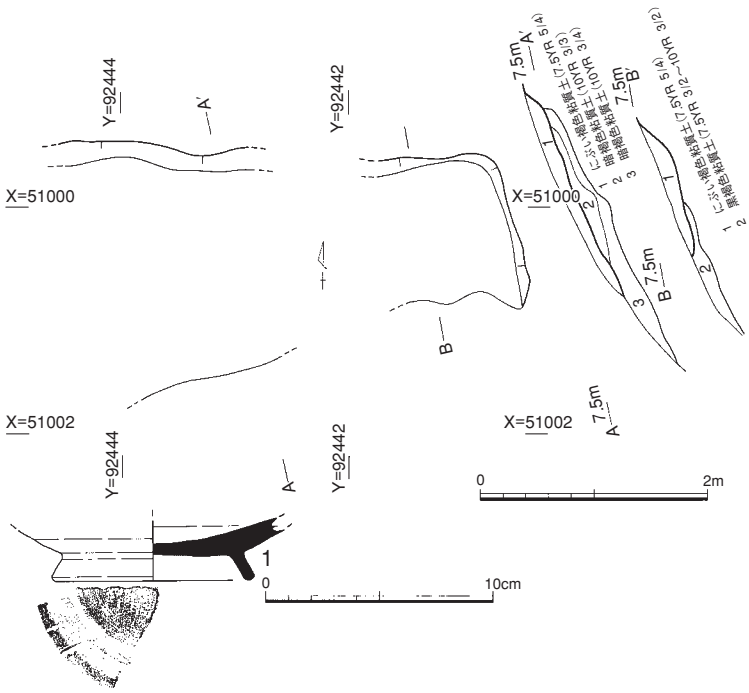
規模と形態　C 区中央付近、中世以降の堆積土（東壁 3 層・西壁 4 層）が埋土となる。東西にほぼ等高線と平行に走っており、大石の堀方埋土や礎盤建物の柱穴を切り、果樹を植えた跡と考えられる現代の攪乱によって切られている。幅は 0.3 ～ 0.7m、検出面での深さ 0.2m であるが西側ほど広く浅くなり不明瞭である。

時期と性格　直接の出土遺物はなく時期は不明であるが、東壁では 8 世紀中葉の土層の上層に位置し、被覆する土層に中世のものと推定される底部回転糸切り土師器小片があることから、中世以降のものと考えられる。性格は不明であるが、丘陵側平坦面の端部近くに位置することになるので、何らかの区画溝であろうか。

（4）柱穴

柱穴1（第25図）

規模と形態　調査区中央東端で、調査区排水溝掘削時に検出した。排水溝掘削時に検出面を飛ばしてしまっており、正確な規模は不明であるが、堀方底部近くで幅70㎝、長さ50㎝以上（約1/2程度を検出と想定される）の規模を確認している。底部付近には礎石根石とみられる拳～人頭大の石が残る。断面図をみるとさらに下層に6層とした柱穴状の堀込みがみられこちらが本来の堀方で、5層は礎石の抜き取り痕跡の可能性もある。なお、工事設計の変更により保存されることとなったので調査は図面状況でとどめ完掘していない。



第27図　尾崎遺跡　C区加工段1実測図・出土遺物実測図
（S＝1/60，遺物：S＝1/3）

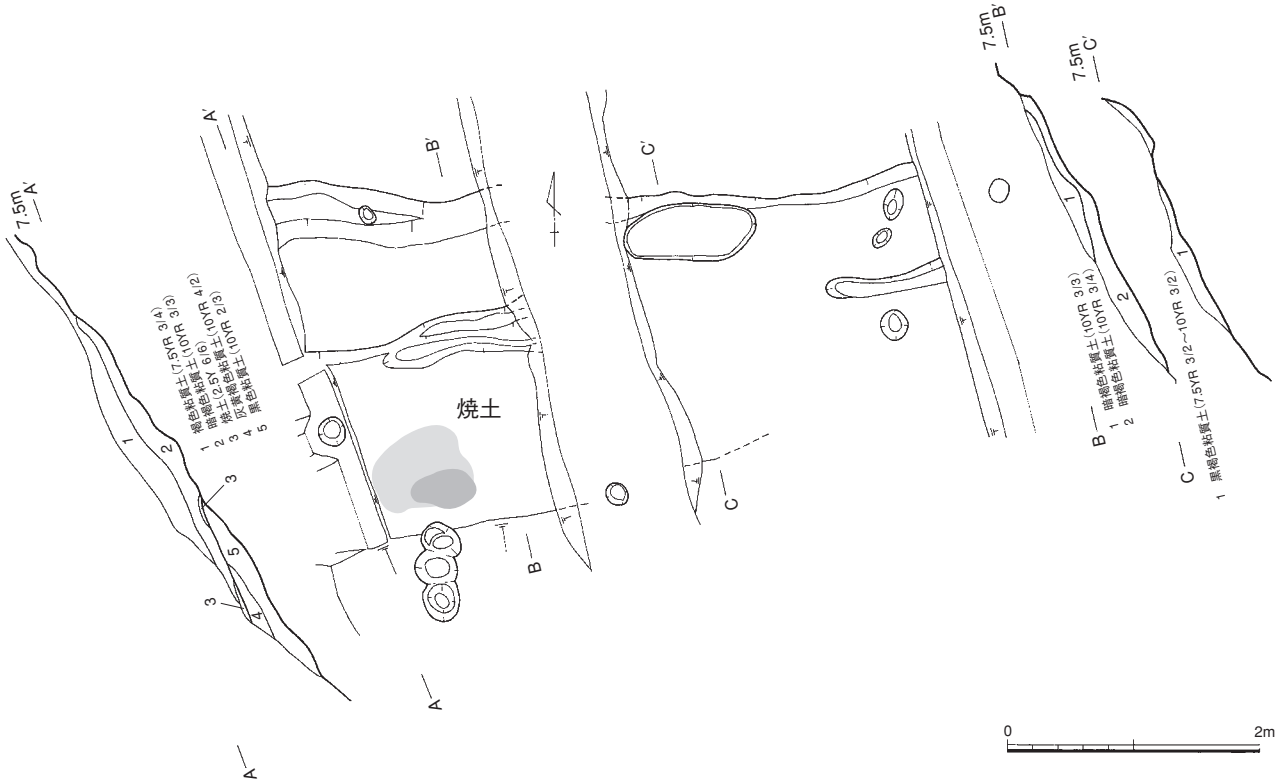
時期と性格　断面図5層は整地土と暗褐色土層で東壁土層（第23図）9層に当たる。高広Ⅳ B前半期の土器溜まり2がこの中にあることから5層（第23回の9層）は8世紀中葉～後半に形成されている。ここで4層を当初の堀込み、3層を礎石抜き取り痕とみて、4層が6層の堆積以前に堀込まれたとみると、当初の堀込みから廃絶までに6・5層が堆積あるいは盛り土されたことになりやや不自然である。3層は当初の柱堀方と礎石抜き取りを兼ねている、あるいは4層は5層上面から堀込まれたものであると考えておく。この場合、8世紀中葉以降に整地され、建設されたことになる。

（5）大石

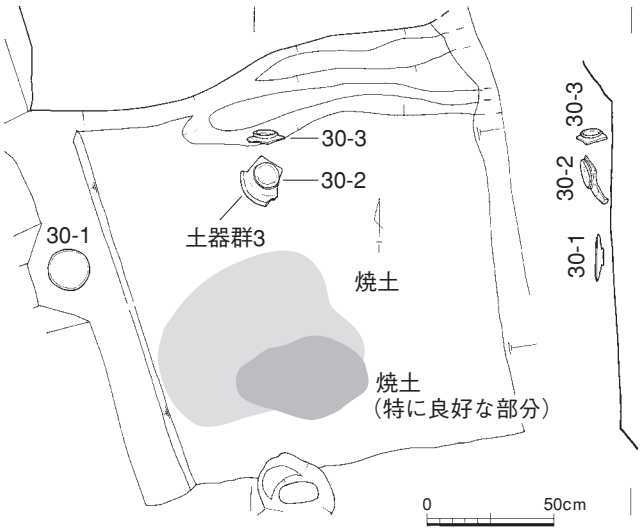
大石1（第26図）

規模と形態　調査区西端中央で調査区排水溝掘削時に検出した。長さ1.4m以上（西端は未検出）、幅0.9m、厚さ0.3mを測る大石が長方形の堀方に埋められていた。堀方は長さ2.3m幅1.2m以上で、炭化物を多く含む褐色粘質土で、北側にはさらに大きな窪地状の部分があり（断面8層）この堆積ののちに堀込まれている。大型の礎石堀方のようにも見えるが、大石の下に根石などはなく、建物に関わるものかは不明である。なお、工事設計の変更により保存されることとなったので調査は図面状況でとどめ完掘していない。

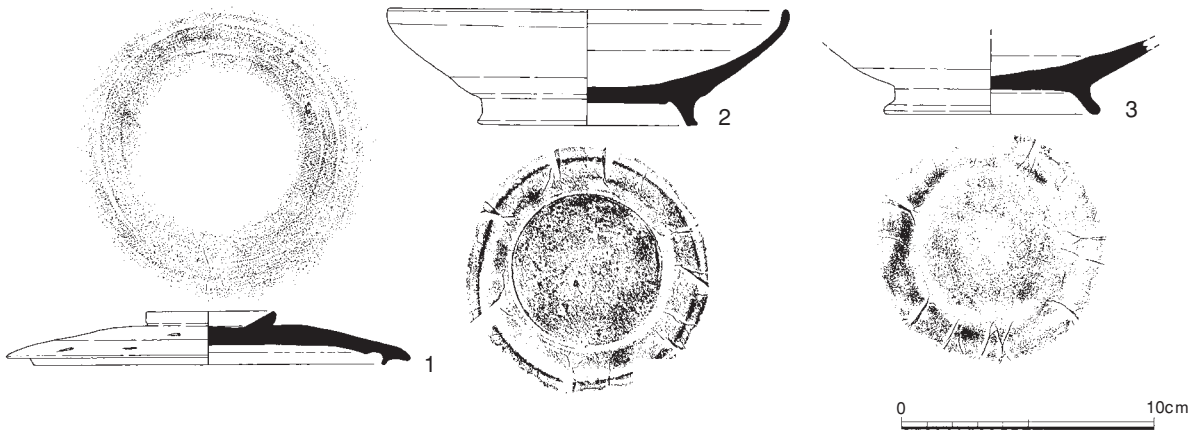
時期と性格　出土遺物はなく時期は不明であるが、炭化物の多い堆積土は東側のSB01床面付近の堆積土と類似しており、時期が近い可能性はある。なお、排水溝掘削時に検出したため、検出時には堀方を飛ばしてしまっていたが、作業員からの聞き取りによると底面でなく側面に人頭大の石若干があったとされる。堀方の大きさも検出面のものであり、断面を確認した箇所では石との隙間は小さい。前述のように建物の礎石とは考えずらいところがあり、不要な大石その他の石を穴を掘って片付けた遺構であろうか。



第 28 図　尾崎遺跡　C区加工段 2 実測図（S ＝ 1/60）



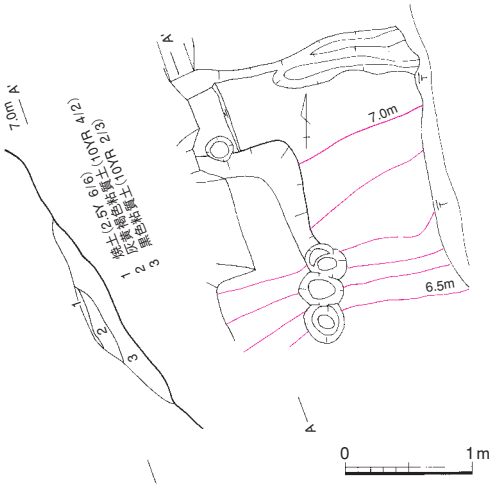
第 29 図　尾崎遺跡　C区加工段 2 実測図・遺物出土状況図（S ＝ 1/30）



第 30 図　尾崎遺跡　C区加工段 2 出土遺物実測図（S ＝ 1/3）

（６）加工段

加工段は調査区南側、現状では急傾斜となる部分に加工段１～３が重複して存在する。このうち加工段１は加工段２・３の埋土に新たに堀込まれているが、２・３は下層・上層の完形に過ぎず同一の加工段の時期の異なる生活面に過ぎない可能性もある。



第 31 図　尾崎遺跡　Ｃ区加工段３実測図（S ＝ 1/60）

加工段１（第 27 図）

規模と形態　　最上層で検出した加工段で、後述加工段２・３の埋土を堀込んで等高線と平行に東西に長く斜面をカットした遺構である。奥行き１～2m、幅約 4m に渡って検出した。検出面からの深さは 0.2m 程度であり、底部も傾斜をなしていることから、平坦になる加工段の主体部ではなく山側の端の部分であり、加工段の中心は流失してるものと考えられる。

出土遺物（第 27 図）　覆土から須恵器坏１点が出土した。ハの字に開く高台を持つ体部の丸い坏である。底部切り離し痕跡はナデによって不明になっているが、高広Ⅲ B 期の資料であると思われる。

時期と性格　出土遺物から、加工段の時期は７世紀末頃と考えられる。性格は大部分が失われており不明である。

加工段２（第 28 図）

規模と形態　加工段１の下に位置する。奥行きは西壁付近で約 3m、調査区の東西いっぱいに検出した。西側南端は水田造成時のカットにより切られており、東側はなだらかな斜面となり段が不明瞭になって終わっている。遺存状況の良好な調査区西側では中間に段と溝を持ち、ここから南側が加工段の中心となる平坦部分、北側が法面となっていた模様である。小柱穴が５基ほど確認される他、南側の水田造成時の法面にも３基の連続した柱穴が確認できる。後者については構築面が・覆土を消失しているため、加工段２・３のいずれに伴うのか不明であるが、加工段３では端部となってしまうので、おそらくこの加工段２に伴うのであろう。また、南片西寄りに焼土と周囲に炭化物が広がる部分が存在するが、厚さは１～２㎝程度ときわめて薄く炉跡等の可能性は低い。

出土遺物（第 29 ・ 30 図）　第 29 図に示したように加工段平坦部奥の溝か周辺から遺存状況良好な須恵器蓋・坏のセットが出土している。１は完形品の蓋である。輪状つまみ・端部にかえりを有し、頂部外面はつまみ内にヘラ切り痕跡を残す。２・３は須恵器高台付坏である。ともに丸く浅い体部を持ち高台はハの字に開く。同時期の資料である。２は完形品ではないが復元するとほぼ１と組み合う。全体として同時期の資料とみてよく、高広Ⅲ A 段階、７世紀第３～４四半期の資料であろう。

時期と性格　時期は出土した須恵器から７世紀第３～４四半期頃と推定される。性格は消失した部分が多いことから不明であるが、火処があり、生活空間であった可能性がある。

加工段３（第 31 図）

規模と形態　加工段２の下層、南西隅で確認した。上層にはそのまま加工段２が営まれているため、加工段３は加工段２の下層に過ぎない可能性もある。 堀込みはしっかりしており、加工段２底部より約 30 センチの深さを有しているが、底部は平坦でなく斜面であり、やはり加工段本体の平坦部ではなく山側法面端部であろう。きわめて黒い土が堆積していた。検出部分は奥行き 1m、幅 0.5m 程

度である。

（7）土器溜まり

土器溜まり2（第32図）

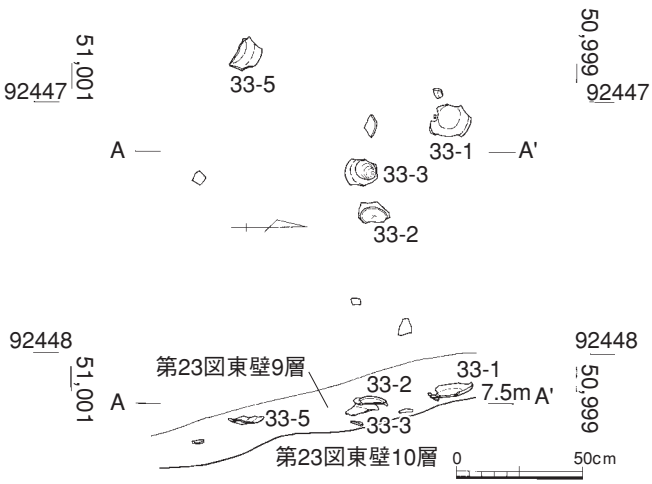
規模と形態　柱穴1南西の暗褐色土中（第23図9層）の約2mの範囲から検出した。完形品はなくいずれも破片資料である。

出土遺物（第33図）　1は須恵器蓋である。輪状つまみを持ち、端部は明瞭に下方に折り曲げられた部分を持つ。頂部外面には回転糸切り痕が残る。2は高台付きの坏である。体部は失われているがやや丸みを持つ。底部は回転糸切り痕を残し「×」字状のヘラ記号がある。3は無高台の坏である。体部は直線的に立ち上がる。4・5は高台付きの坏である。底部外面は回転糸切り、体部は直線的に立ち上がる。高台は高広ⅣB期の資料の中でも短小化が進まない時期のものである。

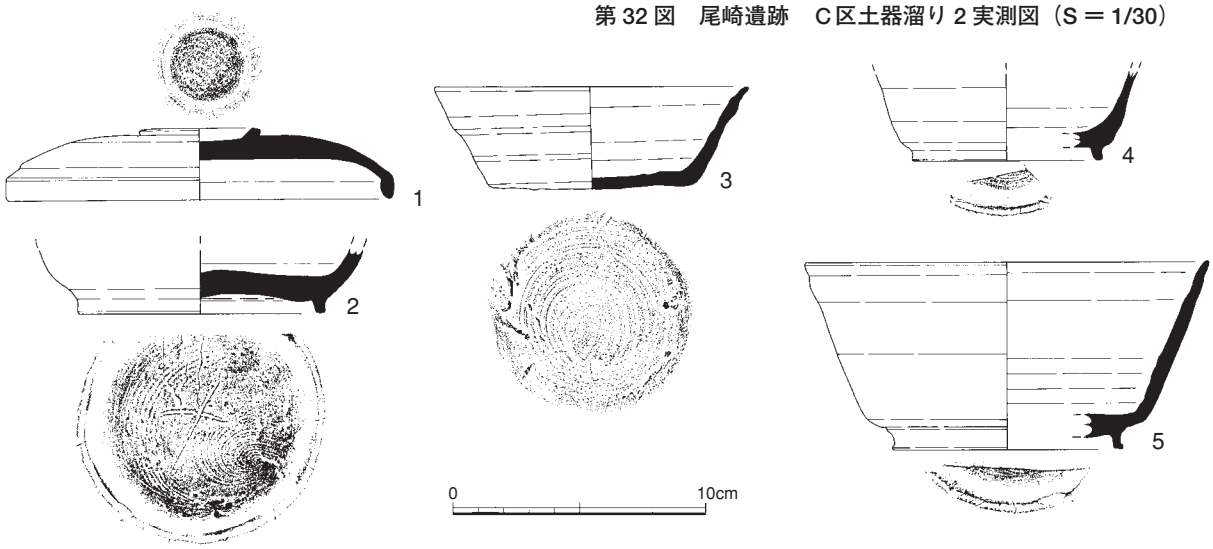
時期と性格　出土遺物は全体としてみると、1は高広ⅣA期、2もその可能性があり、3～5が高広ⅣB期に属すとみられ、8世紀中葉から後半にかけてのものと考えられる。性格は不明であるが、出土した暗褐色土には若干の地山ブロックが含まれており、先述の柱穴1の最上層が堀込まれていることから整地土層と考えている。

（8）遺構外出土遺物（第34・35図）

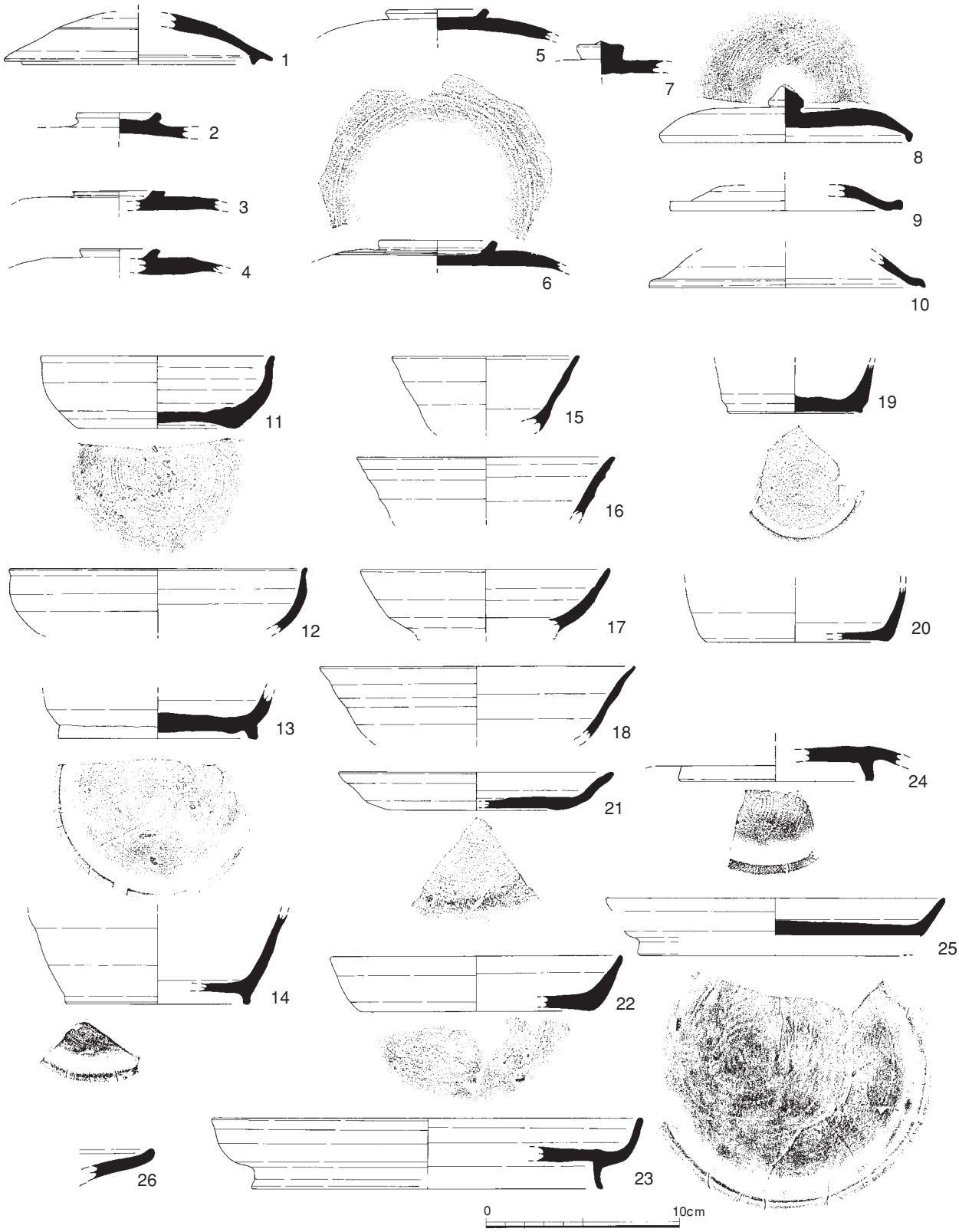
1～10は須恵器蓋である。1は端部にかえりを持つ資料で、頂部の状況は不明ながら輪状つまみではない模様である。高広ⅢA期。2～6は輪状つまみを持つ蓋である。6はつまみ外周に2条の沈線状のものが見えるが、ヘラケズリによる周辺の差粒の動きも多く確認でき、単なるヘラケズリ痕跡の可能性がある。高広ⅣA期。8は宝珠状のつまみを持つ資料である。頂部外面には回転糸切り痕が残る。端部は下方に引き出しており高広ⅣAとBの中間的存在で、出雲市青木遺跡のⅡ期ないしⅢ期のはじめに当たる[1]。9・10は端部が屈曲し下側に飛び出す若干のアクセントを持たせた資料である。高広ⅣB



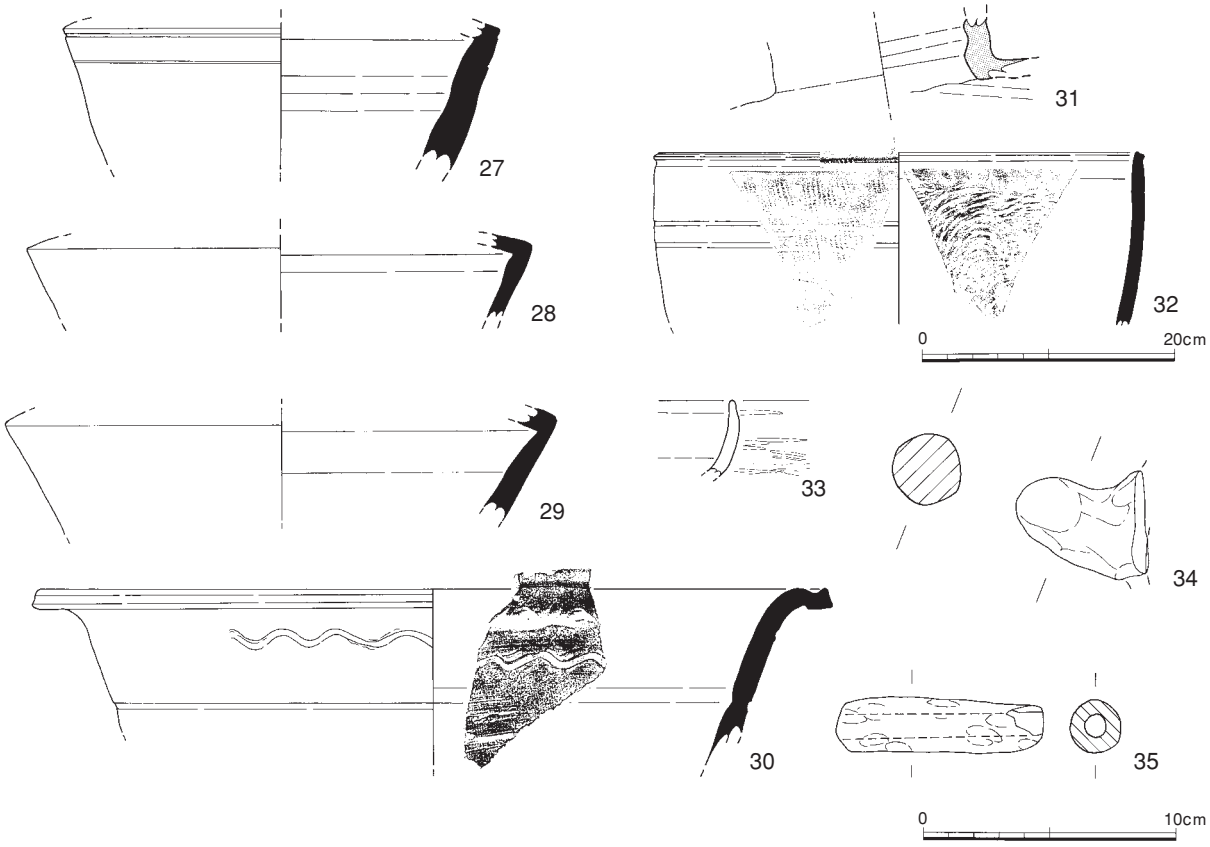
第32図　尾崎遺跡　C区土器溜り2実測図（S＝1/30）



第33図　尾崎遺跡　C区土器溜り2出土遺物実測図（S＝1/3）



第 34 図　尾崎遺跡　C 区遺構外出土遺物実測図（1）（S ＝ 1/3）



第 35 図　尾崎遺跡　C 区遺構外出土遺物実測図（2）（S ＝ 1/3　32 ・ S ＝ 1/6）

期。11 ・ 12 は無高台の体部に丸みを持つ坏である。いずれも口縁端部の折り曲げは不明瞭で高広Ⅳ B 期以降の資料であろう。13 ・ 14 は体部が直線的に外反する高台付坏で高台の位置は最外周にある。高広Ⅳ B 期。15 ～ 18 は坏の口縁部～体部である。17 をのぞき直線的で外反する体部を持つ。17 はやや丸みを帯びる資料である。19 は体部が直立する小型の坏で、底部外面は削り出しによって高台状を呈している。20 は体部が直立する無高台の坏である。21 ・ 22 は無高台の皿である。21 は大きく外反、22 は直立気味である。23 ～ 25 は高台付きの皿で比較的高い高台を持つ。これらの皿は高広Ⅳ B 期に相当すると考えられる。26 は口縁部が大きく開く器種不明の須恵器である。口径は大きいと推定され、高坏の坏部の可能性が高い。27 ～ 29 は須恵器壺類の肩部である。30 は須恵器甕の口縁部である。口縁端部屈曲部の顎下・頸部にそれぞれヘラ書きの波状文を有する。31 は灰釉陶器平瓶の小片である。32 は須恵器鉢である。頸部外面にタタキののち沈線状に二条ナデた痕跡がある。内面は同心円タタキが施される。33 は外面に横方向のミガキが施される土師器坏である。34 は甑把手である。35 は中型の管状土錘である。

*1 島根県教育委員 2006『青木遺跡Ⅱ』。

第４章　総括

今回の発掘調査によって、尾崎遺跡は弥生時代後期～中世にかけて営まれた複合遺跡であることが判明した。調査区は約 400 ㎡と決して広くはなく、遺跡の全体像が把握されたとは必ずしもいえないが、以下時代を追って遺跡の状況についてまとめてみたい。

調査区の概要　まず、あらためて調査区の状況について概略を述べてみたい。調査区は下宇部尾の平野を望む基盤層の標高 5 ～ 6m の平地部（A ・ B 区）と、その北に隣接する同標高 6 ～ 8.5m の丘陵部南斜面（C 区）からなる。基盤層は平地部で緑灰色の砂礫土であり、丘陵部近くから黄褐色の粘土となる。また、丘陵端部すなわち A 区と C 区の堺周辺は A 区を谷水田にするとき、平坦面の拡張が行われ斜面がカットされている。このため平地部 A 区と斜面 C 区にある古代の遺構は連続しない。

弥生時代～古墳時代

この時代の遺物は、少量が平地部の A ・ B 区から出土している。その内容としては、弥生時代後期初頭、松本出雲Ⅴ－１様式ないし草田１期の資料が中心であり（第 13 ・ 21 図）、そののちは若干草田５期の資料が見られる程度である（第 20 図）。また弥生時代終末～古墳時代に入ると、やはり A 区で低脚坏か甕類が出土、さらに小型丸底壺、内外面にハケを施し口縁端部が大きく外反する壺と考えられる土器片（以上第 13 図）が出土しているが、特に後者については類例がみられない。

なお、古墳時代前期の遺物を含む A 区 SD01 は、遺構としてみた場合、浅く不整形である。実態としては自然に形成された小流路であり、遺物も移動してきた資料と考えられる。このほか丘陵部側では弥生～古墳時代中期の遺物はなく、遺構も確認されていない。当該期にあっては、調査区は遺跡の中心ではなかったと考えられる。

次に古墳時代後期については、大谷出雲４期ころの須恵器が若干みられるのみで（第 17 図）、遺跡の様相はほとんどわからない。

飛鳥、奈良・平安時代以降

７世紀後半以降になると、遺構も確認されるようになる。C 区の南端よりでは、重複する加工段１～３が認められる。このうち最下層の加工段３の時期は不明であるが、加工段２からは高広Ⅲ A 期、端部にかえりを持つ輪状つまみの蓋・浅く丸みを持つ高台付坏が一括的に出土している（第 30 図）。さらにこの加工段２が埋まった後、再度掘削された加工段１でもほぼ同様の時期の遺物が出土しており（第 27 図）、立て続けに加工段が営まれたものと推測される。ただし、調査区で出土する遺物量としては当該期の資料は少なく、当然 C 区から遺物が流入したと考えられる A 区土器溜まり１、A ・ B 区の包含層にもほとんど確認できず、遺物をあまり残さぬ性格の遺構群であった可能性もある。

この C 区の加工段が埋没した後はいったん土壌化した黒褐色土が形成される。さらにこの黒褐色土の上に整地土が盛られ、C 区東壁際で確認されている SB01 礎盤建物、礎石建物の柱穴１などはともにこの整地土の上から堀込まれていることが確認される（第 23 図）。整地土には高広Ⅳ B 期の前半に位置づけられる土器溜まり２があることから、建物群が営まれたのは高広Ⅳ B 期以降とみられる。建物の年代は直接的には不明であるが、C 区出土の須恵器は若干の高広Ⅳ A 期を含み、高広Ⅳ B 期に急激に増加し中心をなしていること、A 区の土器溜まり１、および A ・ B 区の遺構外出

土遺物も同様に高広ⅣB期を中心としており、この時期（8世紀後半）に調査区周辺で遺跡が充実していることは間違いないものと思われる。続いて高広Ⅴ期の資料は数量が減り、その後高台を持つ土師器坏類が若干残り、12世紀頃の青磁碗をもって遺構の遺物はみられなくなる。また、こののち丘陵部の頂上付近は全体的に削平された模様で、奈良平安時代の土層が完全に失われ、平坦面端に溝（SD04）が掘られる程度となる（第23・24図）。

8世紀後半の尾崎遺跡について

以上述べたように、尾崎遺跡の調査対象地では7世紀後半に斜面端部に加工段が形成され、そののち谷側に盛り土がなされ、その上に礎石・礎盤建物が造営された模様である。その時期は厳密には不明であるが概ね8世紀後半としてよいだろう。以下、当該期の遺跡の性格についてその特徴をまとめておきたい。

1．遺構　遺構については、礎石建物柱穴・礎盤建物の存在が確認される。両者ともに規模は不明であるが、8世紀後半でも一般的な建物とは想定できず、やや大型で、社会的な階層上位の建物が存在したとみられる。

2．須恵器：土師器の比率　出土遺物は図化できるものをみると須恵器が多いが、破片をみると須恵器と土師器の比率は概ね1:1であり、また、必ずしも供膳具が中心とはいえない。これは特にA区に流れ込んだ土師器が量は少なくないもののほとんど実測不能であることによるもので、必ずしも土師器が少ないわけではない（破片の量は1：1）。

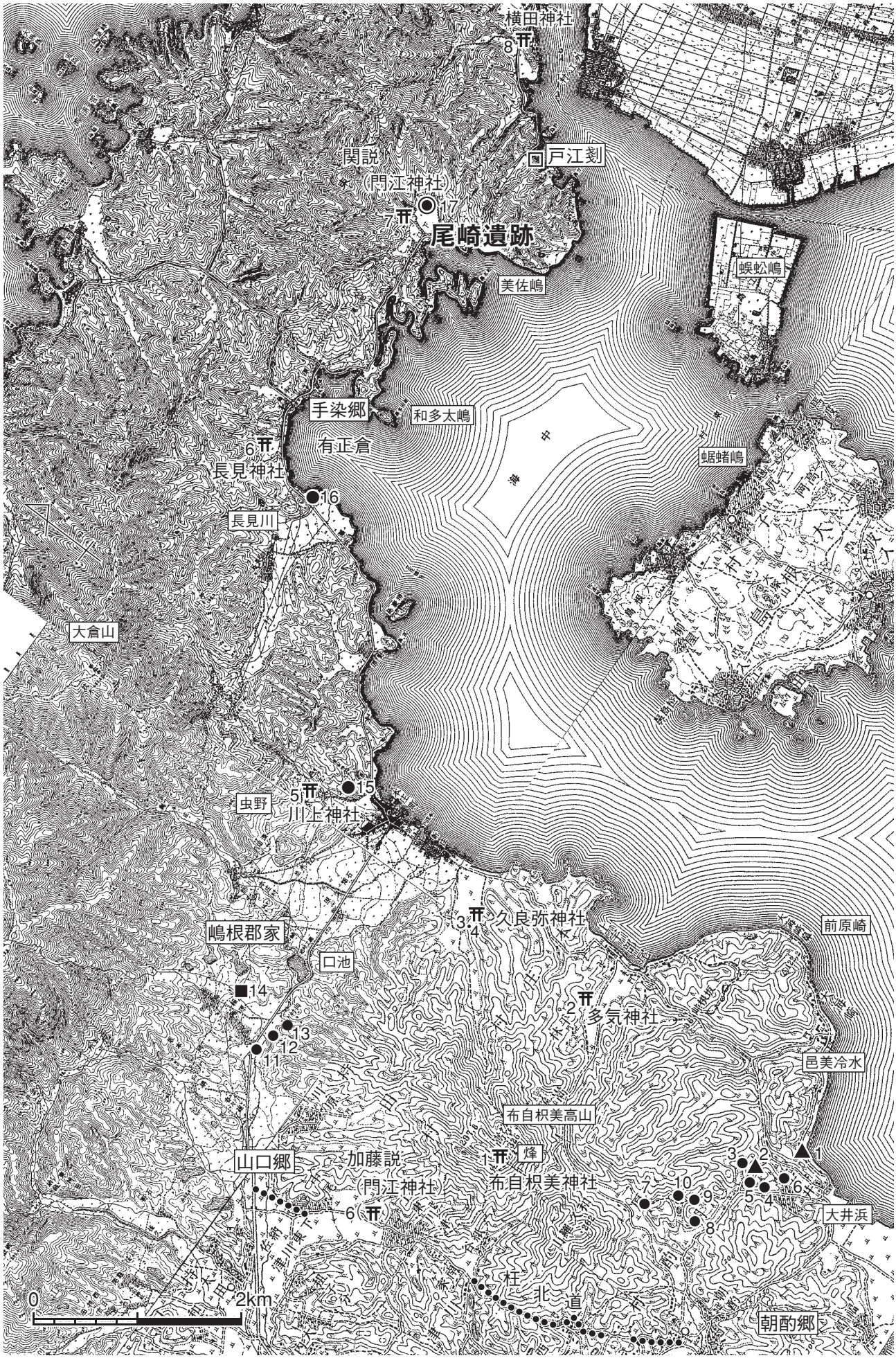
3.特殊な遺物について　出土須恵器は全般的にみると一般的といえるが、水瓶（第12図22）・托の破片（第17図110）、底径が小さく薄手の壺G類（同118）、灰釉陶器と思われる平瓶（第35図31）、須恵器鉢（第35図32）、そして管状土錘多数（合計32個出土）の出土（後述）を挙げることができる。これらのうち前4者は一般的に仏教関係の遺物とみられるが、その数は少なく、出雲地域の「村落内寺院」に多くみられるとされる灯明皿形土器の出土もない[*1]。また、朝酌・大井地区～福

表1　尾崎遺跡周辺の仏教関係遺物ほかの出土遺跡

			仏教関係遺物（須恵器）						その他の遺物				文字資料		備考	文献
	番号	遺跡名	水瓶	鉄鉢形土器	灯明皿形土器	托	多嘴瓶	壺G類似壺	鉢	須恵器甑	権	土馬	墨書土器	木簡		
大井窯跡近傍	1	山津窯跡・山津遺跡	●	●	●				●		●	●			須恵器窯	1
	2	池の奥窯跡										●			須恵器窯	2
	3	池の奥A遺跡		8												2
	4	イガラビ遺跡				1					1	16				3
	5	イガラビ古墳群							1							3
	6	九日田遺跡										6				4
窯跡周辺	7	朝酌荒神谷遺跡										1				3
	8	薦沢A遺跡							3	14		37				5
	9	別所遺跡		2					3	2		13				5
	10	三大寺遺跡		1							1				集落	6
島根郡中央部	11	東前田遺跡			8		1						4		墓地	7
	12	中嶺遺跡				1		1			1				集落	7
	13	大谷口遺跡							1					1		7
	14	連行遺跡							1						集落	8
	15	芝原遺跡							1				13		郡司居宅	9
	16	寺の脇遺跡										1				10
	17	尾崎遺跡	1			1		1	1				5			本書

凡例　数字は出土点数。
●は窯跡での生産の可能性のある遺物
番号は第36図の遺跡番号に対応

文献
1 松江市教育委員会2006『大井窯跡群 山津窯跡・山津遺跡発掘調査報告書』
2 松江市教育委員会1990『池ノ奥A遺跡・池ノ奥窯跡群』
3 松江市教育委員会1990『釜田遺跡・朝酌荒神谷遺跡・イガラビ遺跡・イガラビ古墳群・池ノ奥古墳群・池ノ奥C,D遺跡』
4 松江市教育委員会2000『九日田遺跡』
5 松江市教育委員会1988『薦沢A遺跡・薦沢B遺跡・別所遺跡』
6 島根県教育委員会2009『三大寺遺跡』（刊行予定）
7 島根県教育委員会2007『東前田遺跡・大谷口遺跡・中嶺遺跡・金クソ谷遺跡1・2・3区』
8 島根県教育委員会2002『馬場遺跡・杉ヶ撓遺跡・客山墳墓群・連行遺跡』
9 松江市教育委員会1989『芝原遺跡』
10 島根県教育委員会1967『寺の脇遺跡』



第36図　尾崎遺跡と古代の島根郡（S＝1/50000）　　凡例□は『出雲国風土記』記載地

神社は延喜式による（番号は島根郡での記載順）

原にかけての島根郡の東側では、仏教的な要素のある遺物その他分布の中心が朝酌大井地域にあると推定される資料ががしばしば少量遺跡から出土する事例が散見される（表２）。もちろん、これらの遺物の背景に８世紀後半からの在地社会への仏教の浸透をみて、それぞれの遺跡が仏教関係遺跡である可能性もある（出土量の多い東前田遺跡は墓地と考えられる）。しかし、いずれも須恵器で、多くが大井窯跡での生産が知られている点は留意する必要がある（大井での生産が確認されていない壺Ｇ類・多嘴瓶除く）。周辺遺跡での悉皆的な遺物構成要素の調査などが必要であるとは考えるが、島根郡東部地域が、同郡朝酌・大井地域の須恵器生産活動に対して人や物資を提供したいわゆるヒンターラントであり、人・ものの交流の中で、仏教信仰に必要な道具のセットとしてではなく、単品少量が伝播している可能性も検討するべきであろう（表２参照）。

４.管状土錘について　本遺跡からは合計 32 点が出土している。土錘について近現代の製作・使用状況を含めて考察を加えた内田律雄氏の検討によると、土錘は基本的に網の浮力に対応して大きさが決定され、網・土錘自体を目立たせなくする目的もあり（特に刺網用）、常に細い糸を使用する軽量な土錘が指向された[*2]。この指摘に従えば、32 点のうちの過半を占める中型とした管状土錘、直径 3.0 ㎝、長さが６㎝、重量 40g 程度と推定される資料群がまとまったある時期の漁網に関わる土錘の形態を示していると考えられる。その時期は厳密には不明であるが、土錘の多くが出土したＡ区の出土遺物総体の時期と比較すれば、高広Ⅳ Ｂ期８世紀後半代になろうか。遺跡の所在地はまさに中海を見下ろす南斜面にあり、その点からみれば、現在よりも湾に近い状況であったと想定される古代の中海（『出雲国風土記』の「入海」）の漁業を考えるうえで参考となる資料になるだろう。

５.墨書土器について　本遺跡からは墨書土器が合計５点出土している。墨書土器の出土と遺跡の性格付けを巡っては、かつては官衙遺跡を判断する上での指標とされた側面があったが、そののちの関東地方を中心に集落からの墨書土器の大量出土が広く確認されるようになり、単純に墨書土器の出土を識字層の居住・官衙施設の存在と結びつけることは難しくなっている[*3]。墨書の内容その他墨書土器の役割を検討したうえで、出土遺跡の性格付けが必要になっているといえよう。

出雲地域における墨書土器の出土の動向全体について、本書で述べる状況ではないが、関東地方で知られるような同一文字ないし記号を多量に墨書する事例はあまり確認されていないものの、奈良・平安時代の遺物が一定程度出土している遺跡では、墨書土器が数点は出土している事例は多い[*4]。本遺跡も基本的には同様の事例である可能性があるが、「郷長」「門家」などの墨書は、官衙の所在を示すものではないものの、いわゆる郷長の居宅や後述する「ヤケ」など、一定の拠点的施設を想起させる墨書土器である。ただし、墨書土器の時期についても表３に挙げたように、遺物全体が高広Ⅳ Ｂ期であるのに対し、年代の推定できるものではやや古いⅣ Ａ期８世紀前半の資料からなる点は留意される。

表2　尾崎遺跡の墨書土器一覧

	種別	器種	文字種	記名部位	釈文	時期	出土地点	図版番号
1	須恵器	蓋	墨書	頂部外面	「□」	高広IVA期	A区土器溜まり1	11-1
2	須恵器	坏	墨書	底部外面	□	高広IVA期	A区土器溜まり1	11-18
3	須恵器	坏	墨書	底部外面	「郷長」		A区土器溜まり1	12-19
4	須恵器	坏	墨書	底部外面	「門家」		A区遺構外出土	15-69
5	須恵器	皿	墨書	底部外面	□〔井ヵ〕」		A区遺構外出土	16-102

このうち、特に墨書土器「門家」が問題となる。「家」の文字は8世紀にあってはしばしば宅と通用し、ヤケと読まれており、ヤケは拠点的施設を指すからである[*5]。

また、『延喜式』巻十神名下の出雲国のいわゆる式内社の記載は、一続きのルートに添って神社名が記載されていることが指摘されているが（一般的には国司の神社参拝経路とされる）[*6]、ここでは門江神社は「長見神社、門江神社、横田神社」の順で記載されている。このうち、長見神社は現松江市長海町に比定して大過なく、横田神社も通説通り美保関町森山の横田山周辺とすると、すでの関和彦氏が指摘するように門江神社の所在地は現在の手角あるいは遺跡の所在する下宇部尾周辺が最も適当であると言うことになろう[*7]。さらに「門」についても神門（カムト）＝神戸（カムト）の事例のように古代では「ト」ないし「ド」の読みが存在した[*8]。そこで周辺の古代地名をみれば『出雲国風土記』島根郡条に見える戸江剗（とえ）が想起される。この戸江剗は、対岸の境港市外江（とのえ）町などから、現在の美保関町森山字古関の福島造船所付近とする説が最も説得力があるといえる[*9]。この戸江剗推定地はまさに遺跡から小さな峠を一つ越えて境水道側にでた場所であることを念頭に置けば、下宇部尾～森山にかけての地域が古代にあっては戸江（とえ）＝門江（とえ）であり、その地域の拠点的施設が平野のある下宇部尾地域に所在した可能性は低くないと思われ、墨書土器「門家」（門江の家の略）はその施設に所属した土器であることを明記したものであると推定される（第36図参照）。

まとめ　以上のような8世紀代の本遺跡の状況を勘案すれば、郡家本体レベルの官衙施設、あるいは村落の仏堂そのものなどの仏教を中心的性格とする施設を想定することは困難である。しかし、1や5から在地社会における何らかの拠点施設（これに仏教関係施設が付随している可能性はある）の存在を想定することが許されよう。『出雲国風土記』の記載を参考とすれば、戸江剗に関わる何らかの施設、島根郡手染郷条に「有正倉」として見える島根郡家の正倉別院など、いわゆる末端官衙（しばしばその存在形態は在地有力者の居宅と未分化であると想定される）が該当しようか。いずれにせよ、本庄町以北の中海沿岸にあって、遺跡の所在する下宇部尾地区は長海町と並んで最も平野部の広い地域であり、今後の本遺跡周辺の調査が期待される。

---

*1 林健亮 2000「灯明皿形土器からみた仏教関係遺跡」『出雲古代史研究』10。

*2 内田律雄 2009「内水面漁業における土製漁網錘」『古代日本海の漁撈民』（同成社）。

*3 代表的な研究として平川南『墨書土器の研究』（吉川弘文館）など。

*4 松江市下り松遺跡・田中谷遺跡（島根県教育委員会 2002『田中谷遺跡・下り松遺跡・塚山古墳・角谷遺跡』）、出雲市九景川遺跡（島根県教育委員会 2008『九景川遺跡』）、大田市仁摩町ナメラ迫遺跡（島根県教育委員会 2008『中祖遺跡・ナメラ迫遺跡』）など他多数。特にここに挙げた遺跡では墨書土器以外の遺構などで官衙的要素は確認されていない。

*5 吉田孝 1983「イヘとヤケ」『律令国家と古代の社会』岩波書店。

*6 朝山晧 1999「出雲の国の式内社」『出雲国風土記とその周辺』（島根県教育委員会、初出 1952）。

*7 関和彦 2006『出雲国風土記註論』（明石書店）。なお、加藤義成氏の『出雲国風土記参究』（1957 松江今井書店）では風土記抄の東川津町国石大明神説を採るが、前述のような延喜式記載から誤りとみられる。

*8 内田律雄 2005「出雲国風土記に見える社について（二）」『出雲古代史研究』15

*9 森山公民館 1986『もりやま（創刊号）』、関前掲註7論文。ただし、近世・美保関往還ルート（第1図参照）が示すように、陸上交通路は関谷を通っていた可能性があり、加藤義成氏の戸江剗＝関谷所在説も捨てがたいものがある（註7文献）。いずれの場合も行論上は問題ない。

表１　尾崎遺跡出土遺物観察表

図版	番号	区	出土地点	種別	器種	遺存	器高(cm)	口径(cm)	直径(cm)	胎土	色調	焼成	調整・手法の特徴	備考
7	1	A	SD01	土師器	甕	小片	(2.0)	(19.2)	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：体部ケズリ口縁部ナデ 外面：体部ハケメ口縁部ナデ	
7	2	A	SD01	土師器	低脚坏	小片	(2.7)	—	(7.6)	1mm 程度の白色透明砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：ナデ 外面：ナデ	
7	3	A	SD01	土師器	高坏	1/2 未満	(4.1)	—	10.4	1mm 以下の白色黒色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：ナデ 外面：ナデ	
7	4	A	SD01	砥石		小片	長：(3.1)　幅：(2.5) 厚：(2.0)　重：(19.8g)							
9	1	A	SD02	須恵器	蓋	1/2 未満	(1.3)	—	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：7.5Y5/1	良好	内面：頂部回転ナデ 外面：頂部回転ナデ	
9	2	A	SD02	須恵器	甕	小片	(4.0)	—	(5.0)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：不明 外面：10Y7/	良好	内面：漆のため不明 外面：体部回転ナデ下端部回転ヘラケズリ底部ヘラ切り	内面・破面漆付着底部にヘラ記号
9	3	A	SD02	土製品	移動式竈	小片	—	—	—	2mm 程度の白色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：ナデ　ケズリ 外面：ナデ　ハケ	
11	1	A	土器溜り 1	須恵器	蓋	1/2 以上	2.7	(16.4)	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：N7/0 外面：10Y7/1	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部静止糸切りのちナデ肩部ヘラケズリ体部回転ナデ	頂部外面輪状つまみ内側に墨書「□」
11	2	A	土器溜り 1	須恵器	蓋	1/2 未満	2.2	(14.4)	—	2mm 大の白色砂粒含む	内面：N4/0 外面：N5/0	良好	内面：頂部ナデ体部ヘラケズリのちなで 外面：肩部ヘラケズリ体部回転ナデ	頂部外面外縁に沈線２条か
11	3	A	土器溜り 1	須恵器	蓋	小片	(1.8)	(13.0)	—	1mm 大の白色砂粒含む	内面：N6/0 外面：N6/0	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部回転糸切り肩部ヘラケズリ体部回転ナデ	
11	4	A	土器溜り 1	須恵器	蓋	小片	(1.3)	(13.8)	—	2mm 大の白色砂粒含む	内面：N4/0 外面：N3/0	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ	
11	5	A	土器溜り 1	須恵器	蓋	1/2 未満	(1.6)	(14.3)	—	0.5mm 以下の白色砂粒含む	内面：N6/0 外面：N5/0	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ	
11	6	A 及び拡張区	土器溜り 1	須恵器	蓋	1/2 未満	(2.0)	(13.6)	—	1mm の白色砂粒含む	内面：10Y6/1 外面：10Y6/1	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部回転糸切り後ナデ体部回転ナデ	頂部外面外縁に沈線２条
11	7	A	土器溜り 1	須恵器	蓋	1/2 以上	(1.9)	(14.0)	—	3mm 程度の砂粒含む	内面：N7/0 外面：N7/0	良好	内面：頂部ナデ体部ナデ 外面：頂部回転糸切り後ナデ体部回転ナデ	頂部外面外縁に沈線２条
11	8	A	土器溜り 1	須恵器	蓋	1/2 未満	3.4	(17.6)	—	1mm 大の黒色砂粒含む	内面：10Y5/1 外面：10Y5/1	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部回転ナデ肩部ヘラケズリ体部回転ナデ	
11	9	A	土器溜り 1	須恵器	蓋	1/2 未満	(2.5)	(19.4)	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y4/1 外面：10Y5/1	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：回転ナデ	
11	10	A	土器溜り 1	須恵器	蓋	1/2 未満	(1.5)	(17.6)	—	2mm 大の白色砂粒含む	内面：10Y4/1 外面：10Y5/1	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部回転糸切り体部回転ナデ	
11	11	A	土器溜り 1	須恵器	蓋	1/2 以上	(2.3)	(18.1)	—	2mm 大の白色砂粒含む	内面：5YR5/1 外面：5YR5/1	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部回転糸切り後ナデ体部回転ナデ	
11	12	A	土器溜り 1	須恵器	坏	小片	(2.5)	—	(6.2)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10BG5/1 外面：10G5/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
11	13	A	土器溜り 1	須恵器	坏	1/2 未満	(3.0)	—	(7.4)	1mm 以下の黒色砂粒含む	内面：7.5Y7/1 外面：7.5Y7/1	不良	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
11	14	A	土器溜り 1	須恵器	坏	小片	(2.8)	—	(8.0)	1mm 以下の白色黒色砂粒含む	内面：N6/0 外面：N6/0	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ外面：体部回転ナデ	
11	15	A	土器溜り 1	須恵器	坏	1/2 未満	(3.0)	—	8.0	0.5mm 以下白色砂粒含む	内面：10R6/2 外面：7.5Y5/2	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
11	16	A	土器溜り 1	須恵器	坏	1/2 未満	(2.2)	—	(8.0)	1mm 以下の色砂粒含む	内面：10Y6/1 外面：10Y5/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
11	17	A	土器溜り 1	須恵器	坏	小片	(3.0)	(14.4)	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：2.5GY5/1 外面：5GY5/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
11	18	A	土器溜り 1	須恵器	坏か皿	小片	(2.6)	—	(10.4)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：5GY5/1 外面：5GY5/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	底部外面に墨書□
12	19	A	土器溜り 1	須恵器	坏か	1/2 未満	(0.9)	—	(8.4)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：2.5GY5/1 外面：5GY5/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	底部外面に墨書「郷長」 底部内面墨痕。転用硯。

図版	番号	区	出土地点	種別	器種	遺存	器高(cm)	口径(cm)	直径(cm)	胎土	色調	焼成	調整・手法の特徴	備考
12	20	A	土器溜り1	須恵器	皿	小片	(3.3)	(12.2)	—	1mm以下の黒色砂粒含む	内面：N7/0 外面：N7/0	不良	内面：不明 外面：体部回転ナデ底部回転糸切りか?	
12	21	A	土器溜り1	須恵器	皿か	小片	(1.7)	—	(12.4)	精緻	内面：N5/1 外面：N6/1	良好	内面：ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
12	22	A	土器溜り1	須恵器	水瓶壺	1/2未満	(9.0)	—	—	1mm以下の白色砂粒含む	内面：N4/4 外面：N4/4	良好	内面： 外面：回転ナデ	
12	23	A	土器溜り1	須恵器	壺類	小片	(3.8)	(16.0)	—	0.5mm以下の白色砂粒含む	内面：N8/0 外面：N8/0	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
12	24	A	土器溜り1	須恵器	壺類	小片	(5.2)	—	(14.2)	1mm以下の黒色砂粒含む	内面：N7/0 外面：N7/0	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ	
12	25	A	土器溜り1	須恵器	短頸壺	小片	(7.3)	—	—	1mm以下の黒色砂粒含む	内面：N6/1 外面：5GY3/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
12	26	A	土器溜り1	須恵器	甕	小片	(8.0)	(17.6)	—	1mm以下の白色砂粒含む	内面：N5/0 外面：5GY7/1	良好	内面：体部同心円タタキ口縁部回転ナデ 外面：体部平行タタキ口縁部回転ナデ	
12	27	A	土器溜り1	土師器	坏	1/2以上	(2.2)	—	(6.4)	1mm以下の砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
12	28	A	土器溜り1	土師器	坏	小片	(1.9)	—	(7.2)	精緻	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	不良	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
12	29	A	土器溜り1	土師器	坏	1/2未満	(2.4)	—	(6.6)	精緻	内面：10YR7/1 外面：5YR6/2	不良	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
12	30	A	土器溜り1	土師器	甕	小片	(4.9)	(20.6)	—	1mm以下の白色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：口縁部ナデ体部ケズリ 外面：口縁部ナデ	
12	31	A	土器溜り1	土製品	土錘	1/2以上	長(7.9) 幅4.7 孔径(1.8×1.4) 重さ(89.0g)			1mm大の砂粒含む	10YR7/3	良好		
12	32	A	土器溜り1	土製品	土錘	1/2未満	長(5.3) 幅(3.4) 孔径(1.4) 重さ(21.4g)			1mm以下の白色砂粒含む	10YR7/3	良好		
12	33	A	土器溜り1	土製品	土錘	1/2以上	長4.3 幅3.0 孔径1.1×1.0 重さ39.4g			1mm以下の白色砂粒含む	10YR7/3	良好		
13	1	A	PNO18	弥生土器	甕	小片	(2.7)	(12.4)	—	精緻	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：体部ケズリ口縁部ナデ 外面：体部ハケ口縁部擬凹線文	
13	2	A	東南4層 PNO13	弥生土器	甕	1/2未満	(10.0)	(15.6)	—	1mm程度の白色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：体部ケズリ口縁部ナデ 外面：体部ハケ・列点文口縁部擬凹線文	
13	3	A	東中4層～2層	弥生土器	甕	小片	(2.4)	(19.2)	—	1mm程度の白色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：口縁部ナデ体部ケズリか? 外面：口縁部擬凹線文	
13	4	A	南東4層～2層 東中1～2層	弥生土器	鉢か高坏	小片	(3.1)	(21.6)	—	1mm程度の白色黒色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：ナデ 外面：体部ナデ口縁部擬凹線文	
13	5	A	南東4層～2層	弥生土器	甕	小片	(2.1)	—	(4.6)	細かく砂粒多く含む	内面：不明(焼色のため) 外面：7.5Y6/4	良好	内面：不明 外面：体部ナデハケメ	
13	6	A	排水溝	弥生土器	甕	小片	(1.7)	—	(1.7)	精緻	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：体部ケズリ底部ナデ 外面：体部ハケ	
13	7	A	南東4－2層	土師器	高坏	小片	(3.1)	—	—	1mm以下の白色砂粒含む	内面：5YR6/4 外面：7.5YR6/4	良好	内面：ナデ 外面：ナデ	
13	8	A	南西4層	土師器	甕	小片	(4.2)	(15.6)	—	1mm以下の白色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：口縁部ナデ一部ハケメ 外面：ナデ	
13	9	A	南西4層	土師器	甕	小片	(5.3)	(14.9)	—	1mm以下の砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：ナデ 外面：ナデ	
13	10	A	PNO19	土師器	小型丸底壺	1/2未満	(11.0)	—	—	1mm以下の白色砂粒含む	内面：2.5GY6/2 外面：2.5GY6/2	良好	内面：体部ケズリ底部ケズリ頸部ナデ 外面：体部ハケメ底部ナデ一部ハケ頸部ハケ	
13	11	A	4－2層 東南　北 東 南東4層	土師器	壺	小片	(4.7)	(17.4)	—	0.5mm以下の砂粒含む	内面：2.5Y8/3 外面：2.5Y8/3	良好	内面：ハケ後ナデ 外面：ハケ後ナデ	
13	12	A	南東 3層追加	弥生土器	壺か？	小片	(5.0)		—	1mm大の白色砂粒含む	内面：2.5GY7/3 外面：7.5Y3/1	良好	内面：ケズリか? 外面：ナデ	櫛描直線文

図版	番号	区	出土地点	種別	器種	遺存	器高(cm)	口径(cm)	直径(cm)	胎土	色調	焼成	調整・手法の特徴	備考
13	13	A	南東 4-2 層	土師器	甑	小片				1mm 以下の黒色 砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：ナデ 外面：ナデ	
13	14	A	北排水溝	土師器	甑	小片				1mm 程度の白色 砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：ナデ 外面：ナデ	
13	15	A	黒褐色土	土製品	移動 式竈	小片	—	—	—	精緻	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：ナデ 外面：ナデ	
13	16	A	PNO4、5 北東 3 層	土師器	甕	小片	(7.7)	(27.0)	—	細かく黒色砂粒 含む	内面：5YR6/2 外面：10YR7/1	良好	内面：体部ケズリ口縁部ナデ 外面：体部ハケ口縁部ナデ	
13	17	A	南東 4 － 2 層	土師器	甕	小片	(5.0)	(20.4)	—	2mm 以下の白色 砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：体部ケズリ口縁部ナデ 外面：体部ハケ口縁部ナデ	
13	18	A	北西 3 層	土師器	甕	1/2 未満	(7.7)	(31.8)	—	1 ～ 3mm 大の白 色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：体部ケズリ口縁部ナデ 外面：体部ハケ口縁部ナデ	
13	19	A	北西 3 層 南東 3 層	土師器	甕	小片	(3.5)	(20.2)	—	2mm 程度の白色 透明砂粒含む	内面：2.5YR6/8 外面：2.5YR6/8	良好	内面：体部ケズリ口縁部ナデ 外面：口縁部ナデ	
13	20	A	PNO5、 10 北西 3 層	土師器	甕	小片	(14.8)	(36.2)	—	3mm 程度の白色 砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：体部ケズリ口縁部ナデ 外面：口縁部ナデ	
13	21	A	南東 4 － 2 層	土師器	甕	小片	(5.2)	—	—	1mm 以下の白色 砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：体部ケズリ口縁部ナデ 外面：体部ハケ口縁部ナデ	
14	22	A	北西 2 層	須恵器	蓋	小片	(2.9)	(13.4)	—	1mm 以下の白色 砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：7.5Y6/2	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：回転ナデ	
14	23	A	北西 3 層	須恵器	蓋	小片	(1.4)	—	—	1mm 以下の白色 砂粒含む	内面：7.5Y5/2 外面：7.5Y5/2	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
14	24	A	北排水溝	須恵器	蓋	小片	(2.5)	—	—	精緻	内面：7.5Y6/2 外面：7.5Y6/1	良好	内面：ナデ 外面：頂部ナデ体部回転ナデ	
14	25	A	北東 3 層	須恵器	蓋	1/2 未満	(1.2)	—	—	1mm 以下の白色 砂粒含む	内面：10Y6/1 外面：7.5Y5/1	良好	内面：回転ナデ 外面：頂部ナデ肩部ヘラケズリ	
14	26	A	西排水溝	須恵器	蓋	1/2 未満	(16.0)	—	—	1mm 以下の白色 砂粒含む	内面：7.5Y8/1 外面：7.5Y8/2	不良	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
14	27	A	北西 2 層	須恵器	蓋	小片	(1.8)	—	—	1mm 以下の白色 砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：7.5Y6/2	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
14	28	A	北西 4 層 南西 2 層	須恵器	蓋	小片	(2.0)	—	—	1mm 以下の白色 砂粒含む	内面：10Y7/1 外面：7.5Y7/1	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部ナデ体部回転ナデ	
14	29	A	南西 2 層	須恵器	蓋	小片	(2.6)	—	—	0.5mm 以下の黒 色砂粒含む	内面：5Y7/1 外面：5Y6/2	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部ヘラケズリ体部回転ナデ	頂部外面に竹管文
14	30	A	南西 2 層 北排水溝	須恵器	蓋	1/2 未満	(1.9)	—	—	1mm 以下の白色 砂粒含む	内面：7．5Y7/1 外面：7.5Y6/3	良好	内面：ナデ 外面：頂部ナデ体部回転ナデ	
14	31	A	西北 4 層	須恵器	蓋	1/2 未満	(1.7)	—	—	1mm 以下の白色 砂粒含む	内面：10GY4/1 外面：5G5/1	良好	内面：ナデ 外面：頂部静止糸切り後ナデ肩部 回転ヘラケズリ体部ナデ	
14	32	A	北西 4 層	須恵器	蓋	1/2 未満	1.9	—	—	1mm 以下の白色 砂粒含む	内面：7.5Y7/1 外面：7.5Y7/2	やや 不良	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
14	33	A	北西 4 層	須恵器	蓋	1/2 以上	(2.0)	—	—	1mm 程度の白色 砂粒含む	内面：N6/0 外面：N6/0	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部ナデ体部回転ナデ	
14	34	A	北西 4 層	須恵器	蓋	小片	(1.6)	(14.0)	—	微細の白色砂粒 含む	内面：7.5Y6/1 外面：10Y5/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
14	35	A	北東 3 層	須恵器	蓋	1/2 未満	(1.9)	(15.2)	—	3mm 程度の白色 砂粒含む	内面：2.5GY6/1 外面：2.5GY6/1	良好	内面：ナデ 外面：体部回転ナデ	
14	36	A	PNO6	須恵器	蓋	小片	(2.1)	(16.4)	—	1mm 以下の白色 砂粒含む	内面：N6/0 外面：2.5GY3/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
14	37	A	北西 2 層	須恵器	蓋	小片	(2.9)	(16.0)	—	1mm 大の白色砂 粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：7.5Y5/2	良好	内面：回転ナデ 外面：肩部ヘラケズリ体部回転ナデ	
14	38	A	北西	須恵器	蓋	小片	(1.8)	—	—	1mm 以下の白色 砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：7.5Y6/1	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	

図版	番号	区	出土地点	種別	器種	遺存	器高(cm)	口径(cm)	直径(cm)	胎土	色調	焼成	調整・手法の特徴	備考
14	39	A	北東	須恵器	蓋	小片	(2.3)	–	–	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/2 外面：10Y6/1	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
14	40	A	南西 2 層	須恵器	蓋	小片	(1.5)	–	–	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：N6/0 外面：N6/3	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
14	41	A	西溝	須恵器	蓋	小片	(1.6)	–	–	1mm 以下の砂粒含む	内面：7.5Y5/1 外面：7.5Y5/1	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
14	42	A	4 層	須恵器	蓋	小片	(1.0)	–	–	1mm 以下の黒色砂粒含む	内面： 外面：10GY6/1	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
14	43	A	南西 2 層	須恵器	蓋	小片	(1.6)	–	–	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5YR7/4 外面：7.5YR7/4	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
14	44	A	北東 3 層	須恵器	蓋	小片	(1.6)	–	–	0.5mm 以下の色砂粒含む	内面：10Y6/1 外面：7.5Y6/1	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
14	45	A	北東 3 層	須恵器	蓋	小片	(2.6)	–	–	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y7/1 外面：10Y7/1	不良	内面：摩滅のため不明 外面：摩滅のため不明	
14	46	A	北排水溝	須恵器	蓋	小片	(2.9)	–	–	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y5/1 外面：10GY5/1	良好	内面：ナデ 外面：肩部ヘラケズリ	沈線状のものが見える。
14	47	A	PNO2 北西 3 層	須恵器	蓋	1/2 未満	2.9	(13.5)	–	1mm 程度の白色砂粒含む	内面：10R4/2 外面：10R4/2	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部回転糸切り後ナデ肩部回転ヘラケズリ体部回転ナデ	
14	48	A	北層 4 層 上面 PNO23 層	須恵器	蓋	1/2 以上	3.3	13.4	–	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10R4/2 外面：10R4/2	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部回転糸切り後ナデ体部回転ナデ	
14	49	A	北西 3 層	須恵器	蓋	1/2 未満	3.3	(18.4)	–	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y7/1 外面：10Y7/1	不良	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部ヘラ切り体部回転ナデ	
14	50	A	西溝	須恵器	蓋	1/2 未満	(2.6)	–	–	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10Y5/1 外面：7.5Y5/1	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：肩部ヘラケズリ体部回転ナデ	
14	51	A	北東 3 層	須恵器	蓋	小片	(1.6)	(14.8)	–	細かい	内面：10R4/2 外面：10R4/2	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部回転糸切り後ナデ体部回転ナデ	
14	52	A	北西 2 層	須恵器	蓋	小片	(2.7)	–	–	1mm 程度の白色砂粒含む	内面：10GY6/1 外面：N4/1	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	頂部外面に沈線 1 条を持つ
14	53	A	PNO16	須恵器	蓋	1/2 以上	(2.1)	–	–	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10R7/1 外面：7.5Y6/1	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	肩部外面に沈線 1 条を持つ
14	54	A	南東 4 層 南東 4 層 上面	須恵器	蓋	1/2 未満	(1.7)	–	–	2mm 大の白色砂粒含む	内面：10Y6/1 外面：10Y5/1	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部回転糸切り肩部ヘラケズリ	
14	55	A	PNO7	須恵器	蓋	小片	(3.0)	(14.0)	–	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10Y7/1 外面：N7/0	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：肩部ヘラケズリ端部回転ナデ	
14	56	A	2 層南東	須恵器	蓋	小片	(1.2)	(15.2)	–	2mm 大の白色砂粒含む	内面：7.5Y3/2 外面：10Y4/1	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ	頂部外面に沈線 1 条を持つ
14	57	A	南西 2 層	須恵器	蓋	小片	(2.0)	(16.0)	–	1mm 程度の白色砂粒含む	内面：10R4/2 外面：10R3/1	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ	肩部外面に沈線 2 条を持つ
14	58	A	PNO26 北西 4 層 上面 北西 3 層	須恵器	蓋	1/2 以上	(2.6)	(16.6)	–	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：N4/0 外面：N3/0	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：回転ナデ	頂部外面に沈線 2 条を持つ
14	59	A	北西 3 層	須恵器	蓋	小片	(2.1)	(17.6)	–	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：N6/0 外面：N5/0	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：回転ナデ	
15	60	A	北西 3 層	須恵器	坏	1/2 未満	3.7	(11.4)	(8.0)	1mm 程度の白色砂粒含む	内面：10YR7/1 外面：5GY6/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部静止糸切り	
15	61	A	北排水溝	須恵器	坏	小片	(4.0)	(11.8)	(7.8)	1mm 程度の白色砂粒含む	内面：2.5GY6/1 外面：7.5Y5/1	良好	内面：体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部静止糸切り	
15	62	A	北西 4 層 上面 3 層	須恵器	坏	小片	(3.6)	(12.4)	–	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y5/1 外面：10Y5/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
15	63	A	北西 4 層	須恵器	坏	小片	(2.7)	(14.0)	–	1mm の白色砂粒含む	内面：N5/0 外面：N4/0	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
15	64	A	北西 3 層	須恵器	坏	小片	(3.6)	(12.2)	–	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：10Y6/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	

図版	番号	区	出土地点	種別	器種	遺存	器高(cm)	口径(cm)	直径(cm)	胎土	色調	焼成	調整・手法の特徴	備考
15	65	A	南東 4–2 層北東南東 4 層	須恵器	坏	1/2 未満	4.2	(12.6)	9.0	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：2.5Y6/1 外面：2.5Y6/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
15	66	A	北西 4 層	須恵器	坏	小片	(4.0)	(14.0)	–	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：7.5Y7/1	やや不良	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
15	67	A	ベルト	須恵器	坏	1/2 未満	(2.6)	–	(7.4)	1mm 程度の白色砂粒含む	内面：7.5Y7/1 外面：10Y7/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
15	68	A	南西 2 層	須恵器	坏	1/2 未満	(2.6)	–	(8.7)	1mm 大の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/2 外面：7.5Y6/2	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
15	69	A	西溝	須恵器	坏	小片	(1.3)	–	(6.6)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y4/1 外面：7.5Y4/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	底部外面に墨書「門家」
15	70	A	南排水溝 4 層	須恵器	坏	小片	(1.8)	–	(6.8)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：7.5Y6/1	良好	内面：底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
15	71	A	南東 2 層	須恵器	坏	小片	4.1	(10.6)	(7.6)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：10Y6/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
15	72	A	北西 4 層	須恵器	坏	1/2 未満	(3.8)	(11.7)	(10.0)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10Y6/1 外面：10Y6/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部ナデ	
15	73	A	北西 3 層 南東 3 層追加	須恵器	坏	小片	(3.8)	(13.6)	(8.6)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5GY6/1 外面：2.5Y7/2	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
15	74	A	4 層	須恵器	坏	1/2 未満	(3.3)	–	8.6	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10Y5/1 外面：10Y4/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部ナデ	
15	75	A	西溝	須恵器	坏	小片	4.0	(12.4)	(7.6)	0.5mm 以下の白色砂粒含む	内面：N6/0 外面：5G5/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸きり	
15	76	A	北西 4 層上面 北西 3 層 PN09	須恵器	坏	1/2 未満	4.7	(12.4)	(9.0)	1mm 大の白色砂粒含む	内面：7.5Y7/1 外面：10Y5/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
15	77	A	北西 4 層	須恵器	坏	1/2 未満	4.4	(13.4)	(9.0)	2mm 大の白色砂粒含む	内面：7.5Y5/1 外面：7.5Y4/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：回転ナデ	底部内面外周に沈線 2 条
15	78	A	北東 3 層	須恵器	坏	1/2 未満	(4.7)	(10.6)	–	0.5mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y7/1 外面：7.5Y7/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
15	79	A	北西 4 層	須恵器	坏	1/2 未満	(4.1)	–	(7.6)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10Y6/1 外面：10Y5/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切りのちナデ	底部内面外周に沈線 2 条
15	80	A	西溝 南東 4 層 北 4 層	須恵器	坏	小片	(3.4)	–	8.4	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：15YR6/4 外面：10Y4/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部ヘラ切りのちナデか	
15	81	A	西溝 南西 3 層	須恵器	坏	小片	(1.9)	–	(8.4)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5YR7/4 外面：5YR6/4	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
15	82	A	西溝 北西 2 層	須恵器	坏	1/2 未満	(2.0)	–	9.0	2mm 大の白色砂粒含む	内面：N5/0 外面：N5/0	良好	内面：底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
15	83	A	西溝	須恵器	坏	小片	(2.8)	–	(11.4)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y7/1 外面：7.5Y7/1	不良	内面：不明 外面：不明	
15	84	A	北排水溝	須恵器	坏	小片	(1.7)	–	(14.0)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10R6/1 外面：N6/0	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部不明底部回転糸切り後ナデ	
16	85	A	南西 2 層	須恵器	坏	小片	(3.9)	(14.4)	–	1mm 程度の白色砂粒含む	内面：7.5Y5/1 外面：7.5YG4/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
16	86	A	SD01 東 4 層	須恵器	坏	小片	(2.5)	–	–	0.5mm 以下の黒色砂粒含む	内面：5Y6/2 外面：5Y6/2	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
16	87	A	3 層	須恵器	坏	小片	(3.2)	–	–	1mm 大の黒色砂粒含む	内面：N8/0 外面：N8/0	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
16	88	A	4 層	須恵器	皿	小片	2.2	(12.0)	(8.8)	1mm 大の白色砂粒含む	内面：2.5YR4/2 外面：10Y4/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り後ナデ	
16	89	A	4 層	須恵器	皿	1/2 未満	2.3	(12.8)	(8.4)	1mm 大の黒色砂粒含む	内面：N4/0 外面：N4/0	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
16	90	A	北西 3 層	須恵器	皿	小片	2.1	(12.9)	(9.0)	1mm 程度の白色砂粒含む	内面：10Y4/1 外面：10Y3/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	

図版	番号	区	出土地点	種別	器種	遺存	器高(cm)	口径(cm)	直径(cm)	胎土	色調	焼成	調整・手法の特徴	備考
16	91	A	西溝	須恵器	皿	小片	2.3	(13.0)	(9.4)	1mm 大の白色砂粒含む	内面：7.5GY4/1 外面：N4/0	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
16	92	A	南西 3 層	須恵器	皿	小片	2.5	(16.6)	(10.0)	1mm の黒色砂粒含む	内面：10GY6/1 外面：10GY5/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
16	93	A	PNO26	須恵器	皿	1/2 未満	2.5	(15.1)	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10Y6/1 外面：10Y4/1	良好	内面：体部回転ナデ底部回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
16	94	A	南東 2 層	須恵器	皿	小片	(1.9)	(15.5)	—	1mm 程度の白色砂粒含む	内面：7.5Y5/1 外面：10Y5/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ	
16	95	A	西排水溝	須恵器	皿	1/2 未満	2.7	(13.6)	(10.6)	0.5mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：2.5GY5/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
16	96	A	北東 3 層	須恵器	皿	1/2 未満	2.3	(14.8)	(12.0)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5GY3/1 外面：10GY5/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り後ナデ	
16	97	A	北西 3 層	須恵器	皿	1/2 未満	2.9	(15.0)	(12.6)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y5/2 外面：7.5Y5/2	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	底部内面外周に沈線 1 条
16	98	A	北西 3 層 北西 4 層	須恵器	皿	小片	3.9	(20.2)	(11.2)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：N7/0 外面：N6/0	良好	内面：体部ナデか? 外面：回転ナデ	
16	99	A	北西 3 層	須恵器	皿	1/2 未満	(2.1)	—	(12.4)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：7.5Y5/2	良好	内面：底部回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り後ナデ	
16	100	A	SD01 東 4 層	須恵器	皿	1/2 未満	4.1	(19.1)	11.8	1mm 大の白色砂粒含む	内面：7.5Y5/2 外面：2.5GY5/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：回転ナデ	
16	101	A	SD01東4層 サブトレ4層	須恵器	皿	1/2 未満	(2.0)	—	(11.6)	1mm 程度の白色砂粒含む	内面：7.5GY5/1 外面：7.5GY5/1	良好	内面：底部ナデ磨滅 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	底部外面墨書□〔井ヵ〕」
16	102	A	排土 3 － 4 層	須恵器	皿	小片	(1.7)	—	(11.2)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5GY6/1 外面：7.5GY6/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
16	103	A	PNO15	須恵器	皿	1/2 未満	(1.7)	—	(10.6)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5YG5/1 外面：7.5YG5/1	良好	内面：底部ナデ 外面：回転ナデ	底部外面外周にヘラのアタリあり
16	104	A	北西 3 層	須恵器	皿	1/2 未満	(2.0)	—	(11.6)	1mm 程度の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：5YR6/2	不良	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
16	105	A	PNO17	須恵器	皿	小片	(2.2)	—	(11.8)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10Y6/1 外面：10Y5/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部静止糸切り	
16	106	A	北西 3 層	須恵器	皿	小片	(2.6)	(21.4)	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：N5/0 外面：N4/0	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	体部外面に沈線 1 条あり
16	107	A	北面 3 層	須恵器	皿	1/2 未満	3.0	21.0	(18.0)	0.1㎜以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：7.5Y7/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り後ナデ	
17	108	A	北西 3 層 第 3 層	須恵器	不明	小片	(2.0)	—	—	0.5mm 以下の白色砂粒含む	内面：5G6/1 外面：5G6/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
17	109	A	北西 3 層 ベルト	須恵器	不明	小片	(1.0)	—	—	0.5mm 以下の白色砂粒含む	内面：5B6/1 外面：5B6/1	良好	内面：底部ナデ 外面：底部回転糸切り	
17	110	A	北西第 4 層上面	須恵器	托	小片	2.0	(7.3)	(8.2)	1mm 大の白色砂粒含む	内面：5B7/1 外面：5B7/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
17	111	A	北東南東 4 層上面	須恵器	甕	小片	(3.2)	—	(4.0)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10Y6/1 外面：10Y5/1	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ヘラケズリ底部ヘラ切り	
17	112	A	北西 3 層	須恵器	甕	小片	(3.8)	—	(6.3)	細かい	内面：N8/0 外面：N8/0	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ヘラケズリ底部ヘラ切り	底部外面に＃のヘラ記号あり
17	113	A	西北 4 層	須恵器	甕	小片	(2.9)	—	(4.4)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：N6/0 外面：N5/0	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部ヘラ切り	
17	114	A	南西 3 層	須恵器	長頸壺	小片	(2.6)	(9.2)	—	1mm 程度の黒色砂粒含む	内面：N6/0 外面：N6/0	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
17	115	A	PNO25	須恵器	高坏	小片	(5.1)	—	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10Y6/1 外面：10Y5/1	良好	内面：体部ナデ脚部回転ナデ 外面：体部回転ナデ脚部回転ナデ	
17	116	A	北西	須恵器	高坏	小片	(10.2)	—	—	細かい	内面：7.5YR6/1 外面：7.5YR6/1	良好	内面：脚部回転ナデ 外面：体部ナデ脚部回転ナデ	

図版	番号	区	出土地点	種別	器種	遺存	器高(cm)	口径(cm)	直径(cm)	胎土	色調	焼成	調整・手法の特徴	備考
17	117	A	4層	須恵器	高坏	小片	(5.6)	–	–	1mm以下の白色砂粒含む	内面：10GY4/1 外面：10GY5/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
17	118	A	北東3層 北排水溝 北西3層 南西4層	須恵器	長頸壺	1/2以上	(8.8)	–	(5.6)	1mm程度の黒色砂粒含む	内面：N8/0 外面：7.5Y6/1	良好	内面：回転ナデ 外面：体部ナデ底部回転糸切り	平城宮壺G類に似る
17	119	A	南西2層	須恵器	長頸壺	小片	(2.1)	–	(7.4)	1mm程度の白色砂粒含む	内面：10Y7/1 外面：10Y7/1	良好	内面：ナデ 外面：体部回転ナデ底部ヘラ切り	底部外面に四つ葉のクローバー状のスタンプ
17	120	A	北排水溝	須恵器	壺類	小片	(4.4)	(5.3)	–	密に1mm大の黒色斑点1mm以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y4/1 外面：10Y4/1	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り後ナデ	
17	121	A	南東4層	須恵器	壺類	小片	(6.4)	–	(11.8)	精緻	内面：N6/1 外面：N6/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ	体部外面底部よりに沈線2条あり
17	122	A	南東2層	須恵器	甕	小片	(2.7)	(17.0)	–	1mm以下の白色砂粒含む	内面：5YR6/2 外面：10R4/2	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
17	123	A	北西3層	須恵器	甕	小片	(5.7)	(18.8)	–	精緻	内面：N2/1 外面：N6/1	良好	内面：体部同心円タタキ口縁部回転ナデ 外面：体部平行タタキ口縁部回転ナデ	
17	124	A	北排水溝	須恵器	甕	小片	(4.0)	(22.2)	–	精緻	内面：10R3/1 外面：10R3/1	良好	内面：口縁部ナデ体部平行タタキ 外面：口縁部ナデ	口縁部に#」のヘラ記号あり
17	125	A	北西3層北東3層4層 南東4層 PNO29南東2層	須恵器	壺	1/2未満	(18.5)	(24.4)	–	1mm程度の白色砂粒含む	内面：10R6/2 外面：10R4/2	良好	内面：体部同心円タタキ口縁部回転ナデ 外面：体部平行タタキ口縁部回転ナデ	
18	126	A	PNO14	土師器	坏か皿	小片	(1.3)	–	(5.8)	精緻	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
18	127	A	南東4－2層	土師器	坏か皿	1/2未満	(2.4)	–	(6.0)	1mm大の砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	やや不良	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
18	128	A	南東4層	土師器	坏	1/2未満	(2.3)	–	6.5	1mm大の砂粒含む	内面：2.5Y7/4 外面：2.5Y7/4	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
18	129	A	西溝	土師器	坏	完形	(2.4)	–	(5.4)	1mm以下の白色砂粒	内面：10YR7/3 外面：7.5YR7/4	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部不明	
18	130	A	南西3層	土師器	坏	1/2未満	(3.6)	(6.7)	–	1mm以下の黒色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部不明	
18	131	A	西溝	土師器	坏	1/2未満	(2.4)	–	(7.0)	微砂粒わずかに含む	内面：10YR7/3 外面：7.5YR7/4	不良	内面：不明 外面：不明	
18	132	A	北東3層	土師器	坏	1/2未満	(2.0)	–	–	1mm以下の白色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	やや不良	内面：回転ナデ 外面：回転糸切り後ナデ	
18	133	A	北東3層	土師器	坏	1/2未満	(2.9)	–	(8.2)	精緻	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
18	134	A	南東3層	土製品	土錘	完形	径5.0 孔径0.7 重さ121.1g			1mm大の砂粒含む	2.5YR7/1	良好		
18	135	A	北東南東4層上面	土製品	土錘	完形	長8.5 幅1.7 孔径0.8 重さ27.9g			1mm以下の砂粒含む	10YR7/3	良好		
18	136	A	南東	土製品	土錘	完形	長8.5 幅3.4 孔径1.05×1.0 重さ106.0g			1mm以下の砂粒含む	10YR7/3	良好		
18	137	A	北西4層	土製品	土錘	1/2以上	長7.4 幅3.5 孔径1.0×1.0 重さ(75.4g)			1～2mm大の白色砂粒含む	10YR7/3	良好		
18	138	A	西北4層	土製品	土錘	小片	長(4.8) 幅(3.3) 孔径(1.2) 重さ(15.2g)			1mmの白色砂粒含む	5YR6/6	良好		
18	139	A	北西2層	土製品	土錘	1/2未満	長(4.9) 幅(2.7) 孔径(1.0) 重さ(19.5g)			1mm大の白色砂粒含む	7.5YR7/4	良好		
18	140	A	南西3層	土製品	土錘	1/2未満	長(4.7) 幅(3.0) 孔径(1.2) 重さ14.1g			1mm大の砂粒含む	10YR7/3	良好		
18	141	A	北東3層 追加	土製品	土錘	1/2未満	長(5.8) 幅(2.6) 孔径(0.9) 重さ(14.0g)			1mm以下の砂粒含む	7.5YR7/4	良好		
18	142	A	北東3層	土製品	土錘	1/2未満	長(3.9) 幅(2.6) 孔径(1.1) 重さ(1.4g)			1mm以下の白色砂粒含む	7.5Y6/1	良好		

図版	番号	区	出土地点	種別	器種	遺存	器高(cm)	口径(cm)	直径(cm)	胎土	色調	焼成	調整・手法の特徴	備考
18	143	A	東排水溝4層	土製品	土錘	完形	長 6.5 幅 12.8 孔径 0.65 × 0.65 重さ 50.6g			1mm 以下の砂粒含む	2.5YR7/2	良好		
18	144	A	北西 4 層	土製品	土錘	完形	長 7.7 幅 2.5 孔径 1.0 × 0.9 重さ 37.5g			1mm 以下の白色砂粒含む	10R5/3	良好		
18	145	A	3 － 1 層	土製品	土錘	完形	長 6.1 幅 2.7 孔径 0.9 × 0.8 重さ 40.3g			1mm 以下の砂粒含む	10YR7/3	良好		
18	146	A	ベルト	土製品	土錘	1/2 以上	長 6.0 幅 2.7 孔径 1.0 × 0.8 重さ（30.9g）			1mm 以下の砂粒含む	10R5/3	良好		
18	147	A	南西 2 層	土製品	土錘	1/2 以上	長（6.3）幅 2.6 孔径 1.0 × 0.9 重さ（40.1g）			微細な白色砂粒含む	N2/0	良好		
18	148	A	南東 3 層	土製品	土錘	1/2 未満	長（6.2）幅 2.3 孔径 0.8 × 0.65 重さ（18.6g）			微砂粒	5YR6/4	良好		
18	149	A	3 層	土製品	土錘	1/2 以上	長 5.6 幅 2.4 孔径 1.0 × 1.0 重さ（14.1g）			微砂粒僅かに含む	2.5Y8/2	良好		
18	150	A	北東 3 層	土製品	土錘	1/2 以上	長 6.2 幅 2.6 孔径 1.1 × 1.0 重さ（28.3g）			1mm 程度の白色砂粒わずかに含む	10Y4/1	良好		
18	151	A	南西 2 層	土製品	土錘	1/2 以上	長 4.6 幅 3.0 孔径 1.3 × 1.2 重さ（46.9g）			1mm 以下の白色砂粒含む	10Y4/1	良好		
18	152	A	トレンチ 1	土製品	土錘	完形	長 5.0 幅 2.6 孔径 1.15 × 1.15 重さ 30.0g			1mm 以下の砂粒含む	10YR7/3	良好		
18	153	A	南西 4 層	土製品	土錘	完形	長 3.5 幅 2.3 孔径 0.65 × 0.6 重さ 21.7g			1mm 以下の砂粒含む	7.5YR7/4	良好		
18	154	A	南東 3 層追加	土製品	土錘	完形	長 3.5 幅 2.3 孔径 0.6 × 0.7 重さ 17.6g			1mm 以下の砂粒含む	10YR7/3	良好		
18	155	A	南東 2 層	土製品	土錘	小片	長（3.6）幅（1.8）孔径（0.8）重さ（6.5g）			0.5mm 以下の黒色砂粒含む	10YR6/4	良好		
18	156	A	北西 3 層	土製品	土錘	1/2 以上	長 3.7 幅 1.3 孔径 0.3 重さ（6.0g）			1mm 以下の砂粒含む	7.5YR7/4	良好		
18	157	A	北西 3 層	土製品	土錘	完形	長 3.5 幅 0.9 孔径 0.3 重さ 2.8g			7mm 以下の砂粒含む	10YR7/3	良好		
18	158	A	北西 4 層上面 3 層	土製品	土錘	1/2 未満	長 4.3 幅 1.6 孔径（1.0）重さ（5.7g）			1mm 以下の砂粒含む	5YR6/4	良好		
18	159	A	南西 2 層	土製品	土錘	完形	長 5.2 幅 2.1 孔径 0.6 × 0.55 重さ 22.2g			1mm 以下の白色砂粒含む	10YR7/3	良好		
18	160	A	南東 4 層	石器	剥片	完形	長 4.7 幅 3.8 厚さ 1.1. 重さ 12.9g							
18	161	A	PNO8	古銭	_ 符通宝	完形	長 2.4 幅 厚さ 0.1 重さ 2.89g							
19	1	A 区拡張部	排土茶褐色土	弥生土器	甕	小片	（4.8）	（15.6）	－	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：2.5Y7/3 外面：2.5Y7/3	良好	内面：ナデ 外面：ナデ	
19	2	A 区拡張部	排土茶褐色土	土師器	高坏	1/2 未満	（7.7）	－	－	1mm 以下の白色透明砂粒含む	内面：7.5YR7/4 外面：7.5YR6/4	良好	内面：ナデ 外面：ナデ	透かし 3 方向にあり
19	3	A 区拡張部	排土黒灰色土	土製品	ミニュチュア土器	1/2 未満	（4.4）	－	（3.2）	1mm 程度の白色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面： 外面：	
19	4	A 区拡張部	廃土砂礫	須恵器	蓋	小片	（1.0）	－	－	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：N6/0 外面：N6/0	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
19	5	A 区拡張部	排土茶褐色土	須恵器	蓋	小片	（1.7）	－	－	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10Y6/1 外面：10Y6/1	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
19	6	A 区拡張部	排土北山直上	須恵器	蓋	1/2 未満	（1.9）	－	－	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：5G5/1 外面：N4/0	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部回転ナデ肩部ヘラケズリ後回転ナデ体部回転ナデ	頂部外面外周に沈線 2 条あり
19	7	A 区拡張部	地山直上	須恵器	皿	小片	（1.7）	（14.8）	（9.4）	精緻	内面：N8/0 外面：N8/0	不良	内面：不明 外面：体部回転ナデ底部不明	

図版	番号	区	出土地点	種別	器種	遺存	器高(cm)	口径(cm)	直径(cm)	胎土	色調	焼成	調整・手法の特徴	備考
19	8	A区拡張部	排土茶褐色土 黒灰色土	須恵器	高坏	小片	(3.2)	—	—	精緻	内面：7.5Y6/1 外面：7.5Y7/1	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
19	9	A区拡張部	地山直上	須恵器	甕	小片	(3.3)	(16.2)	—	精緻	内面：N7/1 外面：N7/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
19	10	A区拡張部	排土砂礫	土師器	甑	小片	—	—	—	1mmの白色砂粒含む	内面：7.5YR6/4 外面：7.5YR6/4	良好	内面：ナデか 外面：ナデ指押さえ	
19	11	A区拡張部	排土黒灰色土	土師器	甑	小片	—	—	—	1mm以下の白色砂粒多く含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：ナデか 外面：ナデ指押さえ	
19	12	A区拡張部	排土黒灰色土	土製品	土錘	完形	長8.0 幅2.4 孔径1.0×0.9 重さ29.0g			1mm大の砂粒含む	5YR6/4	良好		
19	13	A区拡張部	排土黒灰色土	土製品	土錘	1/2以上	長8.5 幅3.0 孔径1.1×1.05 重さ(65.1g)			1mm大の白色砂粒含む	10YR7/3	良好		
19	14	A区拡張部	排土黒灰色土	土製品	土錘	完形	長9.0 幅4.9 孔径1.5×1.4 重さ183.7g			1mm大の砂粒含む	10YR7/3	良好		
19	15	A区拡張部	地山直上	土製品	甑	小片	(4.7)	(37.6)	—	1mm程度の白色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：7.5YR7/4	良好	内面：体部ケズリ口縁部回転ナデ 外面：体部ハケメ口縁部回転ナデ	
19	16	A区拡張部	排土茶褐色土	須恵器	壺	小片	(3.5)	(13.2)	—	1mm以下の白色砂粒含む	内面：10YR8/1 外面：10YR8/1	不良	内面：不明 外面：不明	
20	1		不明	須恵器	坏	1/2未満	4.8	(11.5)	(8.4)	0.5mm以下の白色砂粒含む	内面：15YR6/4 外面：7.5YR7/4	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り後ナデ	
20	2		不明	須恵器	甕	小片	(4.8)	—	—	1mm程度の白色砂粒含む	内面：7.5YG6/2 外面：7.5Y6/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
20	3		不明	須恵器	壺	小片	(5.9)	(8.8)	—	1mm程度の白色砂粒含む	内面：5YR5/1 外面：10R4/2	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
20	4	A	不明	土師器	坏	1/2未満	(2.2)	—	6.0	精緻	内面：7.5YR8/1 外面：7.5YR8/1	不良	内面：ナデ 外面：ナデ	
21	1	B	壁面	弥生土器	甕	小片	(3.4)	(18.0)	—	精緻	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：体部ケズリ口縁部ナデ 外面：体部ハケか口縁部擬凹線文	
21	2	B	PNO68	弥生土器	甕	小片	(3.1)	(19.2)	—	1mm程度の白色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/1	良好	内面：体部ヘラケズリ口縁部ナデ 外面：体部ナデ口縁部擬凹線文	
21	3	B	調査区B	須恵器	蓋	小片	(1.7)	—	—	1mm以下の黒色砂粒含む	内面：7.5Y7/1 外面：7.5Y7/1	不良	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
21	4	B	4層	須恵器	蓋	小片	(1.2)	(13.3)	—	0.5mm以下の白色砂粒含む	内面：7．5Y4/1 外面：N4/0	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
21	5	B	表土	須恵器	蓋	小片	(6.3)	(15.5)	—	1mm以下の白色砂粒含む	内面：N6/0 外面：N6/0	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
21	6	B	溝	須恵器	坏	小片	(3.7)	(14.8)	—	精緻	内面：10YR7/3 外面：5GY6/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
21	7	B	調査区B	須恵器	高坏	小片	(3.8)	(14.8)	—	1mm以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：10Y6/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
21	8	B	PNO64	須恵器	坏	1/2未満	(3.8)	(8.0)	—	1mm程度の白色砂粒含む	内面：7.5GY6/1 外面：N5/0	良好	内面：ナデ 外面：体部ナデ底部回転ナデ	
21	9	B	西北西	須恵器	皿	小片	(2.8)	(17.8)	—	1mm以下の白色砂粒含む	内面：5GY5/1 外面：5GY4/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
21	10	B	3－1層	不明	不明	小片	(4.0)	—	(15.8)	精緻	内面：N8/0 外面：N8/0	不良	内面：不明 外面：回転ナデ	
21	11	B	3層	土師器	坏	小片	(2.0)	—	(4.2)	1mm以下の白色砂粒含む	内面：5YR6/2 外面：5YR6/2	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
21	12	B	T1 黒褐色土	土師器	坏	1/2未満	(2.1)	—	6.4	1mm以下の黒色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
21	13	B	3層	土師器	坏	小片	(0.7)	—	(9.0)	精緻	内面：10YR7/1 外面：10YR7/1	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ	内面のみ赤彩

図版	番号	区	出土地点	種別	器種	遺存	器高(cm)	口径(cm)	直径(cm)	胎土	色調	焼成	調整・手法の特徴	備考
21	14	B	3－1層	青磁	碗	小片	(1.1)	—	(5.8)	精緻	内面：緑灰色 外面：緑灰色	良好	内面：施釉、劃花文 外面：高台内露胎	龍泉窯系青磁碗Ⅰ類
21	15	B	北東溝	土製品	土錘	1/2以上	長 4.4 幅 2.1 孔径 0.7 × 0.6 重さ（16.0g）			1mm 以下の白色砂粒含む	10YR7/3	良好		
27	1	C	加工段 1	須恵器	坏	小片	(2.2)	—	—	精緻	内面：7.5Y6/1 外面：7.5Y5/1	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
30	1	C	加工段 2	須恵器	蓋	完形	2.0	16.2	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：7.5Y6/1	良好	内面：体部回転ナデ頂部ナデ 外面：体部回転ナデ肩部ヘラケズリ頂部ヘラ切り	
30	2	C	加工段 2	須恵器	坏	1/2以上	4.6	(15.8)	(8.8)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5GY6/1 外面：7.5Y5/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部静止糸切り後ナデ	
30	3	C	加工段 2	須恵器	坏	1/2未満	(3.0)	—	8.4	2mm 程度の黒色砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：7.5Y6/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部ナデ	
33	1	C	土器溜り 2	須恵器	蓋	1/2以上	2.8	(15.4)	—	1mm 程度色砂粒含む	内面：10Y5/1 外面：10Y5/1	良好	内面：体部回転ナデ頂部ナデ 外面：体部回転ナデ頂部回転糸切り後ナデ	
33	2	C	土器溜り 2	須恵器	坏	1/2未満	(2.5)	—	(9.8)	1mm 程度の白色砂粒含む	内面：10Y6/1 外面：7.5Y6/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
33	3	C	土器溜り 2	須恵器	坏	1/2以上	4.1	12.6	8.4	1mm 以下の黒色砂粒含む	内面：7.5Y7/1 外面：7.5Y6/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
33	4	C	土器溜り 2	須恵器	坏	小片	(3.4)	—	(7.6)	0.5㎜以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y7/1 外面：7.5Y7/2	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
33	5	C	土器溜り 2	須恵器	坏	1/2未満	7.4	(16.0)	(9.2)	1mm 程度の白色砂粒含む	内面：N4/1 外面：7.5GY5/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
34	1	C	西 1 層	須恵器	蓋	小片	(2.6)	(14.0)	—	精緻	内面：7.5Y4/2 外面：7.5Y7/1	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：回転ナデ	
34	2	C	西 2 層	須恵器	蓋	小片	(1.3)	(4.4)	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y5/2 外面：7.5Y4/2	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
34	3	C	南 3 層	須恵器	蓋	小片	(1.0)	—	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10R3/1 外面：10R3/1	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
34	4	C	不明	須恵器	蓋	1/2未満	(1.3)	—	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y5/2 外面：7.5Y5/2	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部回転ナデ肩部ヘラケズリ	
34	5	C	撹乱 3 南東 3 層	須恵器	蓋	小片	(1.6)	—	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7．5Y6/1 外面：7.5YR7/4	良好	内面：ナデ 外面：頂部回転ナデ肩部ヘラケズリのちナデ体部回転ナデ	
34	6	C	東 1 層 PNO75	須恵器	蓋	小片	(1.6)	—	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y3/2 外面：7.5Y3/1	良好	内面：ナデ 外面：頂部ナデ体部回転ナデ	頂部外周に沈線 2 条か？
34	7	C	東 1 層	須恵器	蓋	小片	(1.7)	—	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：7.5Y6/1	良好	内面：ナデ 外面：回転ナデ	
34	8	C	PNO70	須恵器	蓋	1/2以上	(19.0)	(12.8)	—	2mm 大の白色砂粒含む	内面：7．5Y7/2 外面：2.5G3/1	良好	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部回転糸切り後ナデ肩部ヘラケズリ体部回転ナデ	
34	9	C	西排水溝	須恵器	蓋	小片	(1.3)	(12.2)	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/2 外面：7.5Y6/2	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
34	10	C	西壁	須恵器	蓋	小片	1.8	14.2	—	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y4/1 外面：7.5Y5/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
34	11	C	PNO71	須恵器	坏	1/2以上	3.8	(12.2)	(8.4)	2mm 程度の黒色砂粒含む	内面：2.5GY5/1 外面：10GY5/1	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
34	12	C	西 1 層	須恵器	坏	小片	(3.3)	—	(15.4)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10Y6/1 外面：10Y4/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
34	13	C	PNO73	須恵器	坏	1/2未満	(2.2)	—	(10.6)	1mm 以下の白色砂粒含む	内面：10R4/2 外面：2.5GY6/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
34	14	C	2 層西	須恵器	坏	1/2未満	(4.7)	—	(9.4)	精緻	内面：7.5Y7/1 外面：10Y7/1	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り後ナデ	
34	15	C	東 1 層 NO1 東 2 層	須恵器	坏	小片	(3.8)	(9.8)	—	1mm 程度の黒色砂粒含む	内面：N7/1 外面：7.5GY4/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	

図版	番号	区	出土地点	種別	器種	遺存	器高(cm)	口径(cm)	直径(cm)	胎土	色調	焼成	調整・手法の特徴	備考
34	16	C	東2層	須恵器	坏	小片	(3.2)	(13.4)	—	1mm以下の白色砂粒含む	内面：7.5GY5/1 外面：7.5GY6/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
34	17	C	西3層	須恵器	坏	小片	(3.7)	(16.4)	—	精緻	内面：N7/1 外面：7.5GY8/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
34	18	C	東溝	須恵器	坏	小片	(3.3)	(13.0)	—	1mm以下の黒色砂粒含む	内面：7.5YR6/4 外面：10YR7/3	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
34	19	C	T2北	須恵器	坏	1/2未満	(2.5)	—	(6.7)	1mm以下の白色砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：7.5Y6/1	良好	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り後ナデ	
34	20	C	NO2	須恵器	坏	小片	(3.8)	—	(9.4)	1mm程度の白色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	不良	内面：不明 外面：体部回転ナデ	
34	21	C	PNO74	須恵器	皿	1/2未満	1.9	(14.2)	(8.4)	1mm程度の白色砂粒含む	内面：7.5GY4/1 外面：5GY4/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
34	22	C	T2北	須恵器	皿	1/2未満	2.9	(15.0)	(12.0)	細かく2mmの白	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	不良	内面：不明 外面：不明	
34	23	C	東溝	須恵器	皿	小片	3.7	(22.4)	(18.3)	1mm以下の白色砂粒含む	内面：5YR6/4 外面：5YR6/4	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
34	24	C	3層	須恵器	皿	小片	(1.8)	—	(10.2)	1mm以下の白色砂粒含む	内面：10GY5/1 外面：10GY4/1	良好	内面：不明 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
34	25	C	NO2	須恵器	皿	1/2以上	3.0	(17.7)	(14.3)	1mmの黒色砂粒含む	内面：10R4/2 外面：10R3/1	良好	内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部回転糸切り	
34	26	C	西3層	須恵器	高坏か	小片	(1.6)	—	—	05mm以下の白色砂粒含む	内面：5Y6/2 外面：5Y6/2	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
35	27	C	東1層	須恵器	瓶類	小片	(5.2)	(17.2)	—	1mm程度の白色砂粒含む	内面：10YR7/1 外面：10YR7/3	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	外面外周沈線2条あり
35	28	C	T2北	須恵器	瓶類	小片	(3.2)	(20.0)	—	1m以下の黒色砂粒含む	内面：10YR7/1 外面：10YR7/3	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
35	29	C	西排水溝	須恵器	瓶類	小片	(4.5)	(22.0)	—	1mm以下の黒色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
35	30	C	西壁	須恵器	甕	小片	(7.0)	(31.4)	—	1mm大の白色砂粒含む	内面：2.5GY6/1 外面：10GY3/1	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ頂部にヘラ書き波状文あり	
35	31	C	□□3	灰釉	平瓶	小片	(4.1)	—	—	黄褐色のせいちな胎土に1mm大の黒色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
35	32	C	西溝	須恵器	鉢	小片	(13.7)	(36.6)	—	精緻	内面：10R4/2 外面：10R3/1	良好	内面：体部同心円タタキ口縁部回転ナデ 外面：体部平行タタキ口縁部回転ナデ	外面に沈線2条あり
35	33	C	東溝	土師器	坏	小片	(3.0)	—	—	精緻	内面：5YR6/4 外面：5YR6/4	良好	内面：ミガキのち赤彩 外面：ミガキ・赤彩	
35	34	C	西3層	土師器	甑	小片	—	—	—	精緻	内面：5YR6/4 外面：5YR6/4	良好	内面：ナデ 外面：ナデ	
35	35	C	PNO65	土製品	土錘	完形	長8.2 幅2.15 孔径0.95×0.8 重さ27.5			1mm以下の砂粒含む	7.5YR6/4	良好		

写　真　図　版

1.尾崎遺跡
調査前風景（南から）

2.尾崎遺跡
調査前風景（北から）

3.尾崎遺跡
A区全景（南より）

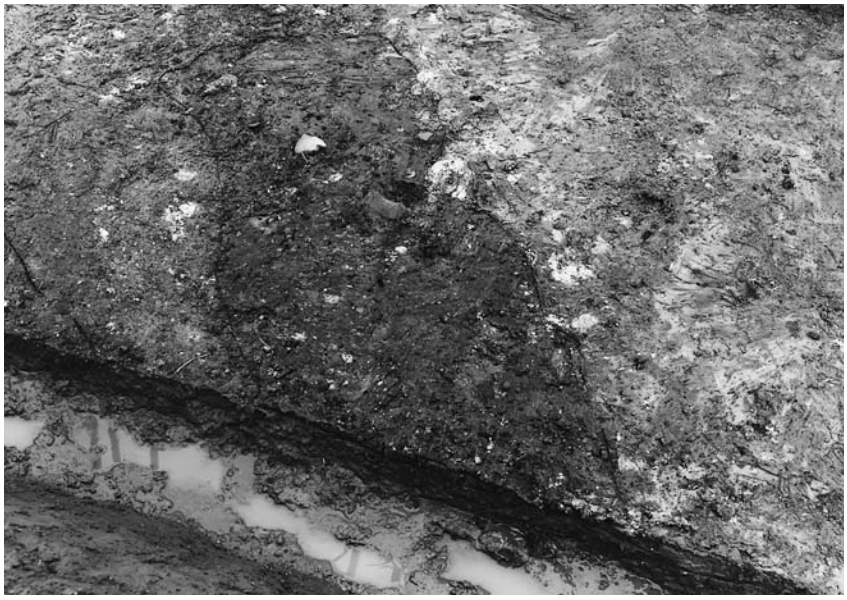
図版2

1.尾崎遺跡A区
全景（北から）

2.尾崎遺跡A区
西壁土層（南側）

3.尾崎遺跡A区
西壁土層（北側）

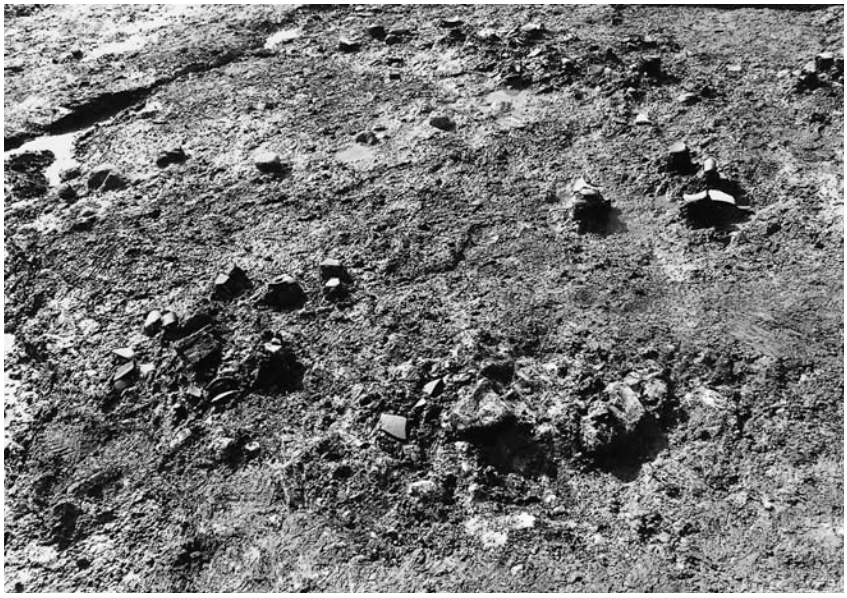
1.尾崎遺跡A区
SD01検出（西から）



2.尾崎遺跡A区
SD01（西から）

3.尾崎遺跡A区
SD02（西から）

図版4



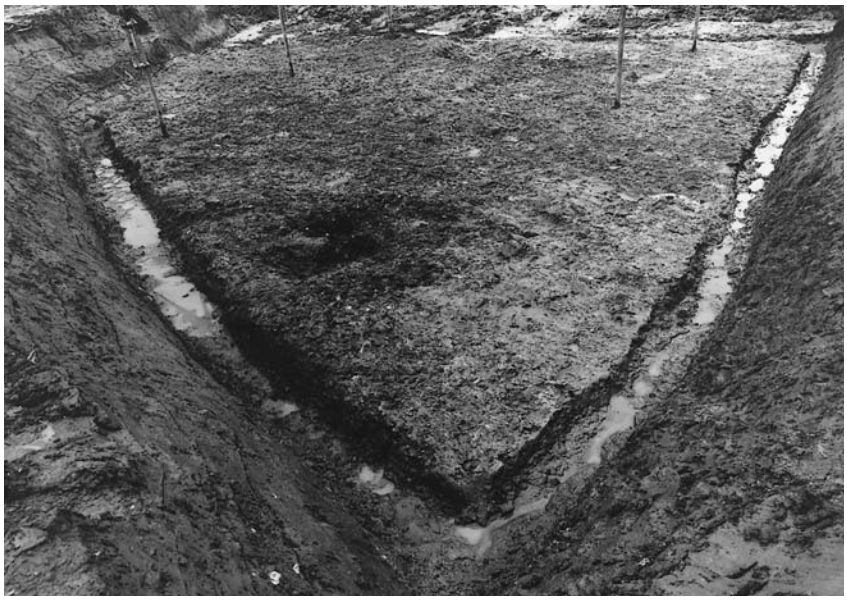
1.尾崎遺跡A区
土器溜り1（南から）

2.尾崎遺跡A区
拡張区（東から）

3.尾崎遺跡A区
拡張区調査終了（北から）

1.尾崎遺跡B区
（南から）

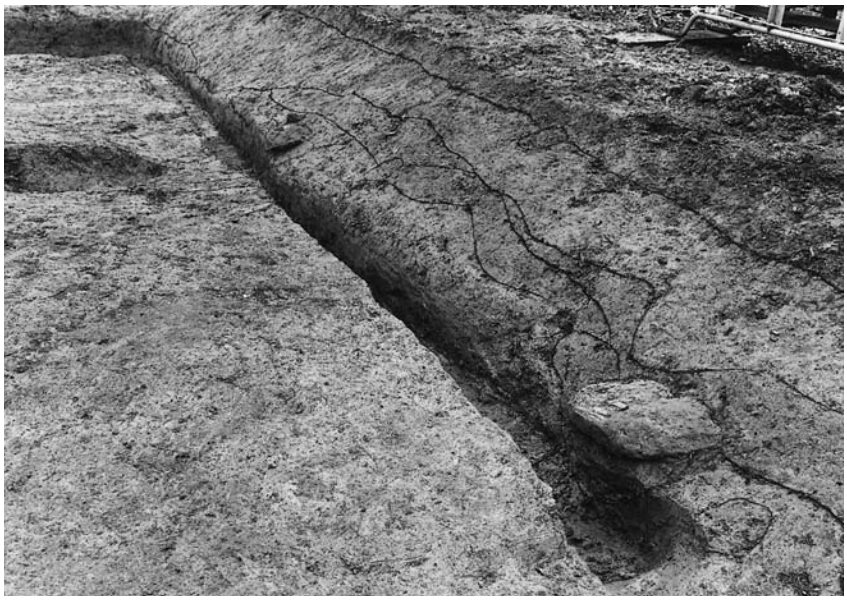
2.尾崎遺跡B区
（東から）



3.尾崎遺跡C区
（北から）

図版6

1.尾崎遺跡C区
（西から）

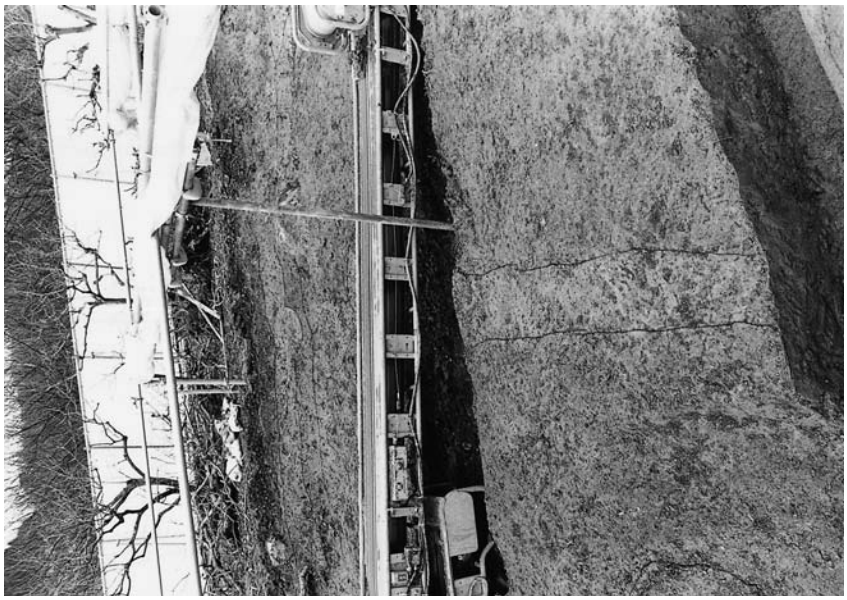


2.尾崎遺跡C区
東壁土層（北部分）

3.尾崎遺跡C区
東壁土層（中部分）

1.尾崎遺跡C区
東壁土層（南部分）

2.尾崎遺跡C区
SD03検出（東から）

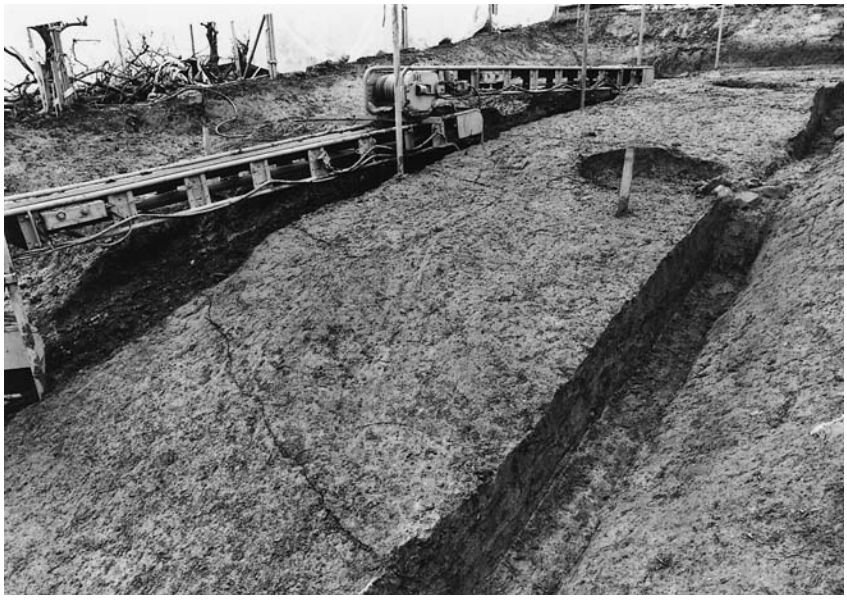


3.尾崎遺跡C区
SD03（東から）

図版8

1.尾崎遺跡C区
柱穴1（西から）

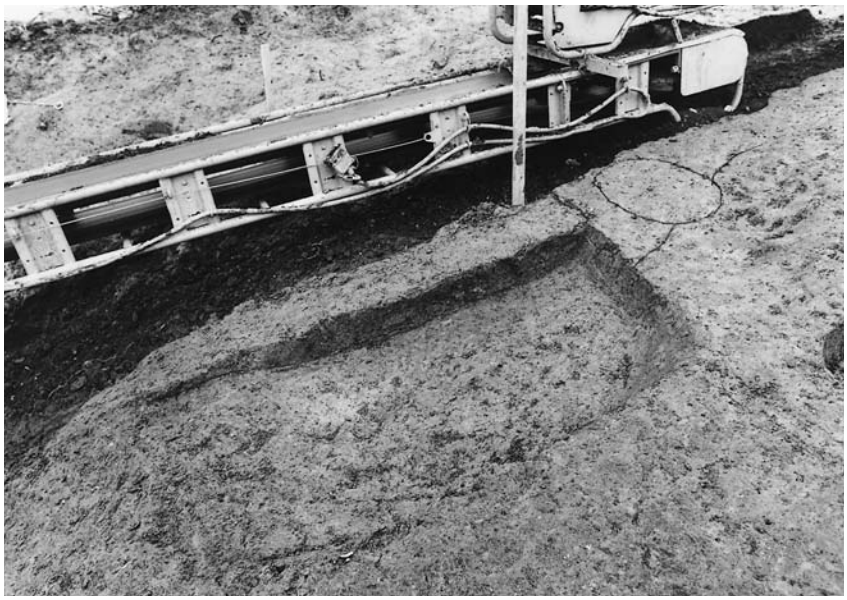
2.尾崎遺跡C区
大石1（東から）



3.尾崎遺跡C区
加工段1 東部分検出
（南から）

1.尾崎遺跡C区
加工段1 西部分検出
（東から）

2.尾崎遺跡C区
加工段1 東部分
（東から）



3.尾崎遺跡C区
加工段1 西部分
（東から）

図版10

1.尾崎遺跡Ｃ区
加工段西壁土層

3.尾崎遺跡Ｃ区
加工段２ 遺物出土状況

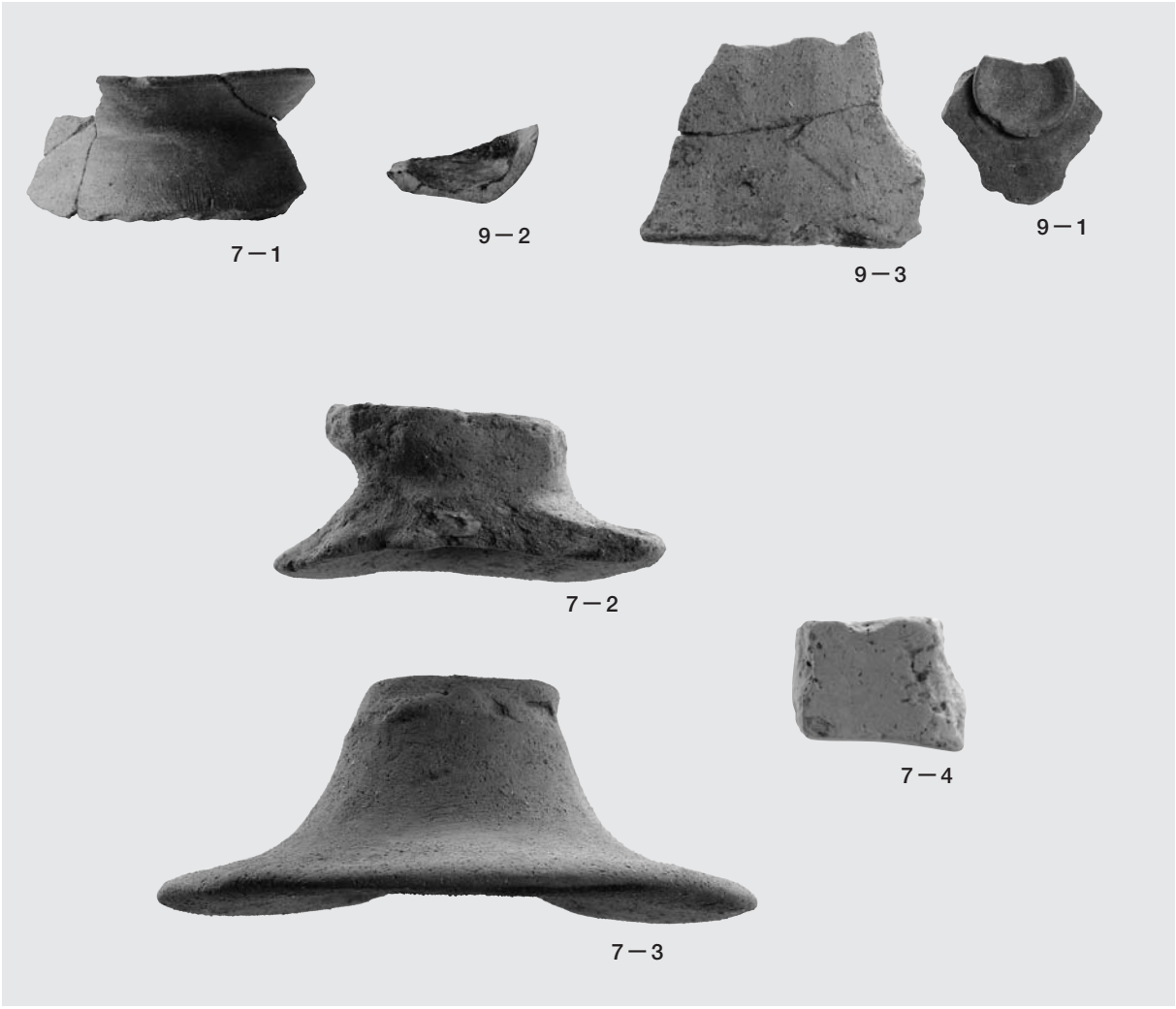
3.尾崎遺跡Ｃ区
加工段２ 床面検出

1.尾崎遺跡Ｃ区
加工段２・３完掘

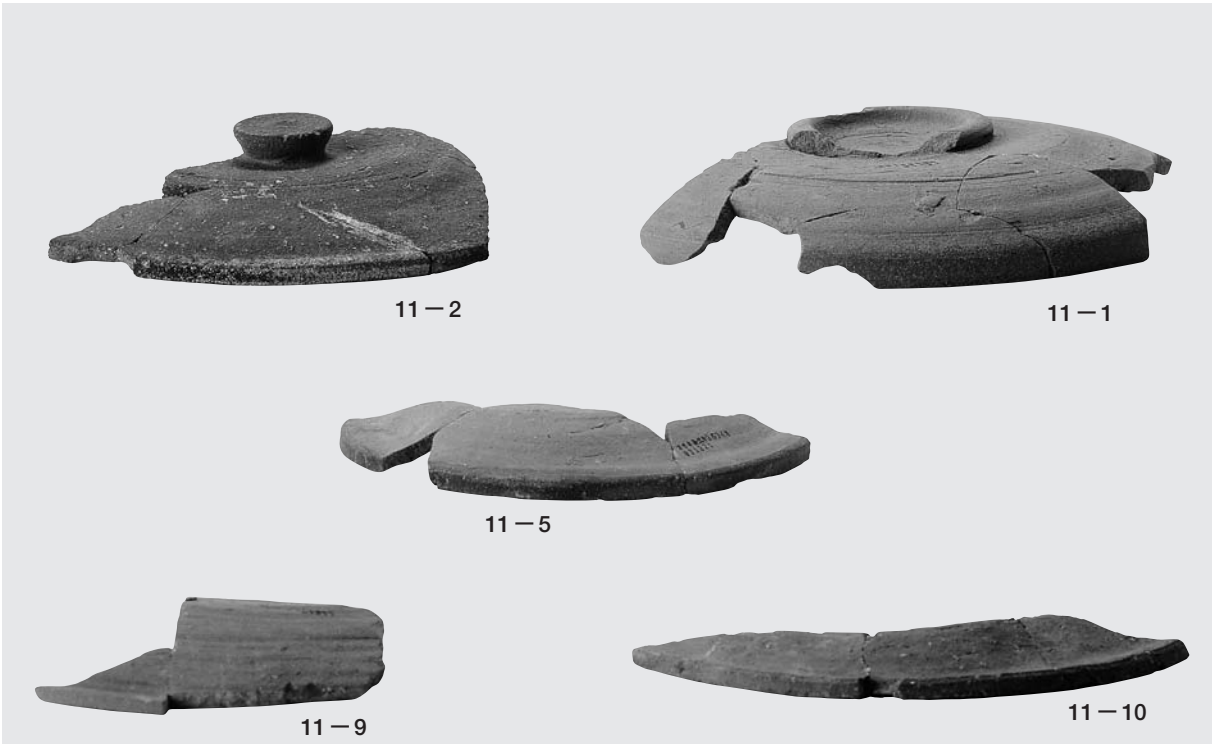
2.尾崎遺跡Ｃ区
土器溜り２（南西から）

3.尾崎遺跡Ｃ区
遠景（南から）

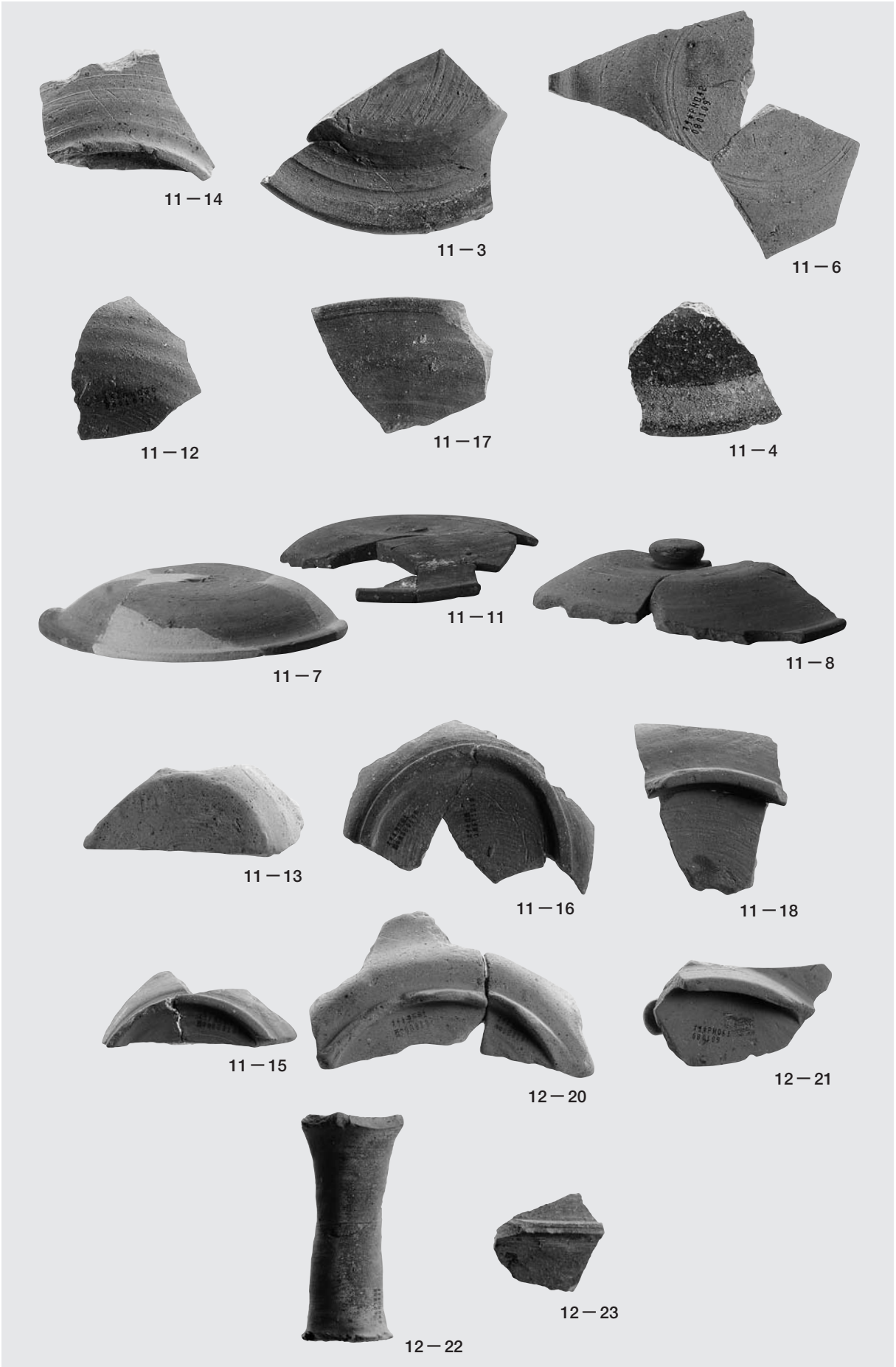
図版12



1.A区 SD02・SD03 出土遺物

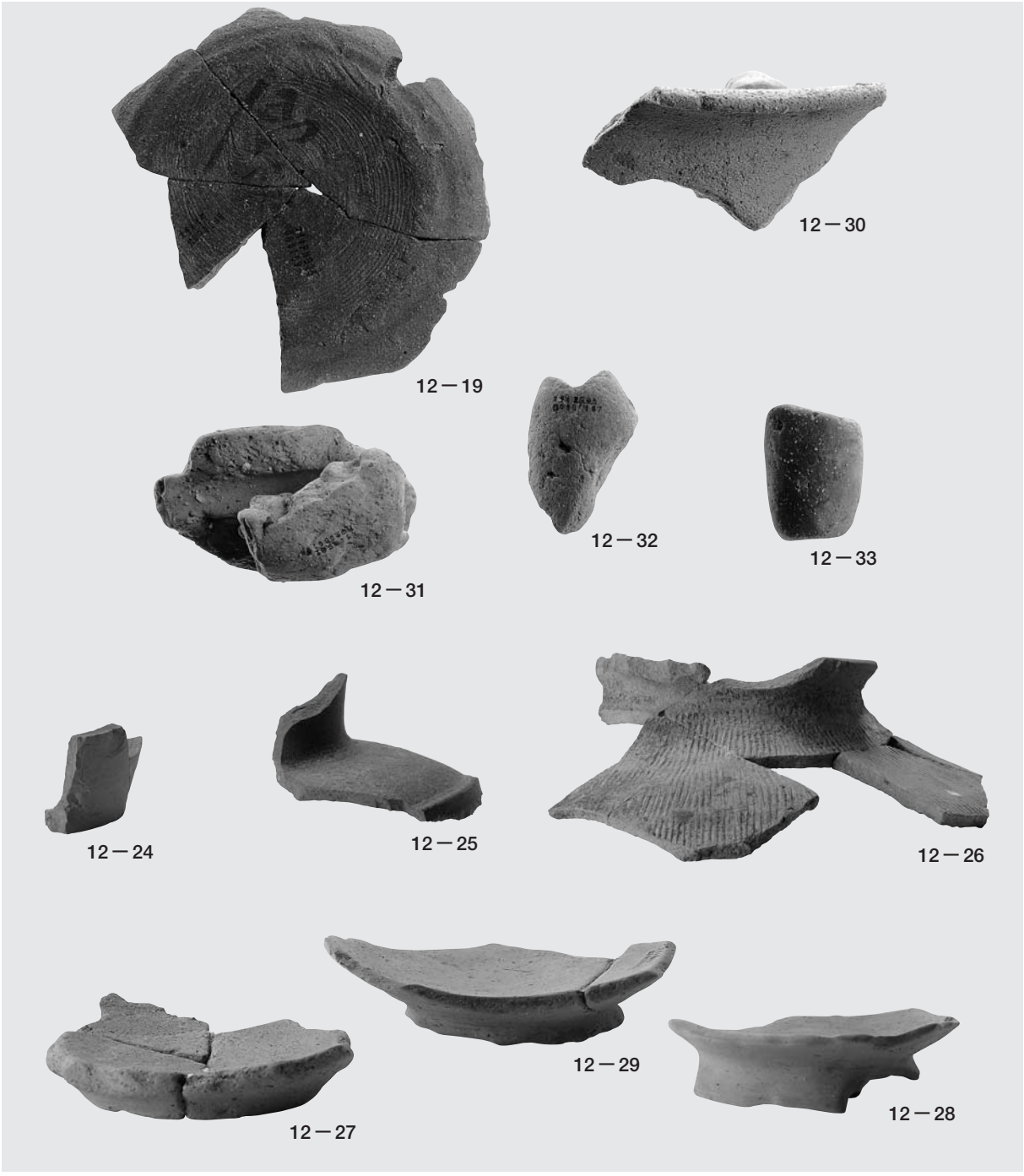


2.A区 土器溜り1 出土遺物(1)

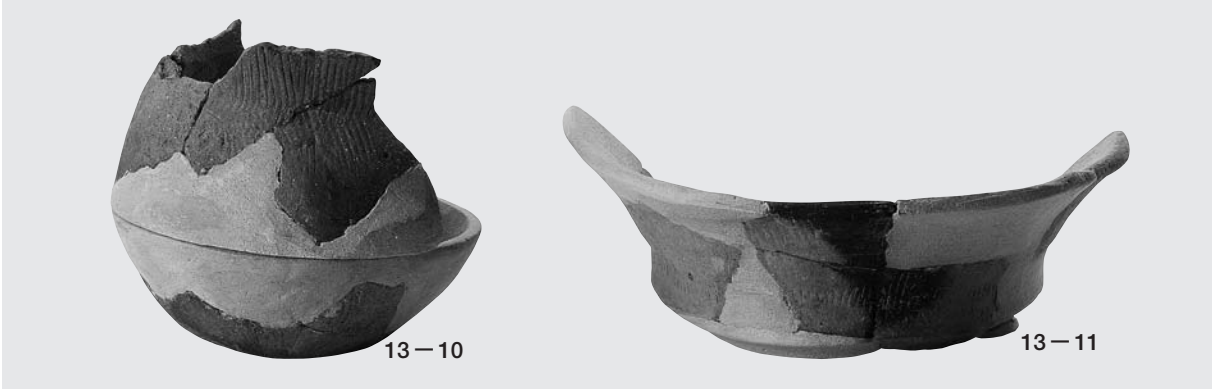


1.A区 土器溜り1 出土遺物(2)

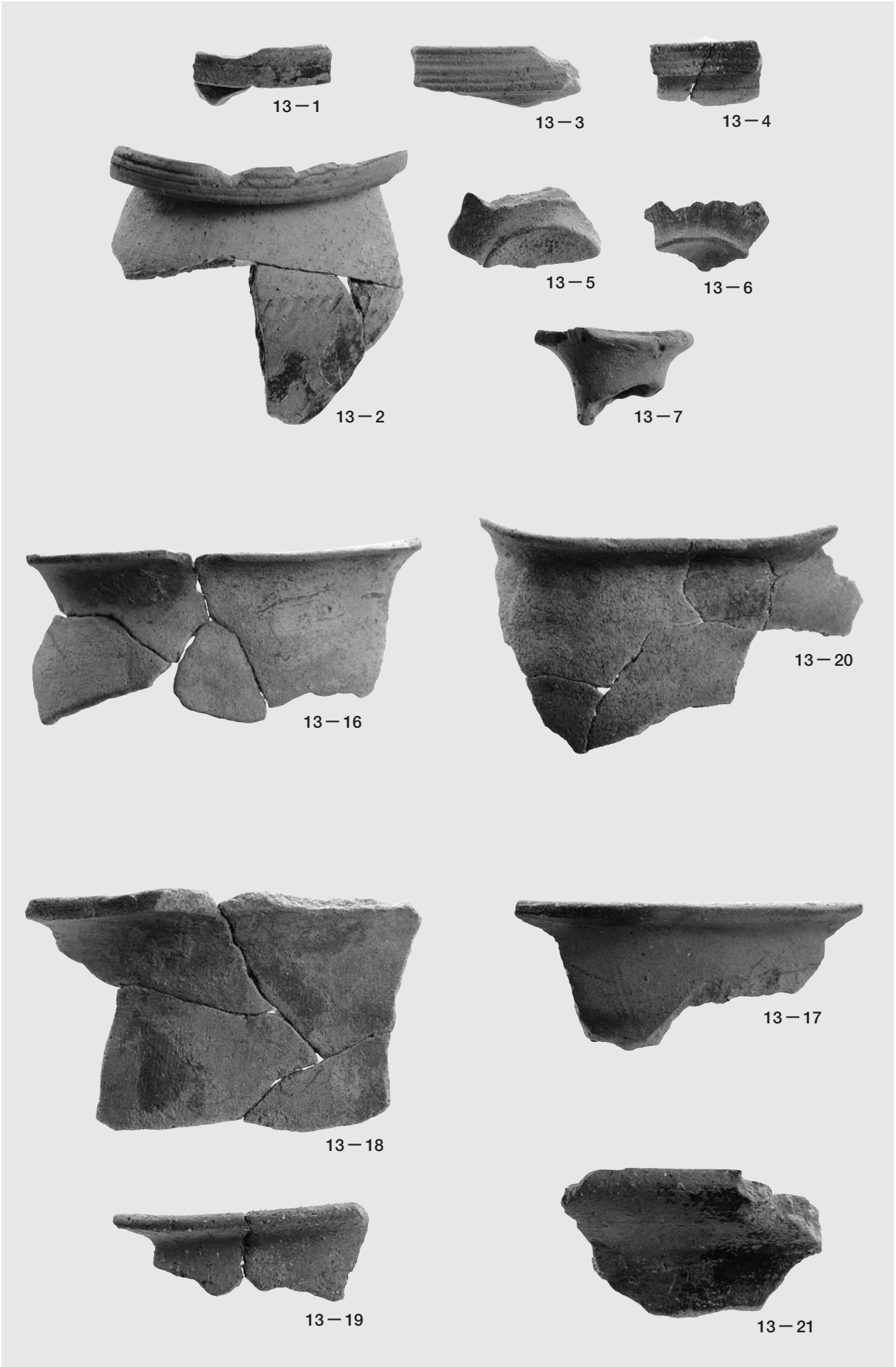
図版14



1.A区 土器溜り1出土遺物(3)

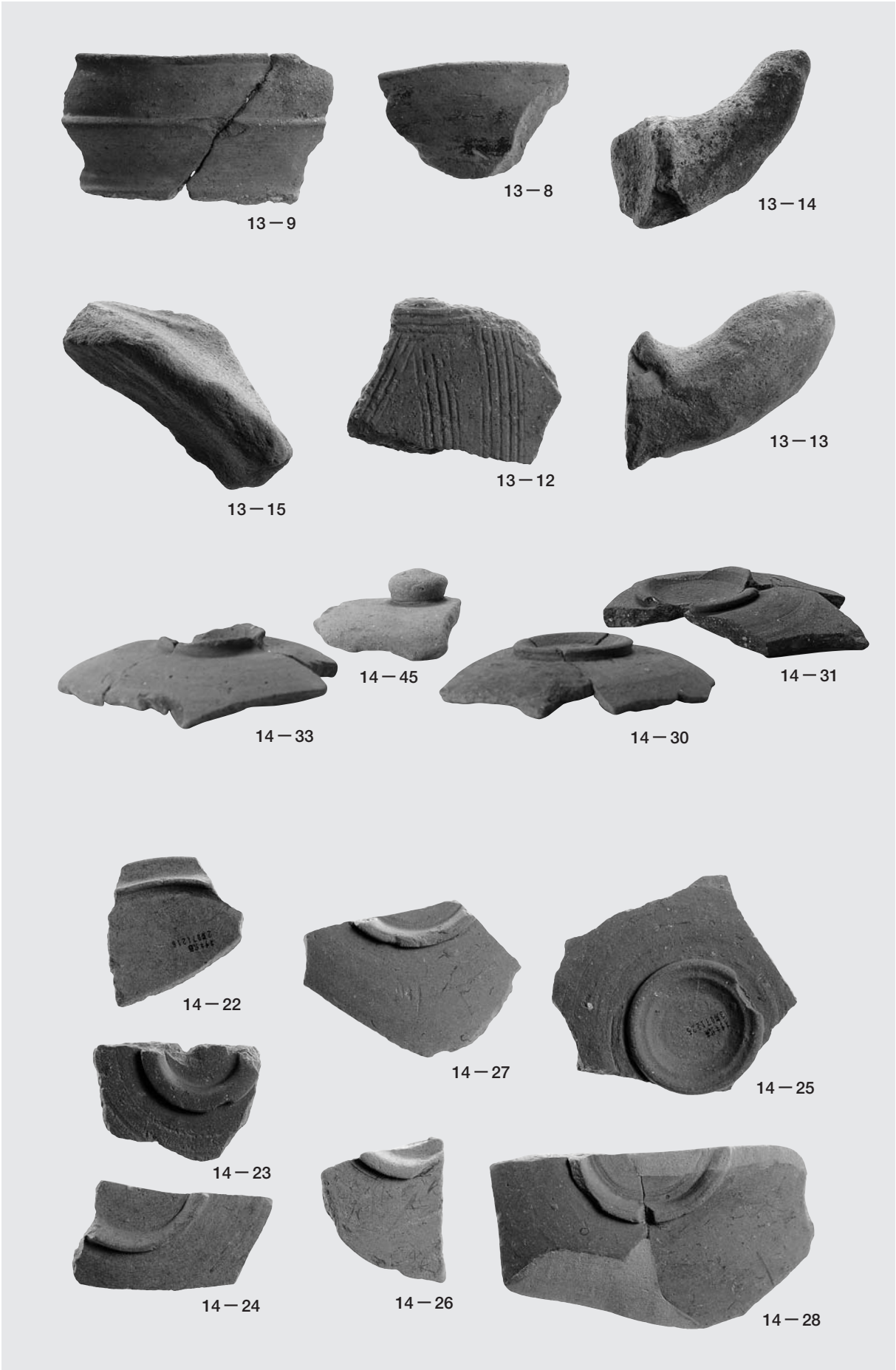


2.A区 遺構外出土遺物(1)

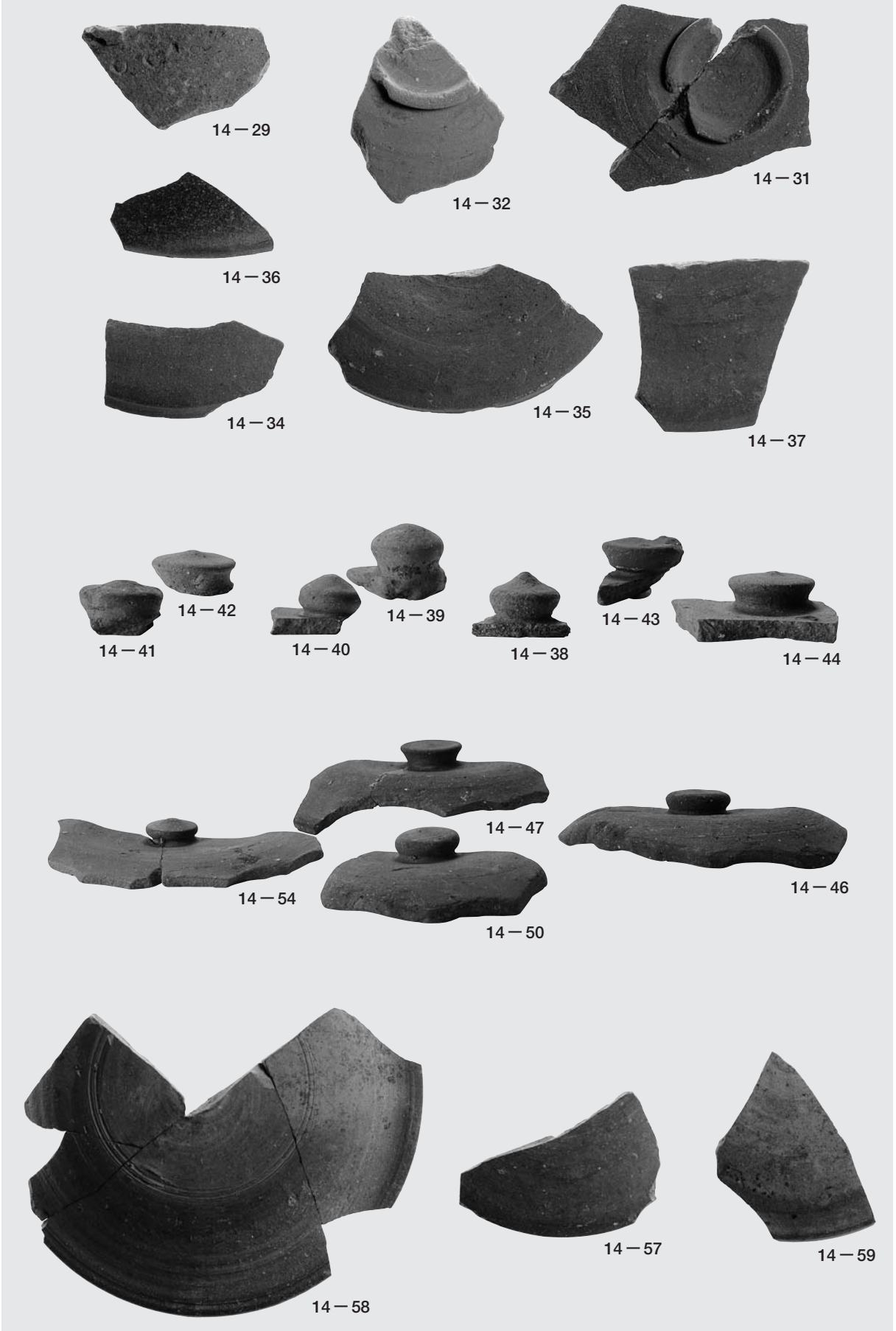


1.A区 遺構外出土遺物(2)

図版16

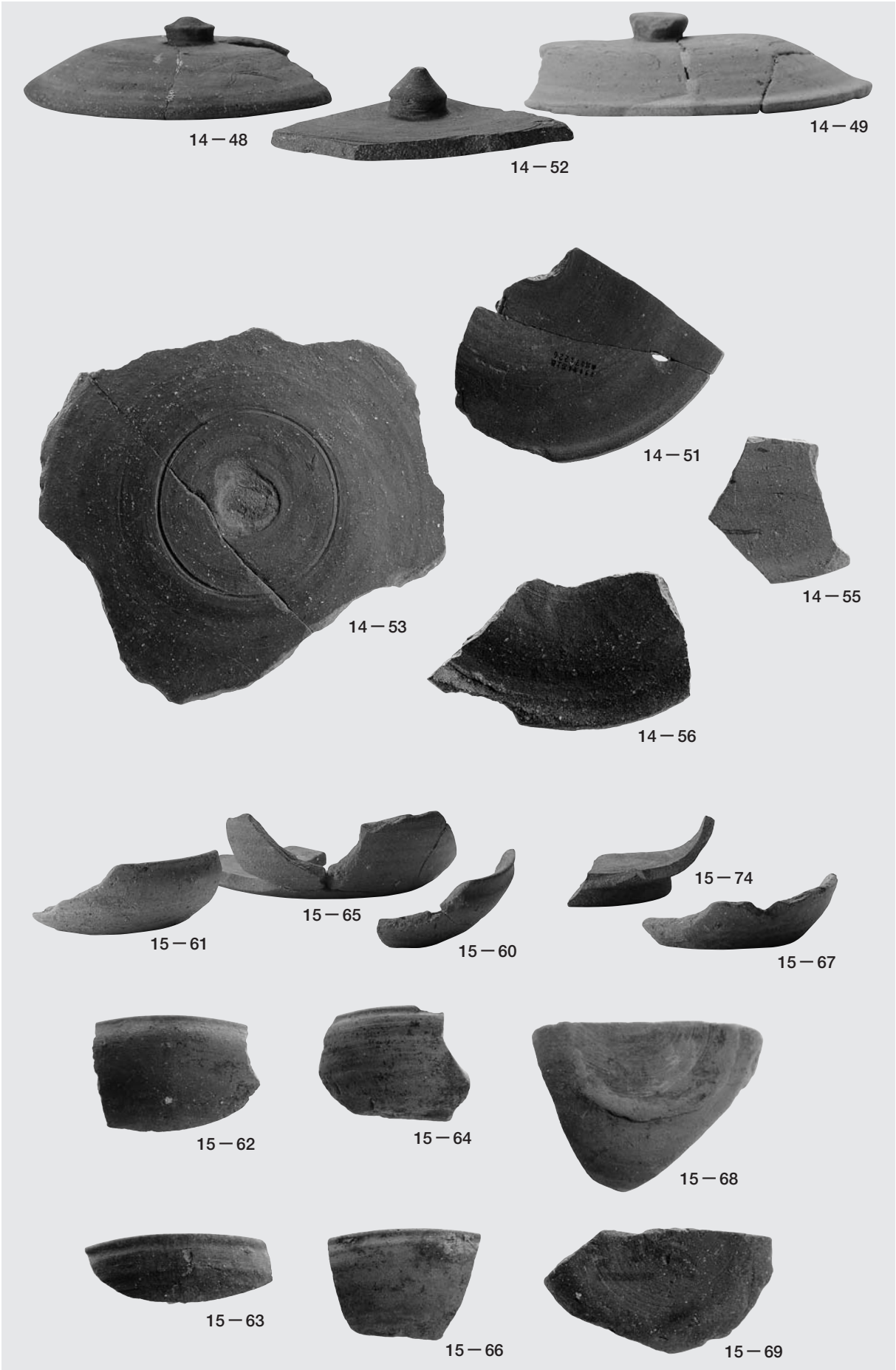


1.A区 遺構外出土遺物(3)

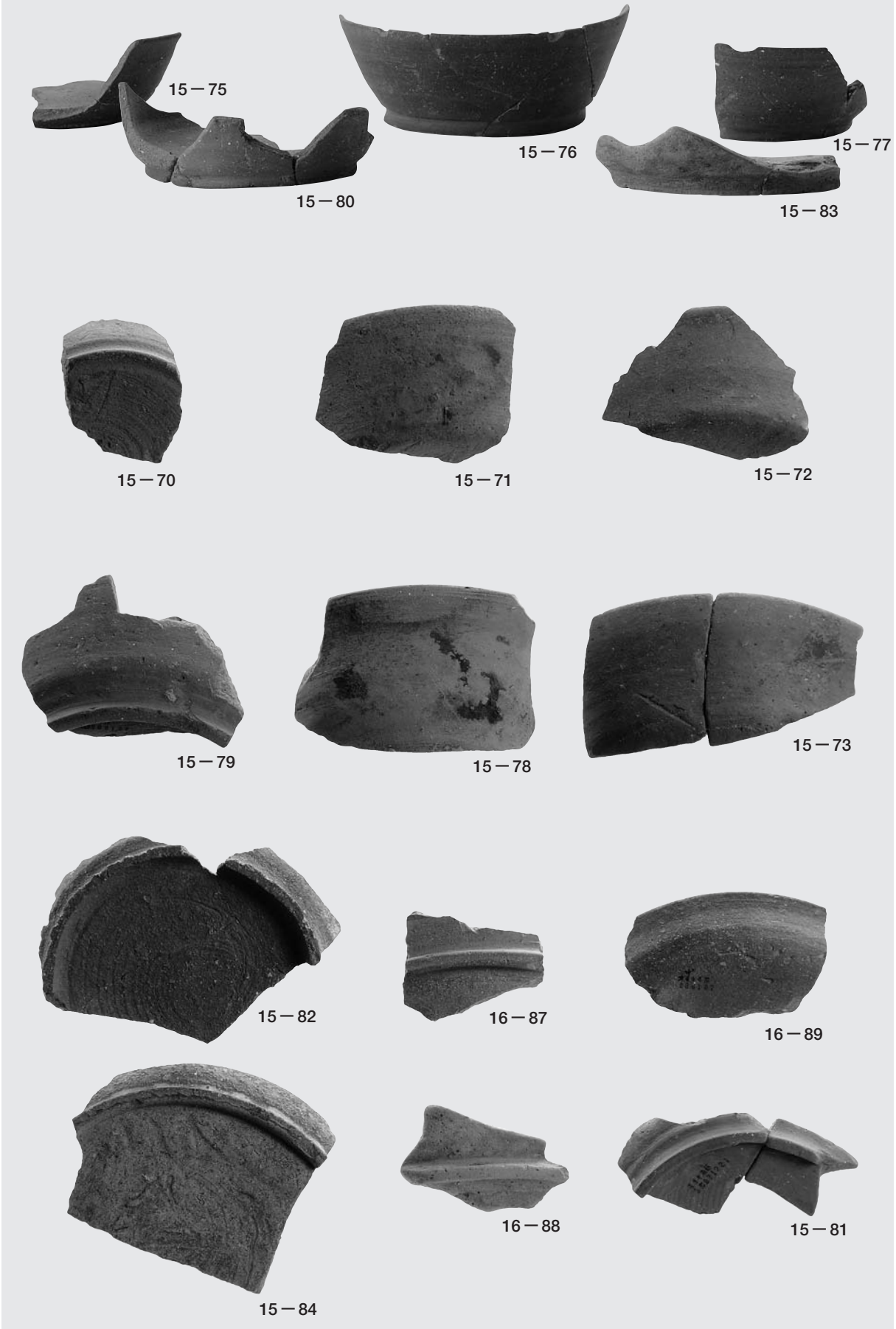


1.A区 遺構外出土遺物(4)

図版18

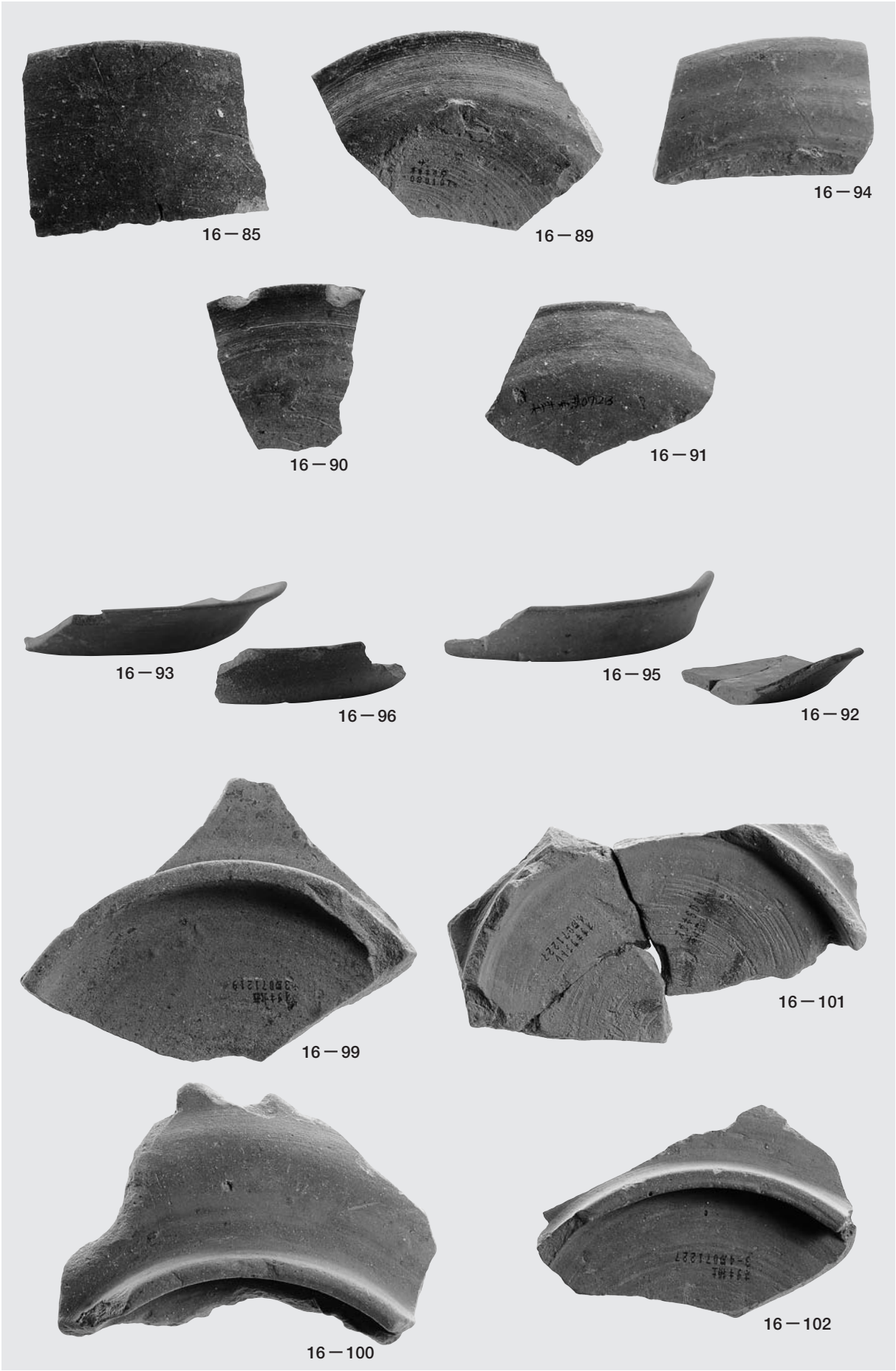


1.A区 遺構外出土遺物(5)



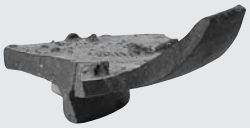
1.A区 遺構外出土遺物(6)

図版20

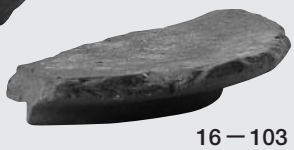


1.A区 遺構外出土遺物(7)

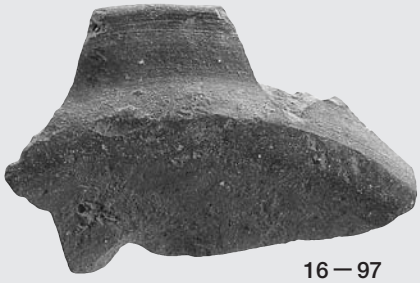
16－107

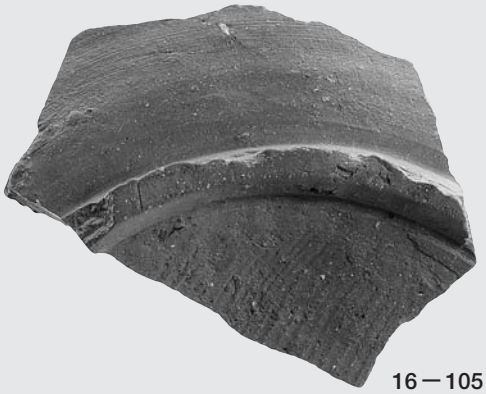

16－98

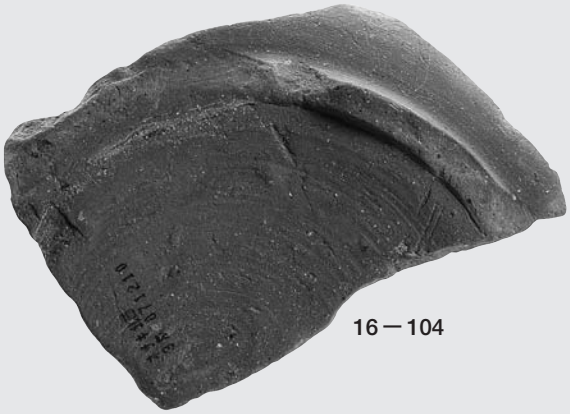
16－106


16－103

17－119


16－97


16－105


16－104

17－116

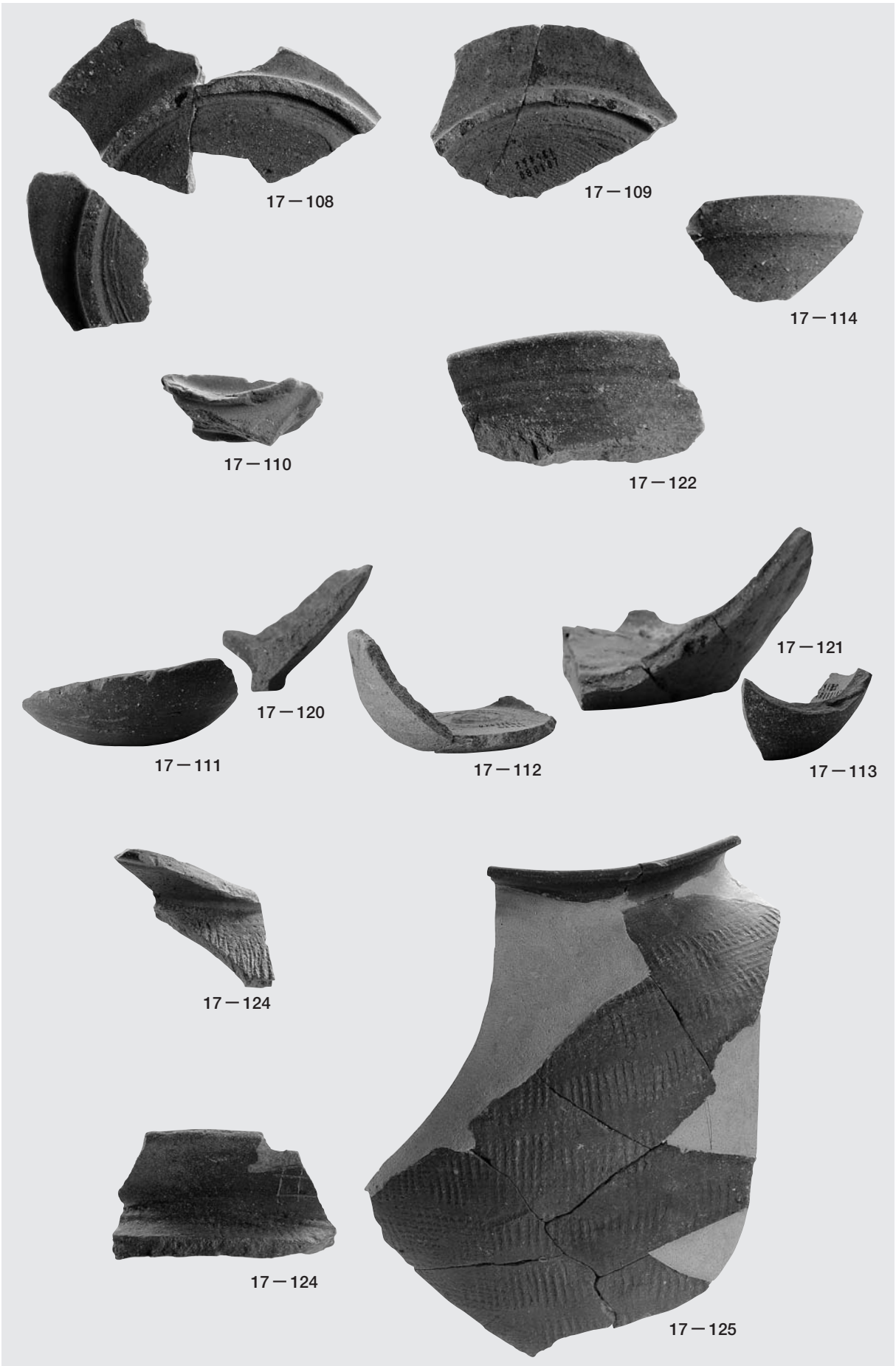
17－118

17－115

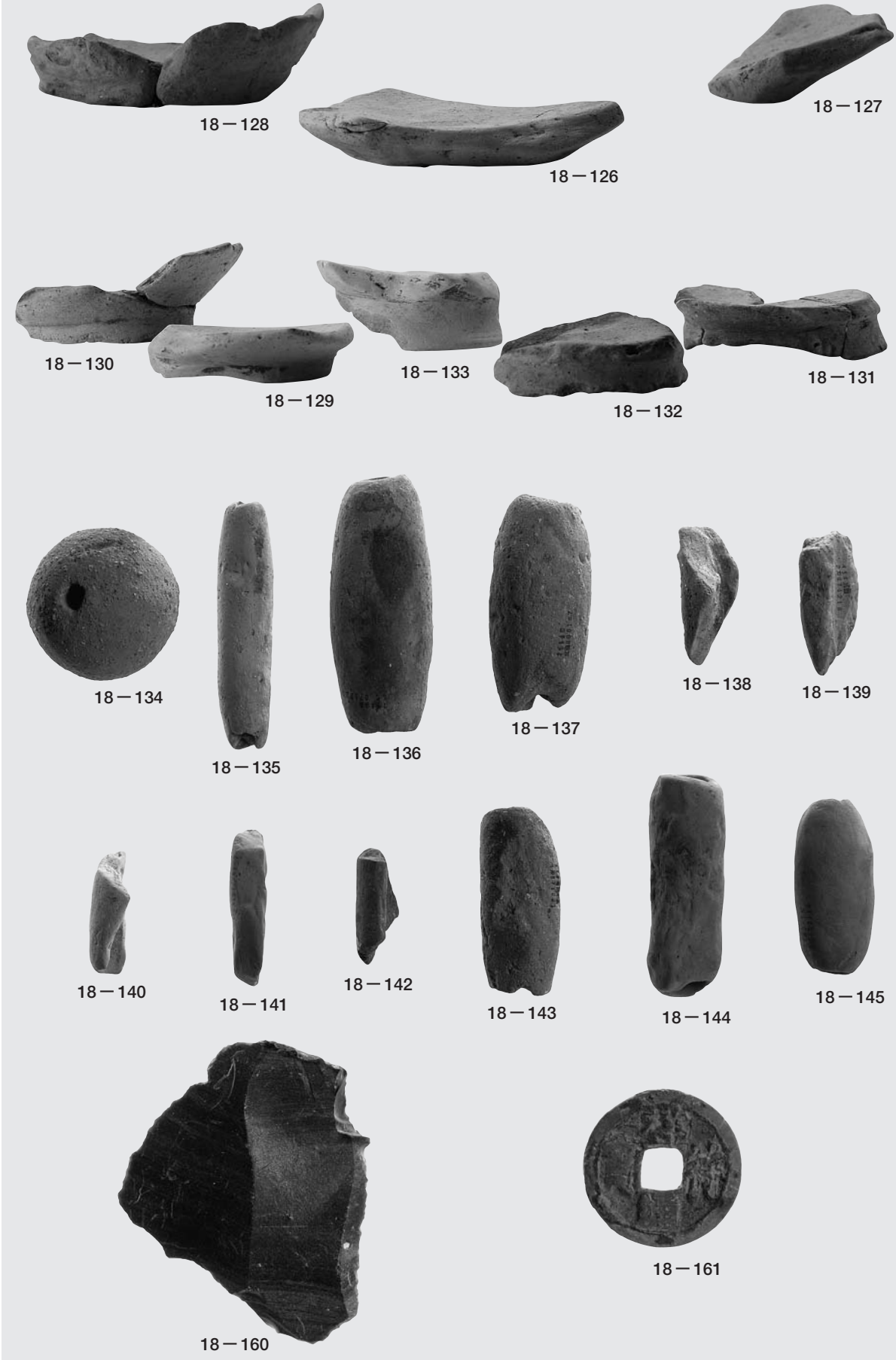
17－117

1.A区 遺構外出土遺物(8)

図版22

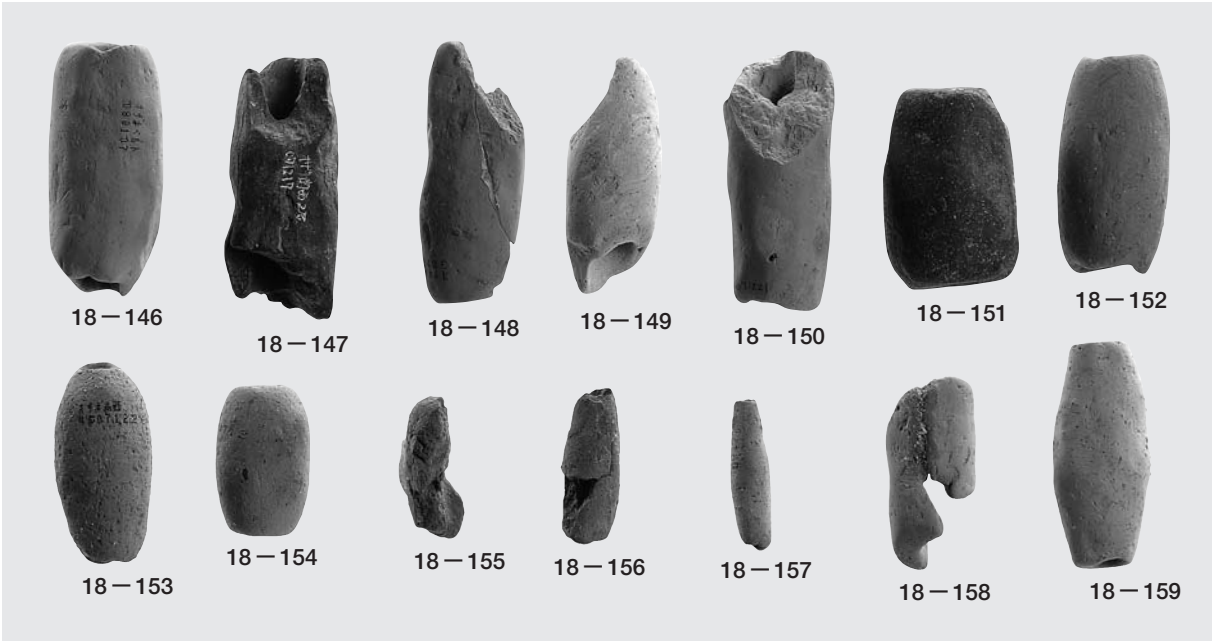


1.A区 遺構外出土遺物(9)

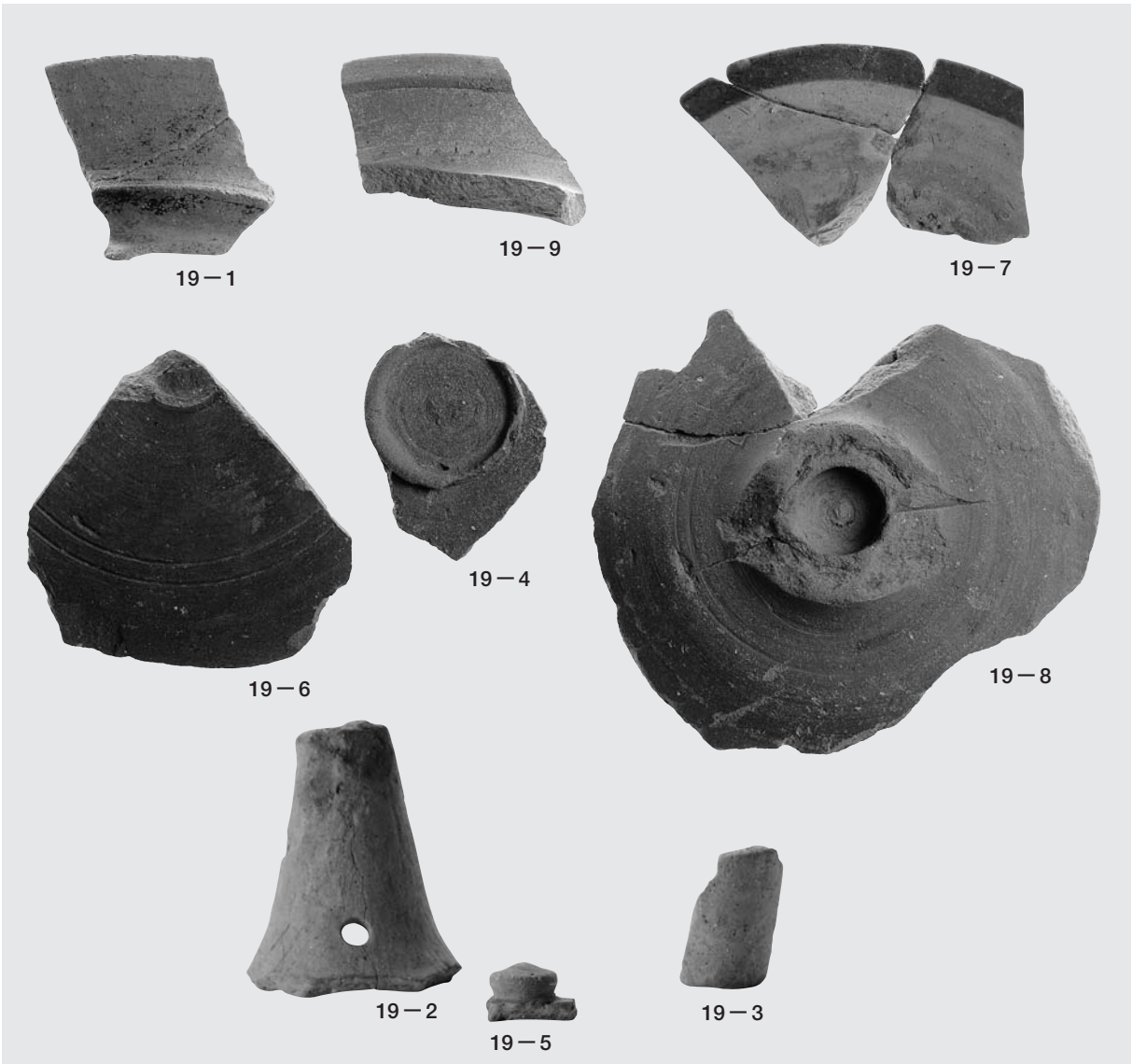


1.A区 遺構外出土遺物(10)

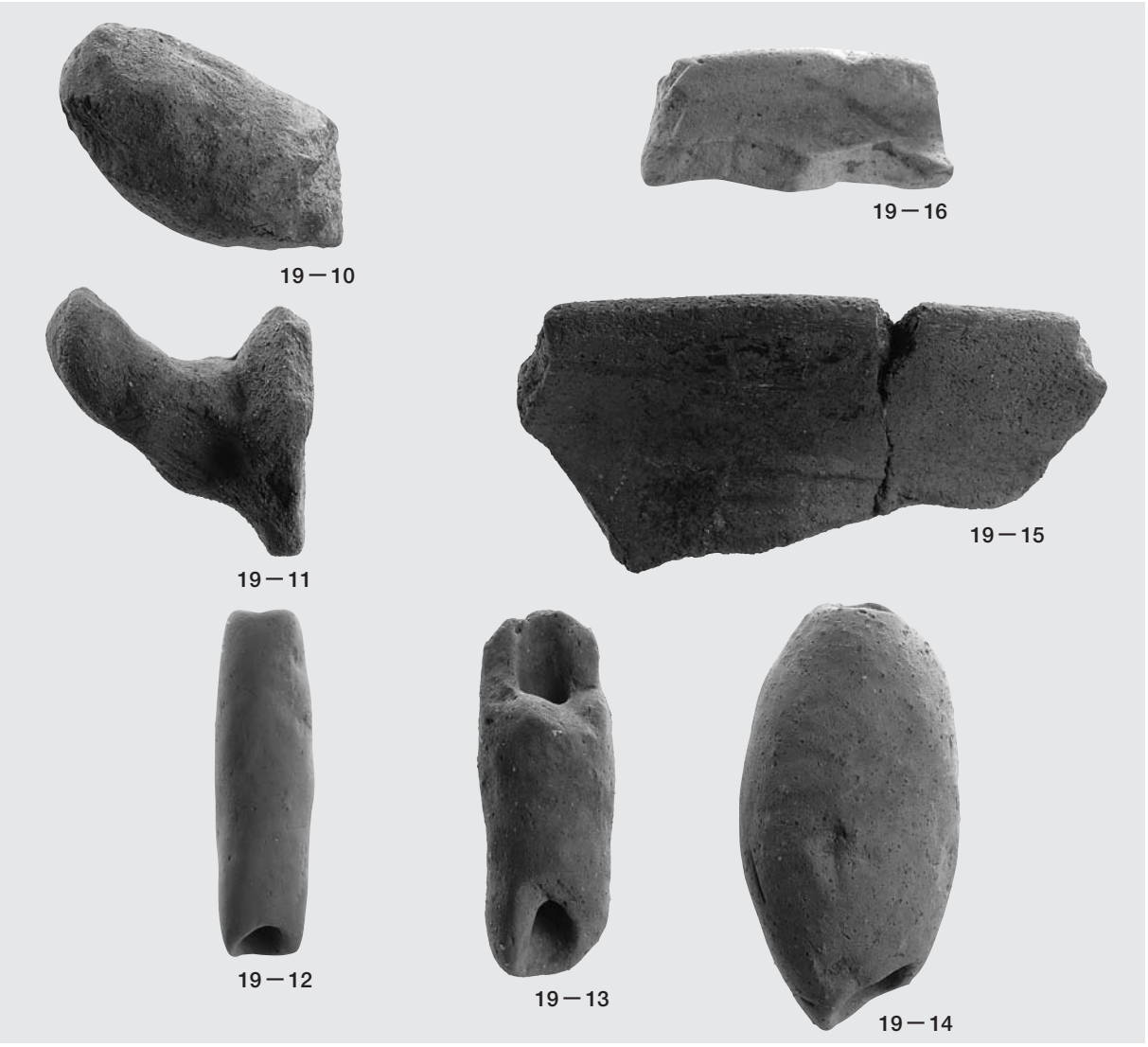
図版24



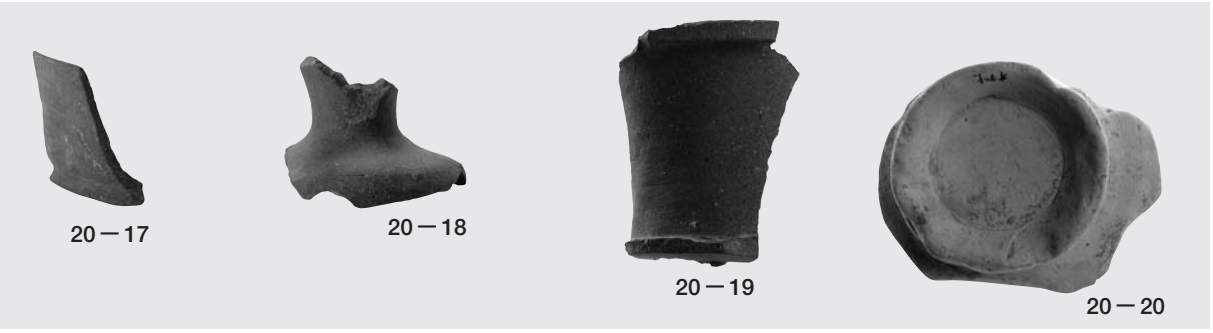
1.A区 遺構外出土遺物(11)



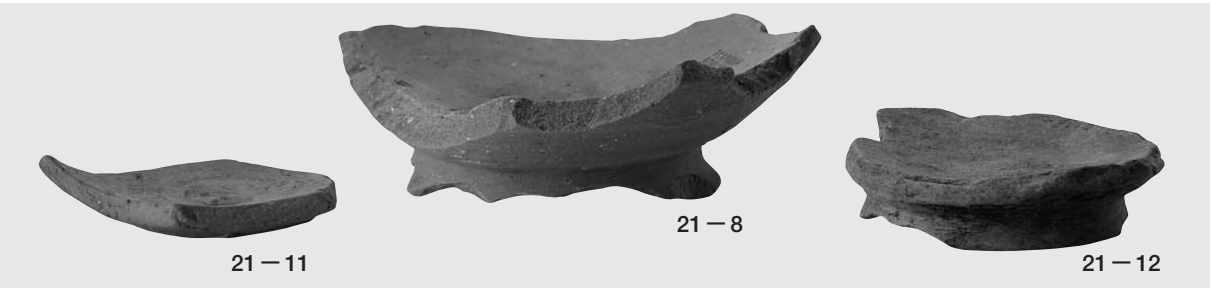
2.A区 拡張区出土遺物(1)



1.A区 拡張区出土遺物(2)



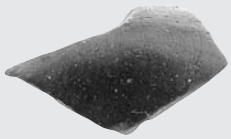
2.その他遺構外出土遺物

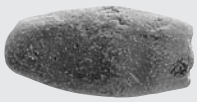


3.B区 遺構外出土遺物(1)

図版26

21－1


21－13


21－15

21－2

21－14

21－3

21－6

27－1

1.C区 加工段1出土遺物

21－5

21－9

21－4

21－7

21－10

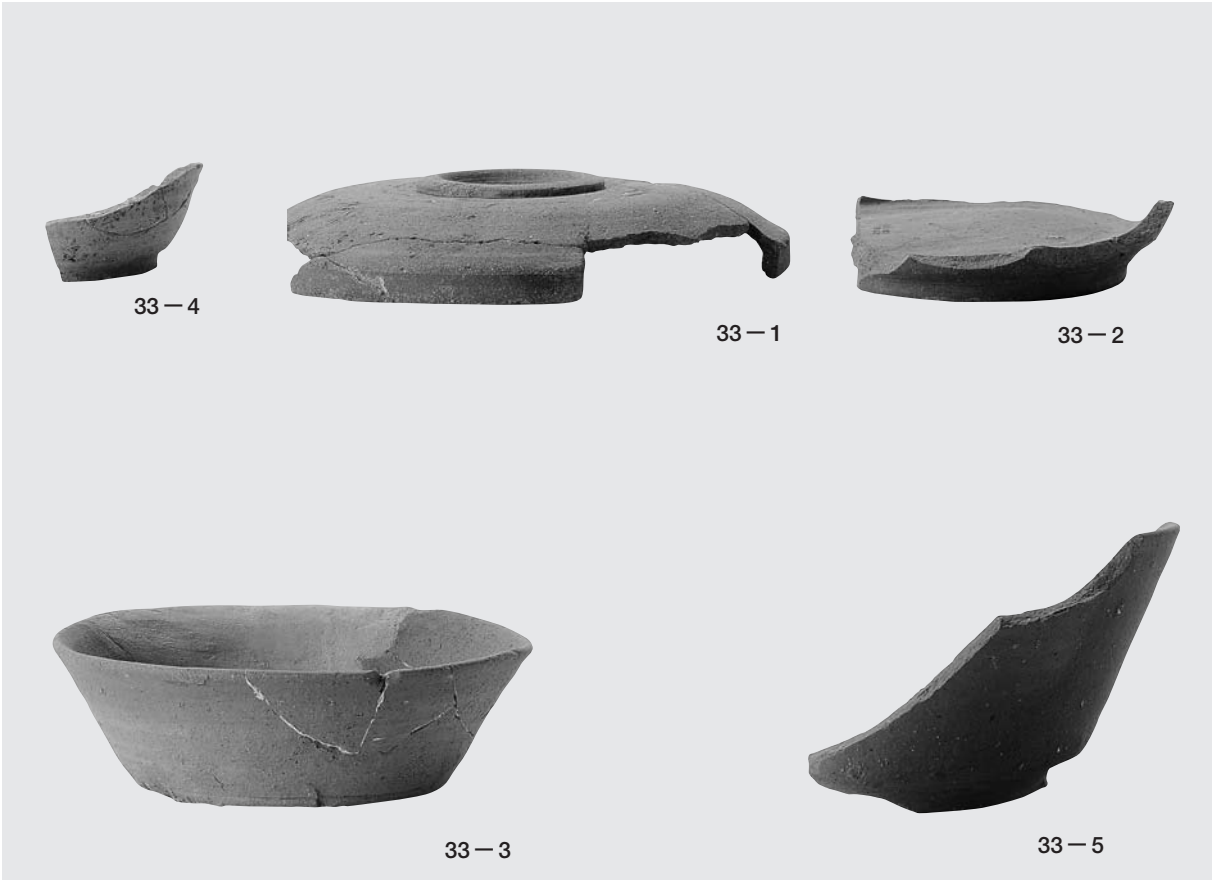
2.B区 遺構外出土遺物(2)

30－2

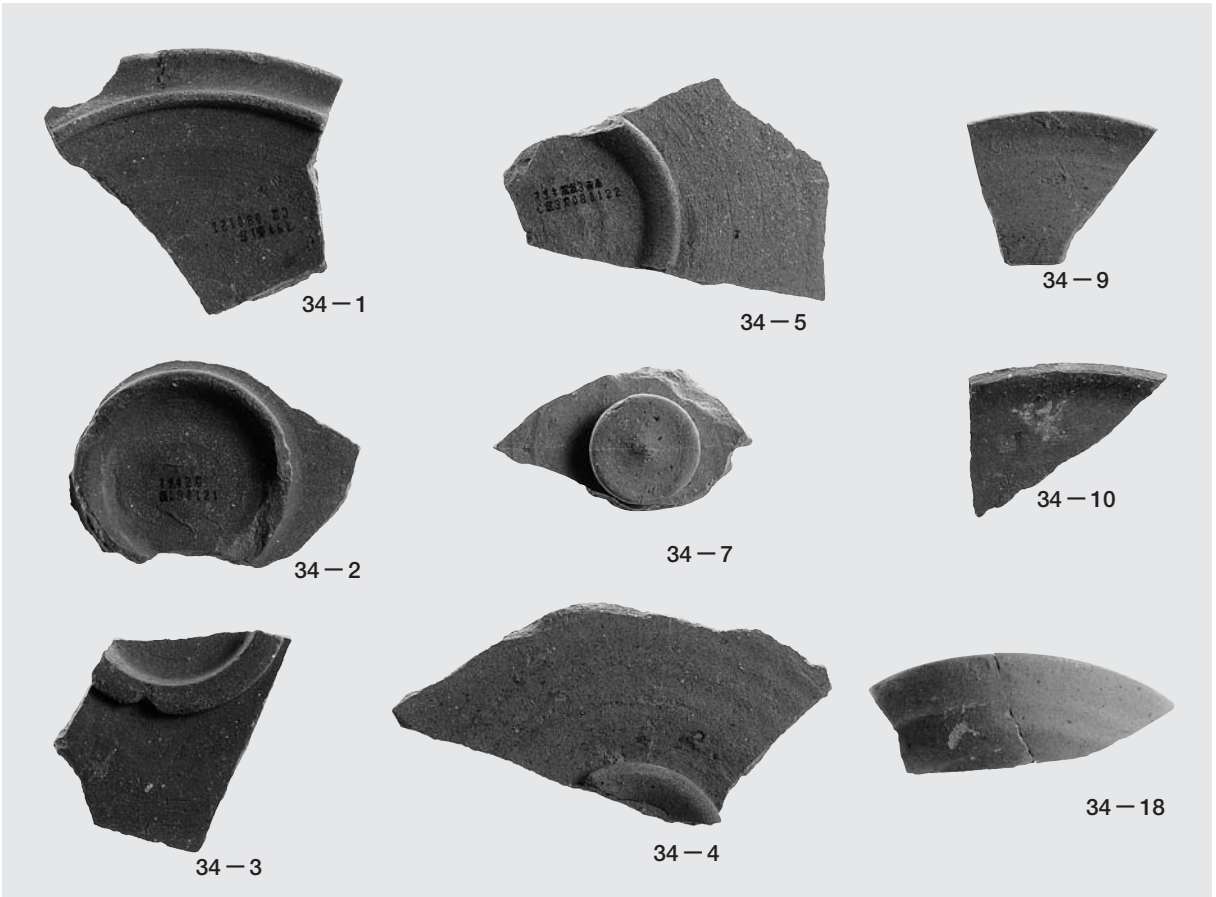
30－3

30－1

3.C区 加工段2出土遺物

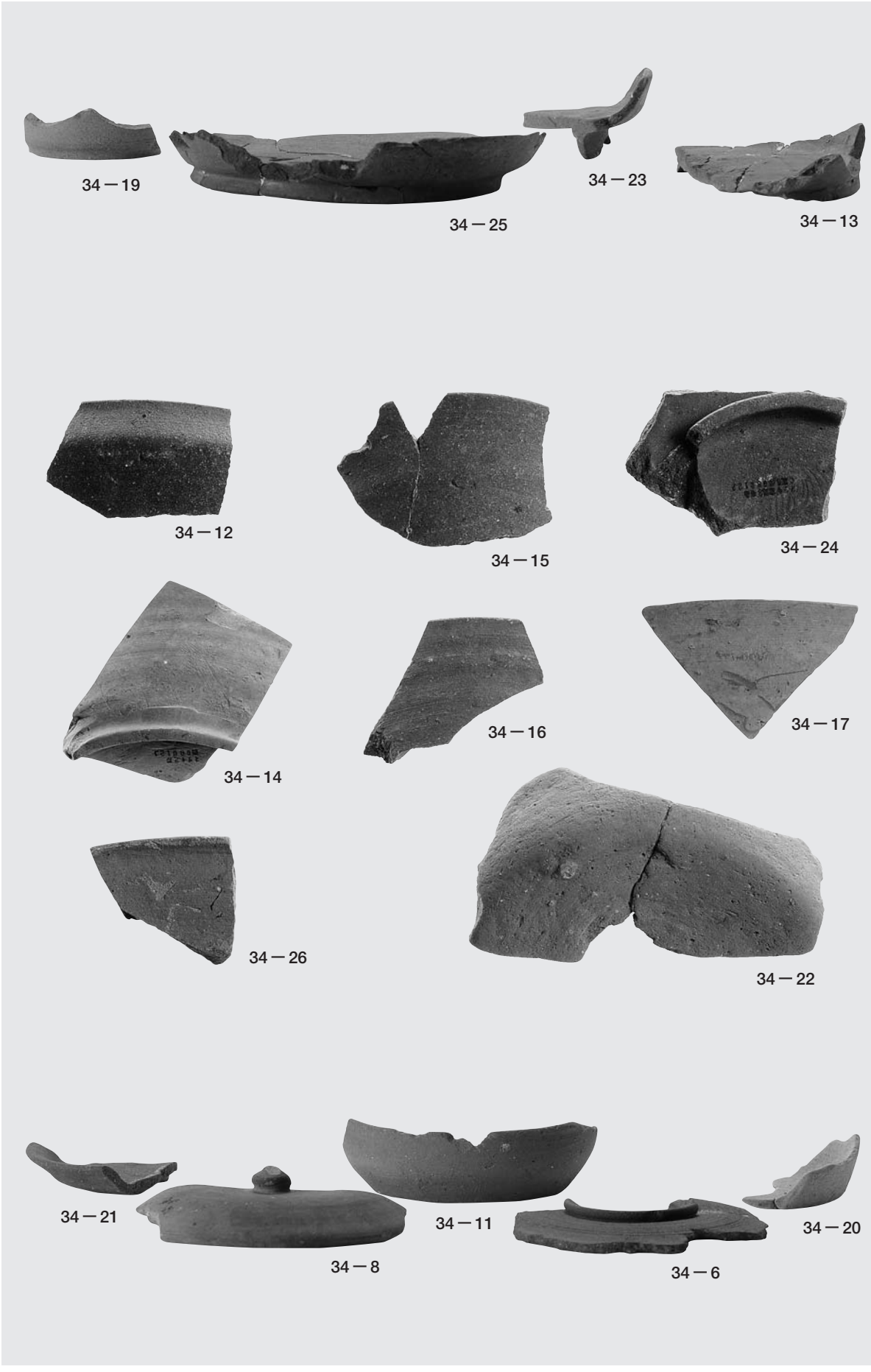


1.C区 土器溜り1出土遺物

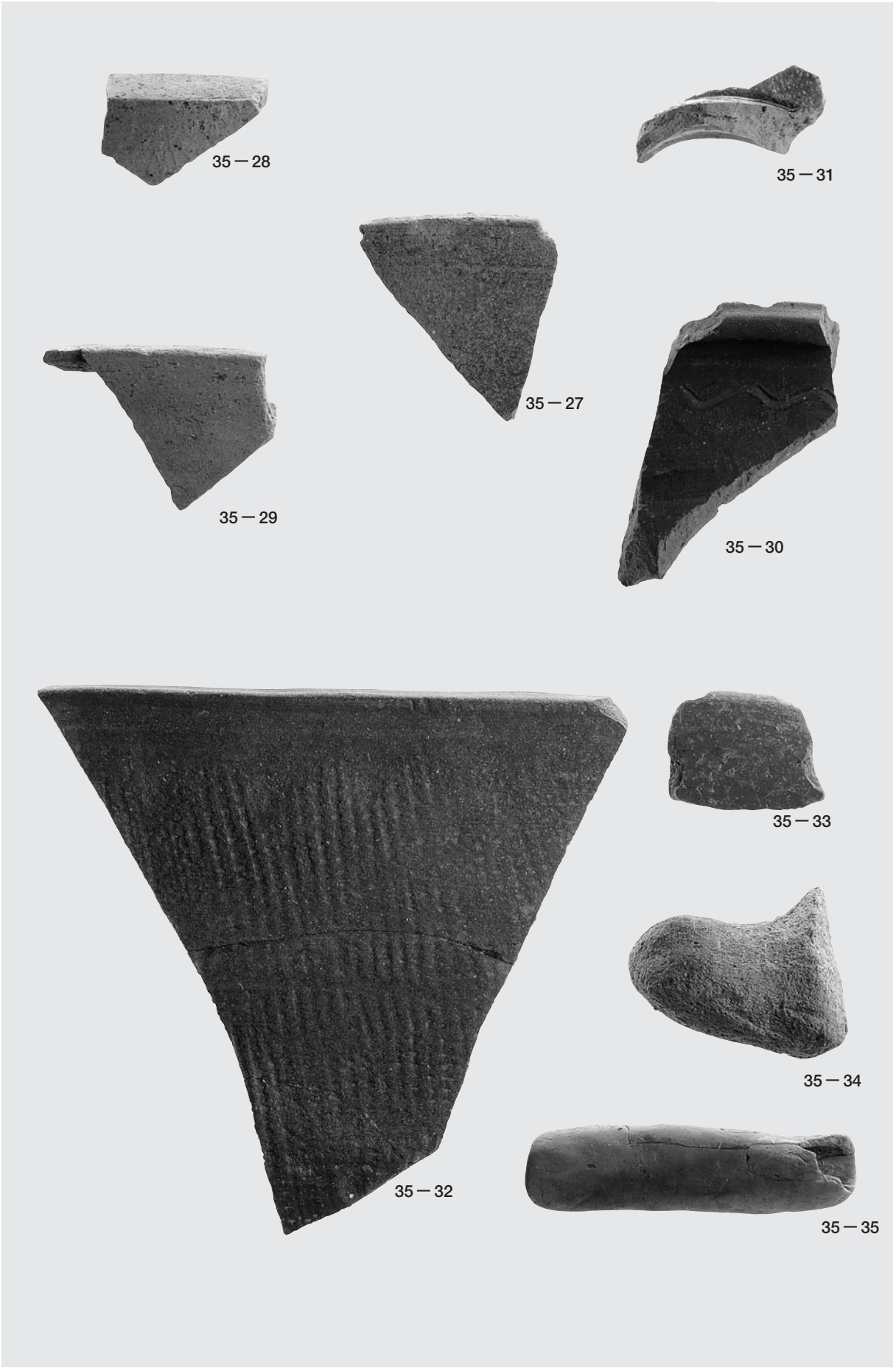


2.C区 遺構外出土遺物(1)

図版28



1.C区 遺構外出土遺物(2)



1.C区 遺構外出土遺物(3)

図版30

35－31

1.灰稲陶器

墨書土器□

11－18

墨書土器「□」

11－1

墨書土器「郷長」

12－19

墨書土器「門家」

15－69

墨書土器□」

2.墨書土器　16－101

3.須恵器蓋の頂部沈線　14－58

報告書抄録

フリガナ	オザキ　イセキ
書　　名	尾　崎　遺　跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	島根原子力発電所 耐震設計審査指針の改定に伴う地質調査にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	
編 集 者 名	平石　充
編 集 機 関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/
所　在　地	〒690－0131　島根県松江市打出町33番地　TEL：0852－36－8608（代） E-mail：maibun@pref.shimane.ig.jp
発行年月日	2009年3月31日

所収遺跡名	所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
尾崎遺跡（オザキイセキ）	島根県（シマネケン） 松江市（マツエシ） 美保関町（ミホノセキチョウ）	33201	I103	35度 32分 6.34秒	133度 11分 10.17秒	2007.12.10 ～ 2008.2.26	385m^2	電気等開発事業 地質調査

遺　跡　名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
尾崎遺跡	官衙 集落	弥生時代 奈良時代 平安時代 中世	溝3 加工段3 礎盤建物1 礎石柱穴1	弥生土器　土師器 須恵器　墨書土器 土錘　陶磁器	8世紀後半の須恵器が多量に出土した。このほか土錘33点が出土。水瓶・瓶子・托も少量出土する。墨書土器「郷長」「門家」出土。

要　　約	・弥生時代後期～古墳時代前期の遺物が出土した。 ・７世紀後半になると丘陵部に加工段が数度にわたって営まれた。この後、8世紀後半頃に、斜面谷側に盛土が行われ、その上から礎盤建物・礎石建物が造営された模様である。出土遺物は当該期の須恵器を中心とするが、ほかに土錘が多数出土する。また墨書土器「郷長」・「門家」が出土し遺構とあわせ拠点的施設が存在した可能性が高い。『出雲国風土記』記載の戸江剗、延喜式の門江神社との関係が注目される。

印刷仕様

紙質	表紙	レザック66四六判　175kg
	本文モノクロ	上質紙Ａ判 57.5kg
	本文２色	上質紙Ａ判 57.5kg
	写真図版	コート紙Ａ判 70.5kg
DTP	Windows XP	
画像原稿	階調画像線数　200線	

尾崎遺跡

発　行　2009年３月

発行者　島根県教育委員会
　　中国電力株式会社

編　集　島根県埋蔵文化財調査センター
　　〒690－0131　島根県松江市打出町33
　　TEL 0852－36－8608

印　刷　株式会社　報光社